

第Ⅰ部 大学院人文社会系研究科・文学部の概況

1. 大学院人文社会系研究科・文学部の沿革と機構

(1) 沿革

A 学部の沿革（年譜）

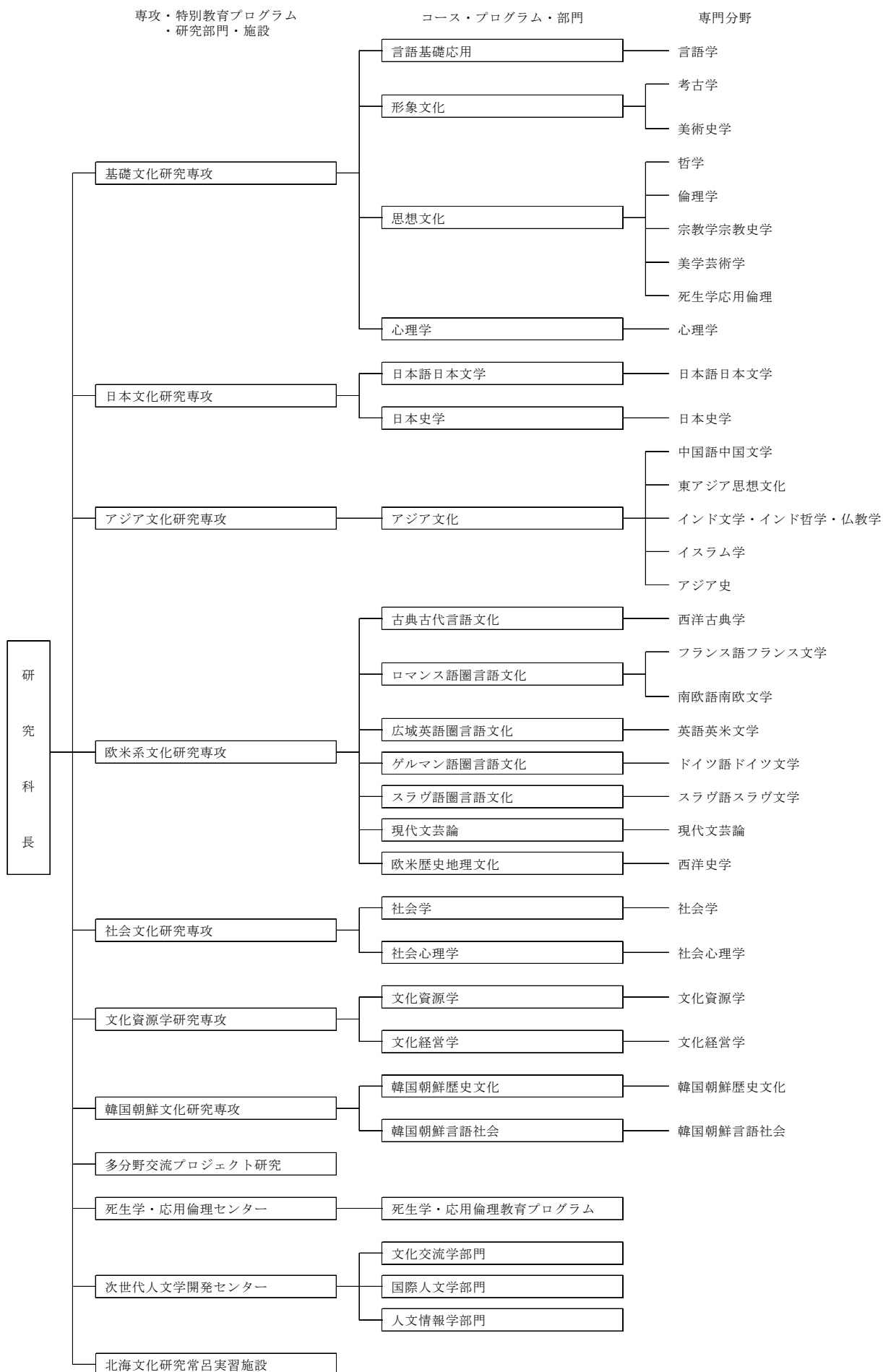
東京大学	文学部	明治10(1877), 4・東京大学設立	(2学科) 第一 史学, 哲学及政治学科 第二 和漢文学科
		明治12(1879), 9 《明治13(1880), 7・第1回卒業生8名》	「第一 史学, 哲学及政治学科」を『第一哲学政治学及理財学科』とする
		明治14(1881), 9	(3学科) 第一 哲学科 第二 政治学及理財学科 第三 和漢文学科
		明治18(1885), 12	(3学科) 第一 哲学科 第二 和文学科 第三 漢文学科 (政治学, 理財学は法政学部へ編入 法政学部は翌年法科大学となる)
帝国大学	文科大学	明治19(1886), 3・帝国大学令	(4学科) 『第四 博言学科』を増設
		明治20(1887), 9	(7学科) 第一 哲学科 第二 和文学科 第三 漢文学科 第四 史学科 第五 博言学科 第六 英文学科 第七 独逸文学科
		明治22(1889), 6	(8学科) 『国史科』を増設 「和文学科」を『国文学科』とする 「漢文学科」を『漢学科』とする
		明治22(1889), 12	(9学科) 『仏蘭西文学科』を増設
		明治28(1895), 4	史料編纂掛設置
東京帝国大学	文学部	明治33(1900), 6	「博言学科」を『言語学科』とする
		明治37(1904), 9	(3学科) 哲学科 史学科 文学科
		明治43(1910), 9	(3学科 19専修学科) 第一 哲学科—哲学, 支那哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 美学, 教育学, 社会学 第二 史学科—国史学, 東洋史学, 西洋史学 第三 文学科—国文学, 支那文学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学, 言語学
		大正6(1917), 9	「宗教学」を『宗教学宗教史』とする 「美学」を『美学美術史』とする
		大正8(1919), 4・帝国大学令改定(大正7(1918), 12・大学令制定にともない)	
		大正8(1919), 9	(19学科) 国文学, 国史学, 支那哲学, 支那文学, 東洋史学, 西洋史学, 哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学宗教史, 社会学, 教育学, 美学美術史, 言語学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学
		《大正10(1921), 4・学年暦変更「9月～7月」を「4月～3月」とする》	
		昭和4(1929), 7	史料編纂掛を史料編纂所と改称する
		昭和7(1932), 4 《昭和18(1943), 12・学徒出陣》	(17学科) 「支那哲学」「支那文学」を『支那哲学支那文学』とする 「印度哲学」「梵文学」を『印度哲学梵文学』とする
		昭和21(1946), 3	(3学科 21専修科) 哲学科—哲学, 支那哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 社会学, 教育学, 美学, 美術史学 史学科—国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学 文学科—言語学, 国文学, 支那文学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学
		《昭和21(1946), 4・女子学生9名入学》	能率研究室 航空研究所より移管
		昭和23(1948), 4	「支那哲学」を『中国哲学』とする 「支那文学」を『中国文学』とする
		昭和24(1949), 4	(19学科) 国文学, 国史学, 中国哲学, 中国文学, 東洋史学, 西洋史学, 哲学, 印度哲学梵文学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 社会学, 教育学, 美学美術史, 言語学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学, 考古学
		昭和25(1950), 4	「宗教学」を『宗教学宗教史学』とする 「美学美術史」を『美学美術史学』とする 史料編纂所が文学部附属から東京大学附置研究所となる
		昭和26(1951), 4 《昭和26(1951), 4・教養学部より第1回新制学生進学》	(18学科) 「教育学科」を廃止する (昭和24年教育学部設立にともなう措置)

東京大学	文学部	昭和38(1963), 4	(4類 21専修課程) 第一類(文 化 学)－哲学, 中国哲学, 印度哲学, 印度文学, 倫理学, 宗教学, 宗教史学, 美学, 美術史学 第二類(史 学)－国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学 第三類(語学文学)－言語学, 国語国文学, 中国語中国文学, 英語英米文学, ドイツ語ドイツ文学, フラン ス語フランス文学, 西洋近代語近代文学, 西洋古典学 第四類(心理学, 社会学)－心理学, 社会学
		昭和39(1964), 4	語学ラボラトリー設置
		昭和41(1966), 4	文化交流研究施設設置
		昭和42(1967), 4	第一類「美学」を『美学芸術学』とする
		昭和43(1968), 4	「第一類 美術史学」を『第二類 美術史学』とする
		昭和47(1972), 4	(4類 22専修課程) 『第三類 ロシア語ロシア文学』を増設
		昭和48(1973), 4	北海文化研究常呂実習施設設置
		昭和49(1974), 4	(4類 23専修課程) 『第四類 社会心理学』を増設
		昭和50(1975), 4	(4類 24専修課程) 第三類「国語国文学」を『国語学』『国文学』とする 「外国人留学生相談室」を開設
		昭和54(1979), 4	(4類 25専修課程) 『第三類 イタリア語イタリア文学』を増設 「第四類(心理学, 社会学)」を『第四類(行動学)』とする
		昭和57(1982), 4	(4類 26専修課程) 『第一類 イスラム学』を増設
		昭和59(1984), 9	語学ラボラトリーを視聴覚教育センターと改称する
		昭和60(1985), 4	「外国人留学生相談室」を「国際交流室」に改称する
		昭和63(1988), 4	(4類 27専修課程) 第一類「印度哲学・印度文学」を『第一類 印度哲学』『第三類 印度語印度文学』とする
		平成4(1992), 4	能率研究室を認知科学研究室に改称する
		平成5(1993), 4	文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門
		平成6(1994), 4	(4類 26専修課程) 第一類「中国哲学」, 「印度哲学」を『第一類 中国思想文化学』, 『第一類 インド哲学仏教学』に, 第二類「国史学」を『第二類 日本史学』に, 第三類「印度語印度文学」, 「ロシア語ロシア文学」, 「イタリア語 イタリア文学」を『第三類 インド語インド文学』, 『第三類 スラヴ語スラヴ文学』, 『第三類 南欧語南欧文学』とし, 第三類「国語学」, 「国文学」を『第三類 日本語日本文学』とする 文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門 東洋諸民族言語文化部門
		平成7(1995), 4	第一類(文 化 学)を『思想文化学科』に改称 第二類(史 学)を『歴史文化学科』に改称 第三類(語学文学)を『言語文化学科』に改称 第四類(行 動 学)を『行動文化学科』に改称
		平成19(2007), 4	思想文化学科「宗教学・宗教史学」を『宗教学宗教史学』に改称 言語文化学科「西洋近代語近代文学」を『現代文芸論』に改称
		平成28(2016), 4	4学科から1学科に改組 (現在1学科 26専修課程) 人文学科 哲学, 中国思想文化学, インド哲学仏教学, 倫理学, 宗教学宗教史学, 美学芸術学, イスラム学, 日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 美術史学, 言語学, 日本語日本文学, 中国語中国文学, インド語インド文学, 英語英米文学, ドイツ語ドイツ文学, フランス語フランス文学, スラヴ語スラヴ文学, 南欧語南欧文学, 現代文芸論, 西洋古典学, 心理学, 社会心理学, 社会学

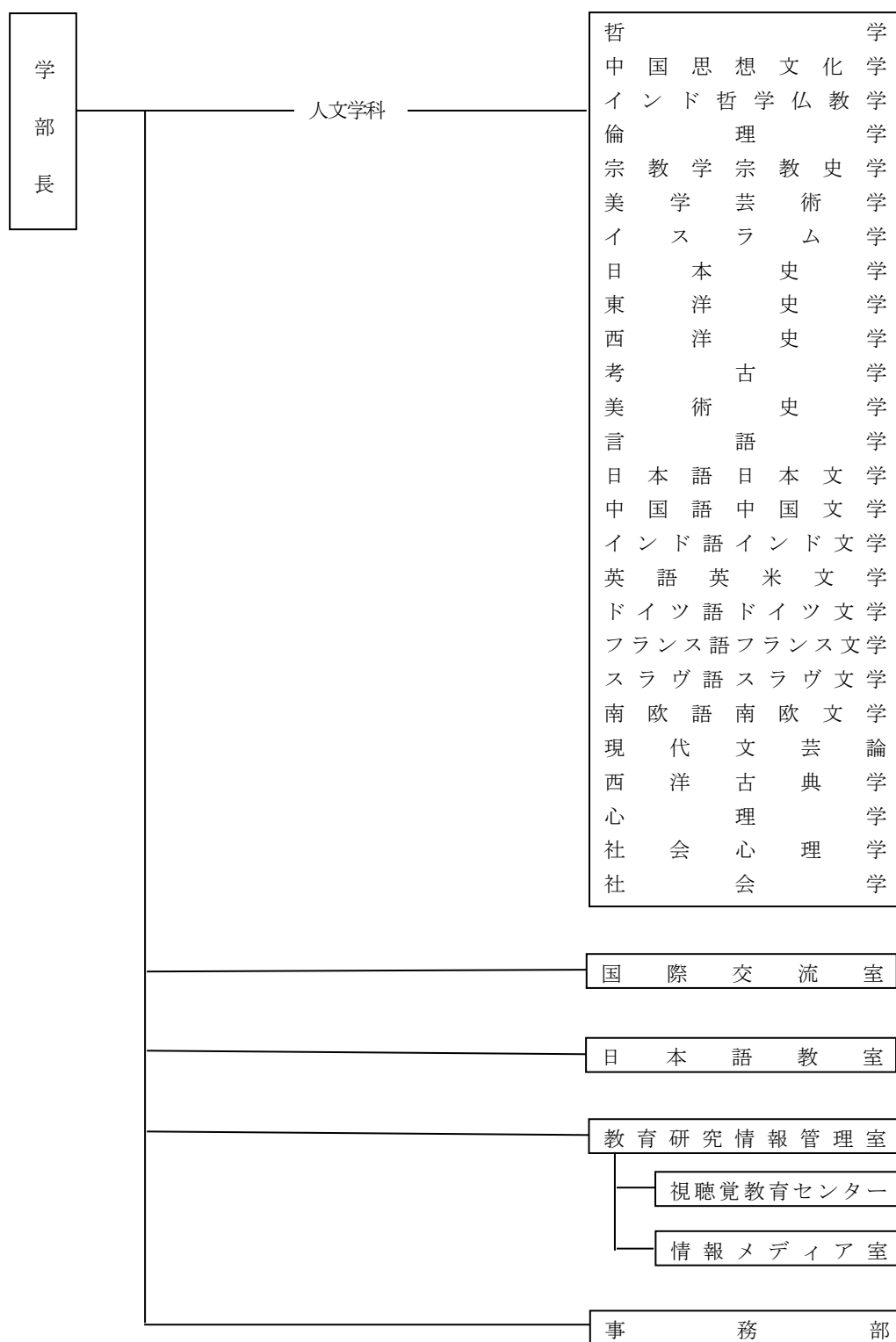
B 人文社会系研究科の沿革（年譜）

東京大学大学院	社会科学系研究科	昭和28(1953), 4 東京大学大学院（新制）設立	人文科学研究科（24専門課程） 国語国文学, 中国語中国文学, 西洋古典学, 英語英文学, 独語独文学, 仏語仏文学, 比較文学比較文化, 言語学, 国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 哲学, 中国哲学, 印度哲学, 倫理学, 宗教学宗教学史, 美学美術史学, 心理学, 教育学, 教育心理学, 学校教育学, 教育行政学, 体育学 社会科学系研究科（10専門課程） 公法, 民刑事法, 基礎法学, 政治, 国際関係論, 理論経済学経済史学, 応用経済学, 商業学, 農業経済学, 社会学
		昭和38(1963), 4 研究科の改編にともない, 教育学研究科, 法学政治学研究科, 経済学研究科, 社会学研究科設立	人文科学研究科（19専門課程） 国語国文学, 中国語中国文学, 西洋古典学, 英語英文学, 独語独文学, 仏語仏文学, 比較文学比較文化, 言語学, 国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 哲学, 中国哲学, 印度哲学, 倫理学, 宗教学宗教学史, 美学美術史学, 心理学 社会学研究科（2専門課程） 国際関係論, 社会学
	社会科学系研究科	昭和39(1964), 4	人文科学研究科（20専門課程） 美学美術史学専門課程を改組し, 『美学専門課程』, 『美術史学専門課程』設置
		昭和40(1965), 4	社会学研究科（3専門課程） 『文化人類学専門課程』設置
		昭和42(1967), 4	人文科学研究科（20専門課程） 「美学専門課程」を『美学芸術学専門課程』に改称
		昭和49(1974), 4	人文科学研究科（21専門課程） 『露語露文学専門課程』設置
		昭和51(1976), 4	社会学研究科（4専門課程） 『社会心理学専門課程』設置
		昭和58(1983), 4	人文科学研究科（20専門課程） 比較文学比較文化専門課程を総合文化研究科に振替 社会学研究科（3専門課程） 国際関係論専門課程を総合文化研究科に振替
		昭和60(1985), 4	人文科学研究科（20専門課程） 印度哲学専門課程を『印度哲学印度文学専門課程』に改称
		昭和62(1987), 4	専門課程を専攻に変更
		昭和63(1988), 4	社会学研究科（2専攻） 文化人類学専攻を総合文化研究科に振替
	人文社会系研究科	平成7(1995), 4 人文科学研究科と社会学研究科の合流による再編にともない, 人文科学研究科の『人文社会系研究科』への名称変更, 社会学研究科の廃止	人文社会系研究科（5専攻） 基礎文化研究専攻 日本文化研究専攻 アジア文化研究専攻 欧米系文化研究専攻 社会文化研究専攻 『多分野交流プロジェクト研究』の設置
		平成12(2000), 4	人文社会系研究科（6専攻） 『文化資源学研究専攻』設置
		平成14(2002), 4	人文社会系研究科（7専攻） 『韓国朝鮮文化研究専攻』設置
		平成16(2004), 4	文化交流研究施設 東洋諸民族言語文化部門を『基礎文化研究専攻・言語応用コース・言語動態学専門分野』に改組 社会文化研究専攻・社会情報学コース・社会情報学専門分野を情報学環に振替
		平成17(2005), 4	文化交流研究施設を改組し, 『次世代人文学開発センター』を設置
		平成19(2007), 4	欧米系文化研究専攻内に現代文芸論コース・現代文芸論専門分野を設置
		平成20(2008), 4	韓国朝鮮文化研究専攻を『韓国朝鮮歴史文化コース・韓国朝鮮歴史文化専門分野及び韓国朝鮮言語社会コース・韓国朝鮮言語社会専門分野』に改組
		平成21(2009), 4	『基礎文化研究専攻・言語基礎コース・言語学専門分野』と『基礎文化研究専攻・言語応用コース・言語動態学専門分野』を統合し, 『基礎文化研究専攻・言語基礎応用コース・言語学専門分野』に改組 アジア文化研究専攻を改組し, 『アジア文化研究専攻・アジア文化コース・中国語中国文学専門分野, 東アジア思想文化専門分野, インド文学・インド哲学・仏教学専門分野, イスラム学専門分野, アジア史専門分野』を設置
		平成23(2011), 4	『死生学・応用倫理センター』の設置
		平成27(2015), 4	『文化資源学研究専攻・形態資料学コース・形態資料学専門分野』と『文化資源学研究専攻・文字資料学コース・文書学専門分野』と『文化資源学研究専攻・文字資料学・文献学専門分野』を統合し, 『文化資源学研究専攻・文化資源学コース・文化資源学専門分野』に改組
		令和4(2022), 4	基礎文化研究専攻内に思想文化コース・死生学応用倫理専門分野を設置 (現在 7専攻) 基礎文化研究専攻 言語基礎応用コース（言語学） 形象文化コース（考古学, 美術史学） 思想文化コース（哲学, 倫理学, 宗教学宗教学史, 美学芸術学, 死生学応用倫理） 心理学コース（心理学） 日本文化研究専攻 日本語日本文学コース（日本語日本文学） 日本史学コース（日本史学） アジア文化研究専攻 アジア文化コース（中国語中国文学, 東アジア思想文化, インド文学・インド哲学・仏教学, イスラム学, アジア史） 欧米系文化研究専攻 古典古代言語文化コース（西洋古典学） ロマンス語圏言語文化コース（フランス語フランス文学, 南欧語南欧文学） 広域英語圏言語文化コース（英語英米文学） ゲルマン語圏言語文化コース（ドイツ語ドイツ文学） スラヴ語圏言語文化コース（スラヴ語スラヴ文学） 現代文芸論コース（現代文芸論） 欧米歴史地理文化コース（西洋史学） 社会文化研究専攻 社会学コース（社会学） 社会心理学コース（社会心理学） 文化資源学研究専攻 文化資源学コース（文化資源学） 文化経営学コース（文化経営学） 韓国朝鮮文化研究専攻 韓国朝鮮歴史文化コース（韓国朝鮮歴史文化） 韓国朝鮮言語社会コース（韓国朝鮮言語社会） 多分野交流プロジェクト研究 次世代人文学開発センター 死生学・応用倫理センター

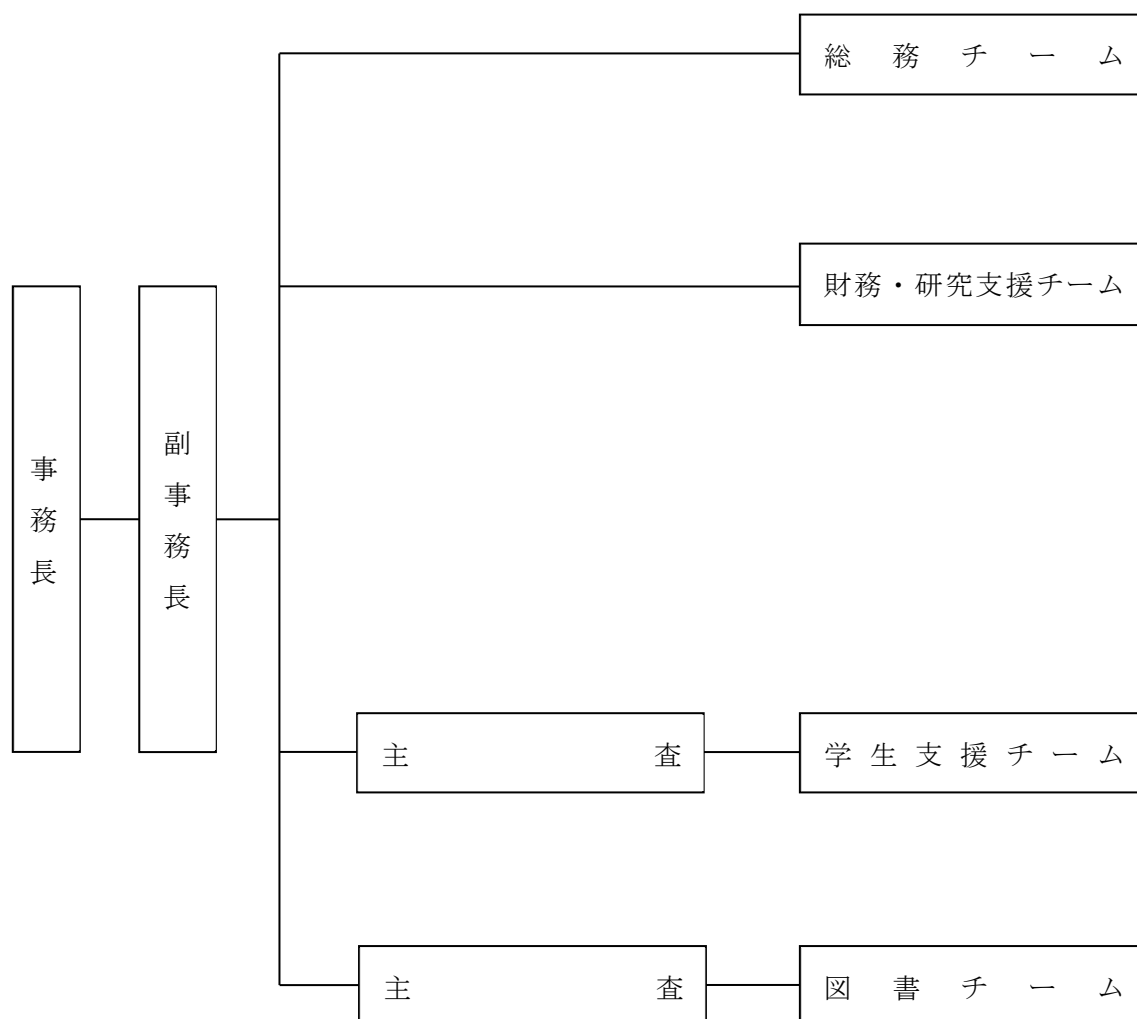
(2) 大学院人文社会系研究科の機構



(3) 文学部の機構



(4) 事務組織



(5) 施設・設備

(令和5(2023)年度現在)

法文1号館	建 築 年	昭和4(1929)・40(1965)	構 造 R3-1
		昭和51(1976)	構 造 R+1
		昭和55(1980)	構 造 S+1
	所有面積	3,964 m ²	総建物面積 10,723 m ²
法文2号館	建 築 年	昭和4(1929)・42(1967)	構 造 R4-1
		昭和51(1976)	構 造 R+1
		昭和56(1981)	構 造 S+1
	所有面積	12,857 m ²	総建物面積 16,103 m ²
文学部3号館	建 築 年	昭和62(1987)	構 造 R8-2
	所有面積	4,295 m ²	総建物面積 4,295 m ²
総合研究棟	建 築 年	平成7(1995)	構 造 R7
	所有面積	657 m ²	総建物面積 3,942 m ²
赤門総合研究棟	建 築 年	昭和40(1965)	構 造 R8-1
	所有面積	2,611 m ²	総建物面積 12,912 m ²
国際学術総合研究棟	建 築 年	平成29(2017)	構 造 R14-1
	所有面積	379 m ²	総建物面積 8,806 m ²

北海文化研究常呂実習施設

土地面積	所有	1,036 m ²	
	借用	7,911 m ²	
建 物	所有	車 庫	建 築 年 昭和41(1966)
			構 造 B1
			総建物面積 38 m ²
		資料保存センター	建 築 年 昭和43(1968)
			構 造 W2
			総建物面積 175 m ²
		新学生宿舎	建 築 年 平成15(2003)
借 用			構 造 R2
			総建物面積 338 m ²
		資 料 館	建 築 年 昭和42(1967)
			構 造 R3
			総建物面積 343 m ²
		研 究 棟	建 築 年 平成10(1998)
		(ところ埋蔵文化財センター)	構 造 R1
			総建物面積 868 m ²

2. 教育とその成果

(1) 入学と進学

A 学部への進学・学士入学等

令和4(2022)年文学部学生数					令和4(2022)年4月1日現在					令和5(2023)年文学部学生数					令和5(2023)年4月1日現在				
	2020以前	2021	2022	計		2021以前	2022	2023	計		2021以前	2022	2023	計					
	進 学 (学士・再入学・ 転所属含む)	進 学 (学士・再入学・ 転所属含む)	進 学 (学士・再入学・ 転所属含む)			進 学 (学士・再入学・ 転所属含む)	進 学 (学士・再入学・ 転所属含む)	進 学 (学士・再入学・ 転所属含む)			進 学 (学士・再入学・ 転所属含む)								
哲 学	25	19	18	62	哲 学	19	17	15	51	日本史	13	18	19	50					
中思文	0	0	1	1	中思文	0	1	0	1	東洋史	3	8	8	19					
印 哲	2	3	2	7	印 哲	3	2	3	8	西洋史	7	18	14	39					
倫 理	3	8	4	15	倫 理	6	4	2	12	考 古	3	2	4	9					
宗 教	6	14	16	36	宗 教	6	16	11	33	美術史	1	9	12	22					
美 学	13	28	31	72	美 学	14	30	38	82	計	27 (7)	55 (12)	57 (12)	139 (31)					
イ 学	0	1	1	2	イ 学	1	1	1	3	言 語	9	13	26	48					
計	49 (6)	73 (17)	73 (14)	195 (37)	計	49 (9)	71 (14)	70 (20)	190 (43)	国 語	4	13	12	29					
日本史	8	23	18	49	日本史	13	18	19	50	国 文	7	16	22	45					
東洋史	2	8	8	18	東洋史	3	8	8	19	中 文	3	0	2	5					
西洋史	6	17	18	41	西洋史	7	18	14	39	印 文	0	1	1	2					
考 古	7	4	2	13	考 古	3	2	4	9	英 文	5	19	16	40					
美術史	5	6	9	20	美術史	1	9	12	22	独 文	1	1	2	4					
計	28 (4)	58 (9)	55 (12)	141 (25)	計	27 (7)	55 (12)	57 (12)	139 (31)	仏 文	2	9	7	18					
言 語	11	20	15	46	言 語	9	13	26	48	スラヴ	0	1	1	2					
国 語	3	6	13	22	国 語	4	13	12	29	南欧文	1	3	1	5					
国 文	9	24	16	49	国 文	7	16	22	45	現 文	3	7	5	15					
中 文	1	5	0	6	中 文	3	0	2	5	西 古	2	2	2	6					
印 文	1	0	1	2	印 文	0	1	1	2	計	37 (8)	85 (23)	97 (29)	219 (60)					
英 文	4	20	19	43	英 文	5	19	16	40	心 理	6	23	23	52					
独 文	1	2	2	5	独 文	1	1	2	4	社 心	3	20	22	45					
仏 文	3	3	9	15	仏 文	2	9	7	18	社 会	10	50	48	108					
スラヴ	0	0	1	1	スラヴ	0	1	1	2	計	19 (8)	93 (33)	93 (35)	205 (76)					
南欧文	0	2	3	5	南欧文	1	3	1	5	合 計	132 (32)	304 (82)	317 (96)	753 (210)					
現 文	1	6	7	14	現 文	3	7	5	15										
西 古	2	1	2	5	西 古	2	2	2	6										
計	36 (4)	89 (29)	88 (24)	213 (57)	計	37 (8)	85 (23)	97 (29)	219 (60)										
心 理	6	23	23	52	心 理	6	23	23	52										
社 心	2	20	20	42	社 心	3	20	22	45										
社 会	10	50	50	110	社 会	10	50	48	108										
計	18 (5)	93 (37)	93 (33)	204 (75)	計	19 (8)	93 (33)	93 (35)	205 (76)										
合 計	131 (19)	313 (92)	309 (83)	753 (194)	合 計	132 (32)	304 (82)	317 (96)	753 (210)										

転所属は、当該年度に転学部・転専修課程した学生数。()は、女子で内数。※計のみ

B 学士入学試験の実施状況

専修課程	入学年度		専修課程	入学年度	
	2023年	2024年		2023年	2024年
哲 学	1 4	0 6	中 文	0 1	0 2
中思文	0 1	1 2	印 文	1 1	0 0
印 哲	0 3	0 4	独 文	0 3	0 1
倫 理	0 2	0 2	仏 文	0 2	1 2
宗 教	0 3	2 6	スラヴ	0 1	1 4
美 学	0 6	1 7	南欧文	1 1	0 1
イ 学	0 0	0 1	現 文	1 3	0 0
美術史	0 2	0 6	西古典	1 2	0 0
合 計			合 計		
			5 35		
			6 44		

凡例
合格者数
出願者数

日本史、東洋史、西洋史、考古、言語、国語、国文、英文、心理、社心、社会は募集なし

C 大学院への入・進学

令和4(2022)年度 大学院学生数

(注) ()内は女性、○数字は外国人を示し、内数

専攻	コース	専門分野	修 士 課 程				博 士 課 程				
			2022年	2021年	2020年以前	計	2022年	2021年	2020年	2019年以前	計
基礎文化研究	言語基礎応用	言 語 学	2	5	1	8	4	6	5	5	20
	形象文化	考 古 学	4	3		7		3	4	2	9
		美 術 史 学	4	3	2	9	3	1	2	9	15
	思想文化	哲 学	6	3	6	15	3	3	1	10	17
		倫 理 学		4	1	5	2	1	1	1	5
		宗教学宗教史学	5	5	7	17	1	7	4	10	22
		美学芸術学	5	5	4	14	1	3		7	11
		死生学応用倫理	2			2	3				3
	心理学	心 理 学	5	2	2	9		2	1	1	4
専攻 計		33 (15) ⑥	30 (8) ④	23 (9) ②	86 (32) ⑫	17 (7) ③	26 (8) ④	18 (8) ④	45 (23) ⑩	106 (46) ⑮	
日本文化研究	日本語日本文学	日本語日本文学	9	10	8	27	2	10	1	10	23
	日本史学	日 本 史 学	10	5	2	17	8	7	3	11	29
	専攻 計		19 (8) ①	15 (4) ②	10 (2)	44 (14) ③	10 (2) ③	17 (4) ②	4 (2)	21 (10) ⑥	52 (18) ⑪
アジア文化研究	アジア文化	中国語中国文学	6	2	2	10	2			7	9
		東アジア思想文化	2	3		5	6	2	4	5	17
		インド文学・インド哲学・仏教学	2	4	1	7	1	2	2	10	15
		イスラム学	1			1	1		1	3	5
		アジア史	2	2	1	5	2	1	6	6	15
	専攻 計		13 (6) ⑦	11 (4) ⑤	4 (2) ①	28 (12) ⑬	12 (3) ⑧	5 ①	13 (6) ⑨	31 (10) ⑨	61 (19) ⑰
欧米系文化研究	古典古代言語文化	西洋古典学	3	5	2	10	1	1		6	8
	ロマンス語圏言語文化	フランス語フランス文学	6	7	6	19	1	3	1	11	16
		南欧語南欧文学		2		2				3	3
	広域英語圏言語文化	英語英米文学	4	2	4	10	5		3	9	17
	ゲルマン語圏言語文化	ドイツ語ドイツ文学	1	2	2	5	3	1	3	9	16
	スラヴ語圏言語文化	スラヴ語スラヴ文学	1	3	1	5	2	1		4	7
	現代文芸論	現代文芸論	6	8	4	18	3	4	3	13	23
	欧米歴史地理文化	西洋史学	7	5	4	16	4	4	1	14	23
	専攻 計		28 (7) ⑥	34 (7) ③	23 (9) ①	85 (23) ⑩	19 (7) ⑦	14 (3) ②	11 (4) ①	69 (27) ③	113 (41) ⑥
社会文化研究	社会学	社 会 学	6	8	6	20	7	3	4	13	27
	社会心理学	社会心理学	5	5	1	11	1	1	2	2	6
	専攻 計		11 (2) ③	13 (5) ②	7 (4) ③	31 (11) ⑧	8 (2) ①	4 (2) ①	6 (3) ②	15 (5) ③	33 (12) ⑦
文化資源学研究	文化資源学	文化資源学	1	3	1	5	1	1	2	2	6
	文化経営学	文化経営学	6	3	2	11	1	4	1	4	10
	専攻 計		7 (2)	6 (6)	3 (2)	16 (10)	2 (1)	5 (3) ①	3 (2)	6 (6) ①	16 (12) ②
韓国朝鮮文化研究	韓国朝鮮歴史文化	韓国朝鮮歴史文化		1		1				1	1
	韓国朝鮮言語社会	韓国朝鮮言語社会	2	6	2	10	1	2	4	7	14
	専攻 計		2 (2) ①	7 (4) ②	2 ①	11 (6) ④	1 ①	2 (2) ②	4 (1) ②	8 (6) ⑤	15 (9) ⑩
合 計			113 (42) ⑮	116 (38) ⑮	72 (28) ⑧	301 (108) ⑤①	69 (22) ⑮	73 (22) ⑮	59 (26) ⑮	195 (87) ⑮	396 (157) ⑮

令和5(2023)年度 大学院学生数

(注)()内は女性、○数字は外国人を示し、内数

専攻	コース	専門分野	修 士 課 程				博 士 課 程				
			2023年	2022年	2021年以前	計	2023年	2022年	2021年	2020年以前	計
基礎文化研究	言語基礎応用	言 語 学	6	2	2	10	2	4	6	6	18
	形象文化	考 古 学	3	4	1	8	1		2	5	8
		美 術 史 学	3	4	1	8	1	1	1	8	11
	思想文化	哲 学	7	6	2	15	3	3	3	6	15
		倫 理 学	2		2	4	1	2	1	1	5
		宗教学宗教史学	2	5	2	9	6	1	7	12	26
		美学芸術学	4	5	1	10	4	1	3	5	13
		死生学応用倫理	1	2		3		3			3
	心理学	心 理 学	4	5		9	1		2	1	4
	専攻 計		32 (8) (9)	33 (15) (6)	11 (3) (1)	76 (26) (16)	19 (5) (1)	15 (6) (3)	25 (8) (4)	44 (22) (11)	103 (41) (19)
日本文化研究	日本語日本文学	日本語日本文学	15	9	4	28	6	2	10	5	23
	日本史学	日 本 史 学	9	10	2	21	5	8	7	7	27
	専攻 計		24 (9) (4)	19 (8) (1)	6 (1) (1)	49 (18) (6)	11 (4) (2)	10 (2) (3)	17 (4) (2)	12 (4) (2)	50 (14) (9)
アジア文化研究	アジア文化	中国語中国文学	3	6	3	12	2	2		4	8
		東アジア思想文化	2	2	1	5	6	6	2	7	21
		インド文学・インド哲学・仏教学	1	2	2	5	2	1	2	9	14
		イスラム学	2	1		3		1		2	3
		アジア史	10	2	1	13	2	2	1	10	15
	専攻 計		18 (4) (4)	13 (6) (7)	7 (3) (5)	38 (13) (16)	12 (7) (6)	12 (3) (8)	5 (1)	32 (11) (14)	61 (21) (23)
欧米系文化研究	古典古代言語文化	西洋古典学	2	3	2	7	3	1	1	4	9
	ロマンス語圏言語文化	フランス語フランス文学	2	6	4	12	5	1	2	10	18
		南欧語南欧文学	1		1	2				3	3
	広域英語圏言語文化	英語英米文学	2	4	3	9		5		6	11
	ゲルマン語圏言語文化	ドイツ語ドイツ文学	4	1	2	7	1	3	1	11	16
	スラヴ語圏言語文化	スラヴ語スラヴ文学		1	3	4	1	2	1	3	7
	現代文芸論	現代文芸論	5	6	7	18	3	3	4	12	22
	欧米歴史地理文化	西洋史学	5	7	4	16	3	4	4	11	22
	専攻 計		21 (8) (2)	28 (7) (6)	26 (4) (3)	75 (19) (11)	16 (6)	19 (7)	13 (3) (2)	60 (22) (3)	108 (38) (5)
社会文化研究	社会学	社 会 学	7	6	4	17	3	7	3	12	25
	社会心理学	社会心理学	7	5		12	3	1	1	1	6
	専攻 計		14 (7) (1)	11 (2) (3)	4 (1)	29 (10) (4)	6 (4) (2)	8 (2) (1)	4 (2) (1)	13 (5) (4)	31 (13) (8)
文化資源学 研究	文化資源学	文化資源学	3	1	1	5	1	1		2	4
	文化経営学	文化経営学	7	5	1	13	1	1	4	3	9
	専攻 計		10 (5)	6 (2)	2 (1)	18 (8)	2 (2)	2 (1)	4 (2) (1)	5 (4)	13 (9) (1)
韓国朝鮮文化研究	韓国朝鮮歴史文化	韓国朝鮮歴史文化	1			1				1	1
	韓国朝鮮言語社会	韓国朝鮮言語社会	3	2	4	9	1	1	1	9	12
	専攻 計		4 (2) (1)	2 (2) (1)	4 (3) (1)	10 (7) (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1) (1)	10 (6) (5)	13 (7) (8)
合 計		123 (43) (21)	112 (42) (24)	60 (16) (11)	295 (101) (56)	67 (28) (12)	67 (21) (16)	69 (20) (12)	176 (74) (39)	379 (143) (79)	

(2) 教育の成果

A 大学院の学位取得状況

学位取得者数

	2022 年度		2023 年度	
	修士	博士	修士	博士
人文社会系研究科	120	41 (1)	107	43 (2)

()はいわゆる論文博士で内数

B 学部卒業生の進路

令和4(2022)年3月卒業生進路状況

項 目 専 修 課 程	卒業生総 数	進学者			就職者					その他
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	
文学部全体	330 (97)	68 (18)	4 (2)	72 (20)	192 (54)	18 (7)	12 (6)	3 (1)	225 (68)	64 (18)

各学科内訳

(思想文化学科)

項 目 専 修 課 程	卒業生総 数	進学者			就職者					その他
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	
哲学	10	5		5	2	1			3	4
中国思想文化学	2				2				2	
インド哲学仏教学	3	1		1	2				2	
倫理学	7				6				6	2
宗教学宗教史学	16	3	1	4	8	2		1	11	2
美学芸術学	28	5		5	19		1		20	6
イスラム学	1				1				1	
(思想文化学科 計)	67 (15)	14 (2)	1 (1)	15 (3)	40 (9)	3 (1)	1	1	45 (10)	14 (4)

(歴史文化学科)

項 目 専 修 課 程	卒業生総 数	進学者			就職者					その他
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	
日本史学	20	10		10	6	1	1		8	4
東洋史学	11	2	1	3	5	2			7	2
西洋史学	21	4		4	14	3			17	
考古学	4	2		2	2				2	
美術史学	10	3		3	5	1			6	2
(歴史文化学科 計)	66 (17)	21 (5)	1	22 (5)	32 (7)	7 (4)	1		40 (11)	8 (2)

(言語文化学科)

項 目 専 修 課 程	卒業生総 数	進学者			就職者					その他
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	
言語学	27	3	1	4	13	1	2		16	14
日本語日本文学(国語学)	5	1		1	3		1		4	
日本語日本文学(国文学)	22	4		4	13	1	2	1	17	2
中国語中国文学	1				1				1	
インド語インド文学										
英語英米文学	29	4		4	18		4		22	5
ドイツ語ドイツ文学	1	1		1						
フランス語フランス文学	8	3		3	2				2	6
スラヴ語スラヴ文学	3	1		1	2				2	
南欧語南欧文学										
現代文芸論	6				5	1			6	
西洋古典学	4	2		2				1	1	2
(言語文化学科 計)	106	19 (5)	1 (1)	20 (6)	57 (13)	3 (1)	9 (5)	2 (1)	71 (20)	29 (8)

(行動文化学科)

項 目 専 修 課 程	卒業生総 数	進学者			就職者					その他
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	
心理学	21	6	1	7	9	2			11	6
社会心理学	22	4		4	15		1		16	3
社会学	48	4		4	39	3			42	4
(行動文化学科 計)	91 (35)	14 (6)	1	15 (6)	63 (25)	5 (1)	1 (1)		69 (27)	13 (4)

()内は、女子で内数

令和5(2023)年3月卒業生進路状況

項 目 専 修 課 程	卒業生総 数	進学者			就職者					その他
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	
文学部全体	308 (79)	66 (11)	3	69 (11)	201 (58)	11 (6)	1	3 (1)	216 (65)	42 (6)

各学科内訳

(思想文化学科)

項 目 専 修 課 程	卒業生総 数	進学者			就職者					その他
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	
哲学	24	8	2	10	8	1		1	10	6
中国思想文化学										
インド哲学仏教学	2	1		1						2
倫理学	5	2		2	3				3	
宗教学宗教史学	13	3	1	4	8				8	2
美学芸術学	27	4		4	19	1		1	21	4
イスラム学										
(思想文化学科 計)	71 (14)	18 (2)	3	21 (2)	38 (9)	2 (1)		2 (1)	42 (11)	14 (2)

(歴史文化学科)

項 目 専 修 課 程	卒業生総 数	進学者			就職者					その他
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	
日本史学	18	8		8	7	1			8	3
東洋史学	7	1		1	5				5	1
西洋史学	15	2		2	12	1			13	
考古学	8	2		2	4				4	4
美術史学	10	2		2	6				6	4
(歴史文化学科 計)	58 (6)	15 (1)		15 (1)	34 (5)	2			36 (5)	12

(言語文化学科)

項 目 専 修 課 程	卒業生総 数	進学者			就職者					その他
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	
言語学	22	4		4	15			1	16	4
日本語日本文学(国語学)	5				3	2			5	
日本語日本文学(国文学)	26	9		9	15	1			16	2
中国語中国文学	3	2		2		1			1	
インド語インド文学	1				1				1	
英語英米文学	17	1		1	14		1		15	2
ドイツ語ドイツ文学	3				3				3	
フランス語フランス文学	4				4				4	
スラヴ語スラヴ文学										
南欧語南欧文学	1	1		1						
現代文芸論	4				3				3	2
西洋古典学	1									2
(言語文化学科 計)	87 (25)	17 (4)		17 (4)	58 (19)	4 (2)	1	1	64 (21)	12

(行動文化学科)

項 目 専 修 課 程	卒業生総 数	進学者			就職者					その他
		大学院	専修・外国	計	企業	官庁	教育	その他	計	
心理学	23	7		7	14	1			15	2
社会心理学	19	5		5	13	1			14	
社会学	50	4		4	44	1			45	2
(行動文化学科 計)	92 (34)	16 (4)		16 (4)	71 (25)	3 (3)			74 (28)	4 (3)

()内は、女子で内数※計のみ

C 学部卒業生の就職状況

令和4(2022)年3月卒業生

業 種 専 修 課 程	印刷 出版	新聞	放送	広告	情報 通信	コンサル タ	金融 保険	商社 流通	建築 不動産	運輸 郵便	製造	サービス エネルギー	教育	官公庁	その他
文学部全体	12 (5)	7 (1)	9 (3)	10 (4)	43 (13)	23 (5)	28 (8)	7 (2)	8 (3)	5	20 (2)	17 (7)	3 (1)	12 (6)	18 (7) 3 (1)

(思想文化学科)

業 種 専 修 課 程	印刷 出版	新聞	放送	広告	情報 通信	コンサル タ	金融 保険	商社 流通	建築 不動産	運輸 郵便	製造	サービス エネルギー	教育	官公庁	その他
哲学					1						1			1	
中国思想文化学					1							1			
インド哲学仏教学											1	1			
倫理学	1				3				1		1				
宗教学宗教史学			1		1	2	2	1			1			2	1
美学芸術学	4	1	1		7	1	1		1			3	1		
イスラム学		1													
(思想文化学科 計)	5 (1)	2	2 (1)		13 (3)	3 (1)	3 (1)	1	2 (1)		4	5 (1)	1	3 (1)	1

(歴史文化学科)

業 種 専 修 課 程	印刷 出版	新聞	放送	広告	情報 通信	コンサル タ	金融 保険	商社 流通	建築 不動産	運輸 郵便	製造	サービス エネルギー	教育	官公庁	その他
日本史学					2		3		1				1	1	
東洋史学	1				1			1			1			2	
西洋史学			2		1	1	6	1	1	1	1			3	
考古学					1							1			
美術史学				1	2	1					1			1	
(歴史文化学科 計)	1 (1)		2 (1)	1	7 (1)	2	9 (1)	2 (1)	2 (1)	1	3 (1)	1	1	7 (4)	

(言語文化学科)

業 種 専 修 課 程	印刷 出版	新聞	放送	広告	情報 通信	コンサル タ	金融 保険	商社 流通	建築 不動産	運輸 郵便	製造	サービス エネルギー	教育	官公庁	その他
言語学	1		1	1	2	1	3		1	1		2	2	1	
日本語日本文学(国語学)					1	1			1				1		
日本語日本文学(国文学)	2	1			3	2	1			1	2	1	2	1	1
中国語中国文学						1									
インド語インド文学															
英語英米文学			1	3	2	2	2	1		1	6		4		
ドイツ語ドイツ文学															
フランス語フランス文学						1	1								
スラヴ語スラヴ文学					1	1									
南欧語南欧文学															
現代文芸論				1	2	1	1							1	
西洋古典学															1
(言語文化学科 計)	3 (1)	1	2	5 (2)	11 (5)	10 (2)	8 (1)	1	2	3	8	3 (2)	9 (5)	3 (1)	2 (1)

(行動文化学科)

業 種 専 修 課 程	印刷 出版	新聞	放送	広告	情報 通信	コンサル タ	金融 保険	商社 流通	建築 不動産	運輸 郵便	製造	サービス エネルギー	教育	官公庁	その他
心理学	1				2	2	1	1			1	1		2	
社会心理学	2	1		2	1	4	1	1		1	1	1	1		
社会学		3	3	2	9	2	6	1	2		3	6	2	3	
(行動文化学科 計)	3 (2)	4 (1)	3 (1)	4 (2)	12 (4)	8 (2)	8 (5)	3 (1)	2 (1)	1	5 (1)	8 (4)	2 (1)	5 (1)	

()内は、女子で内数

令和5(2023)年3月卒業生

業 種 専 修 課 程	印刷 出版	新聞	放送	広告	情報 通信	コンサル タ	金融 保険	商社 流通	建築 不動産	運輸 郵便	製造	サービス エネルギー	教育	官公庁	その他
文学部全体	9 (5)	1 (1)	3 (1)	7 (3)	47 (9)	20 (5)	38 (11)	15 (7)	6 (2)	9 (2)	14 (6)	21 (6)	3	9	11 (6) 3 (1)

(思想文化学科)

業 種 専 修 課 程	印刷 出版	新聞	放送	広告	情報 通信	コンサル タ	金融 保険	商社 流通	建築 不動産	運輸 郵便	製造	サービス エネルギー	教育	官公庁	その他
哲学	1				4		1		1			1		1	1
中国思想文化学															
インド哲学仏教学															
倫理学					1			1				1			
宗教学宗教史学					3	1	1		1			1	1		
美学芸術学	1		1	3	6	3	2	1				2		1	1
イスラム学															
(思想文化学科 計)	2 (1)		1	3 (2)	14 (2)	4 (1)	4 (1)	2 (2)	2			5	1	2 (1)	2 (1)

(歴史文化学科)

業 種 専 修 課 程	印刷 出版	新聞	放送	広告	情報 通信	コンサル タ	金融 保険	商社 流通	建築 不動産	運輸 郵便	製造	サービス エネルギー	教育	官公庁	その他
日本史学	1					1	1	2	1		1			1	
東洋史学							2			1	2				
西洋史学				1	3	1	3			1		2		1	
考古学					1			1				1		1	
美術史学					3			1		1	1				
(歴史文化学科 計)	1			1	7 (2)	2 (1)	6 (1)	4 (1)	1	3	4	3		2	2

(言語文化学科)

業 種 専 修 課 程	印刷 出版	新聞	放送	広告	情報 通信	コンサル タ	金融 保険	商社 流通	建築 不動産	運輸 郵便	製造	サービス エネルギー	教育	官公庁	その他
言語学	1				6	1	1	1			2	2	1		1
日本語日本文学(国語学)								1			1			2	
日本語日本文学(国文学)	1				2	1	3	2		1		4	1	1	
中国語中国文学														1	
インド語インド文学					1										
英語英米文学				1	1	4	4	2	1		1		1		
ドイツ語ドイツ文学					1	1						1			
フランス語フランス文学					1		3								
スラヴ語スラヴ文学															
南欧語南欧文学															
現代文芸論	1				2										
西洋古典学															
(言語文化学科 計)	3 (2)			1	14 (3)	7 (2)	11 (2)	6 (3)	1 (1)	1	4 (1)	7 (5)	1	3	4 (2) 1

(行動文化学科)

業 種 専 修 課 程	印刷 出版	新聞	放送	広告	情報 通信	コンサル タ	金融 保険	商社 流通	建築 不動産	運輸 郵便	製造	サービス エネルギー	教育	官公庁	その他
心理学				1		2	5	2			1	2		1	1
社会心理学	2				6		1			1	1		1	1	
社会学	1	1	2	1	6	5	11	1	2	4	4	3	2	1	1
(行動文化学科 計)	3 (2)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	12 (2)	7 (1)	17 (7)	3 (1)	2 (1)	5 (2)	6 (5)	6 (1)	2	3	3 (3)

()内は、女子で内数

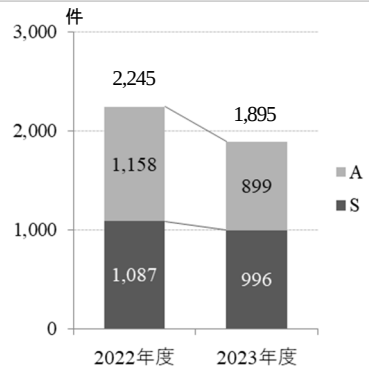
D 授業改善への取り組み

2009 年度より研究科・文学部の取り組みとして、専任および非常勤教員と各研究室の協力を得て、授業改善アンケートを実施している。集計作業は、教育研究情報管理室が行なっている。

2020 年度以降、オンライン授業への対応から、UTAS のアンケート機能で回答する方式とし、2020 年度 A セメスターからは全授業のアンケートを実施している。質問項目も状況に合わせ適宜変更した。自由記述を除く結果は、下記の通りである。

なお、ここでは研究科・文学部全体の集計結果のみを掲載する。

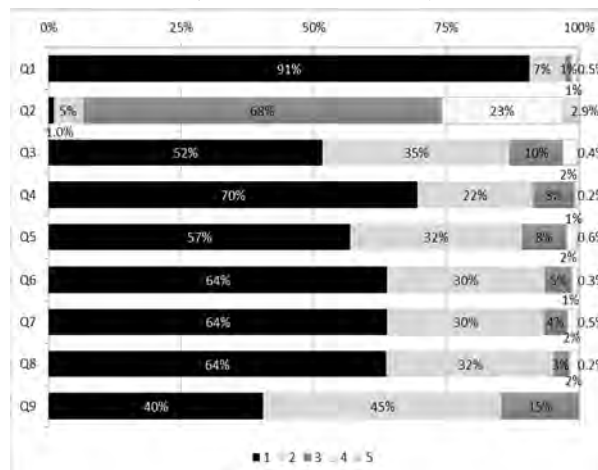
2022-23 年度 アンケート回答総数



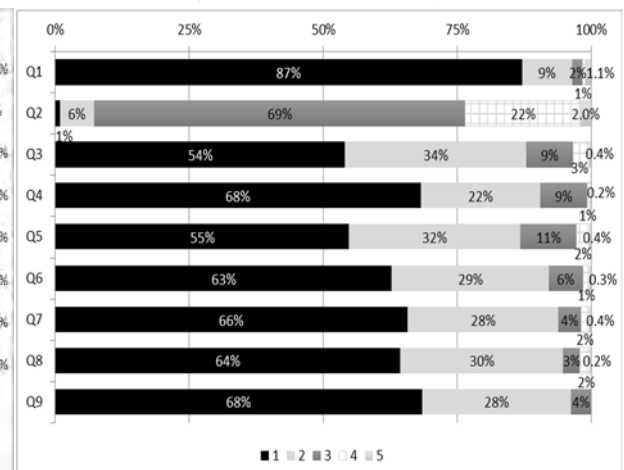
授業改善アンケート質問項目 (2023 年度)

- [Q1] あなたはこの授業にどれくらい出席しましたか？
 1- 80%以上 2- 79%～60% 3- 59～40% 4- 39%～20% 5- 20%未満
- [Q2] あなたにとって授業の難易度はどうですか？
 1- 易しすぎる 2- やや易しい 3- ちょうどよい 4- やや難しい 5- 難しすぎる
- [Q3] 授業中、議論・質問の機会は適切に与えられていると思いますか？
 1- 非常に適切である 2- 適切である 3- どちらでもない 4- あまり適切でない 5- まったく適切でない
- [Q4] 授業中の質問に対する先生の対応はどうですか？
 1- 大変熱心である 2- 概ね熱心である 3- 普通である 4- あまり熱心でない 5- 不熱心である
- [Q5] 教員の講義技術（説明の仕方や板書など）について、どう思いますか？
 1- 非常に優れている 2- 優れている 3- どちらでもない 4- 劣っている 5- 非常に劣っている
- [Q6] 授業はよく準備・計画されていると思いますか？
 1- とてもよく準備されている 2- よく準備されている 3- どちらでもない 4- やや準備不足である 5- 準備不足である
- [Q7] 授業を受講して、この授業がテーマとする分野への問題意識や関心は深まりましたか？
 1- 大いに深まった 2- やや深まった 3- どちらでもない 4- あまり深まらなかった 5- まったく深まらなかった
- [Q8] 授業を受講して、新たな知識や知力が身についたと感じますか？
 1- 非常に感じる 2- やや感じる 3- どちらでもない 4- あまり感じない 5- まったく感じない
- [Q9] この授業は以下のどの形で参加しましたか。
 1- 対面のみ 2- 対面+オンライン 3- オンラインのみ
- [Q10] オンライン・ハイブリッド授業の授業方法、Zoom 会議の設定などに関して、オンライン授業という形式で実施されたことに由来する改善要望やその他意見、感想があれば自由に記入して下さい。【自由記述式 400 文字以内】
- [Q11] 問 10 以外に、授業方法、設備などに関する改善要望や、その他意見、感想があれば自由に記入してください。【自由記述式 400 文字以内】

2022 年度 S+A セメスター 回答傾向



2023 年度 S+A セメスター 回答傾向



E 後期教養教育科目

総合的教育改革では、1、2年生だけにとどまらない学部4年間を通しての後期教養教育の実施を構想してきた。現代の人間はさまざまな制約を受けている。日本語しか知らなければ、他言語の思考が日本語の思考とどのように異なるのか考えることができない。ある分野の専門家になっても、他分野のことを全く知らないと、目の前の大事な課題について他分野のひとと効果的な協力をすることができない。これらの制約から解放たれて自由になるための知識や技法が、リベラルアーツである。これまで東京大学では前期課程の2年間で教養教育をおこなってきたが、教養教育は、専門課程にすすんだあとと続くべきものである。自分とは異なる分野を学び異なる価値観をもつ他者と出会うことによって、自らの専門が今の社会でどのような位置づけにあり、他領域とどう連携できるかに気づけるのである。そのためには、古典を読む、別分野の最先端の研究に触れる、詩にふれる、比較してみる、などさまざまな形が必要である。このようなリベラルアーツにおいては、専門分野、言語、国籍、所属の境界を横断して複数の領域や文化を行き来することになり、よりダイナミックな思考が必要とされるであろう。たとえば他学部聴講は、出講学部のバックグラウンドをもつ学生のなかに、他学部のバックグラウンドをもつ少数の学生、つまりアウェイの学生が入ることである。そのアウェイの学生は、ホームの学部とアウェイの学部を往復することで、自らの専門性を相対化することができる。また学問の世界と現実の課題、あるいは専門的知性と市民的知性との間の往復は、自らの研究成果が社会のなかにどう取り込まれ展開されるのか想像する能力を涵養する。これは研究倫理を支える基盤ともなる。このように、自分とは異なる専門や価値観をもつ他者と対話しながら、自分の価値観を柔軟に組み換えるリベラルアーツ教育を、後期課程のなかで展開するのが後期教養科目である。本学部では、2015年から後期教養科目の設立に参加し、初年度は53科目を当該科目として登録し、2021年度以降は90科目を提供している。また、2019年度からは大学院生の後期教養科目が新たに設定された。2021年度には43科目が、2022年度以降は68科目が開講され、大学院生による広い知の展望への期待に応えている。

2022年度後期教養教育科目開講一覧（学部）

科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目	科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目
研究倫理入門	医療者の歴史と倫理	鈴木 晃仁	○	中国語学概論	中国語学概論	佐々木 勲人	○
死生学概論	死生学の射程	堀江 宗正	○	中国語学中国文学演習Ⅳ	古典詩文入門	齋藤 希史	
死生学特殊講義Ⅰ	臨床死生学・倫理学の諸問題Ⅲ	会田 薫子		中国語学中国文学演習Ⅵ	中国近現代文学を読む	鈴木 将久	
死生学特殊講義Ⅱ	臨床死生学・倫理学の諸問題Ⅳ	会田 薫子		印度語学概論Ⅰ	サンスクリット文法(1)	梶原 三恵子	
死生学特殊講義Ⅲ	臨床死生学特論	会田 薫子		印度語学概論Ⅱ	サンスクリット文法(2)	梶原 三恵子	
死生学特殊講義Ⅳ	共感とケアの哲学	早川 正祐		印度文学史概説Ⅰ	インド古代中世文学・文献案内	伊澤 敦子	
死生学特殊講義Ⅴ	自律についての関係的なアプローチ：現代行状論：自由論の一展開	早川 正祐		印度文学史概説Ⅱ	インド哲学文献概論	高橋 晃一	
死生学特殊講義Ⅵ	認識をめぐる不正義と責任：現代認識論の一展開	早川 正祐		フランス語学概論Ⅰ	フランス語学概論Ⅰ	杉山 利恵子	
死生学特殊講義Ⅶ	死生学をめぐる偶然と確率の問題	乗立 雄輝		フランス語学概論Ⅱ	フランス語学概論Ⅱ	杉山 利恵子	
死生学特殊講義Ⅷ	死と不安の社会学	澤井 敦		フランス語学概論Ⅲ	フランス語学概論Ⅲ	王寺 賢太	
死生学特殊講義Ⅸ	死生学をめぐる実存哲学の諸問題	古荘 真敬		スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅱ	スラヴ語学入門	木村 謙朗・クリストフ	○
死生学特殊講義Ⅹ	死生学入門	堀江 宗正		スラヴ語学言語文化	ロシア語史	丸山 由紀子	○
死生学演習Ⅰ	病いの語りをめぐる倫理	早川 正祐		スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅱ	旧ソ連東欧の映像と文学	福岡 求美	
死生学演習Ⅱ	死生学基礎文獻講読	池澤 優		スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅳ	ブルガリア語入門	Marchoev Milen	
死生学演習Ⅲ	患者の歴史と倫理Ⅰ	鈴木 晃仁		スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅴ	ロシア・ソ連小説評論読解(1)	福岡 求美	
応用倫理概論	応用倫理入門	池澤 優		スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅵ	ロシア・ソ連小説評論読解(2)	福岡 求美	
応用倫理特殊講義Ⅰ	技術時代の倫理——ハイデガー哲学の視点から	轟 孝夫	○	スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅶ	ポーランドの言語と文化	福岡 千穂	
応用倫理特殊講義Ⅱ	都市の環境倫理	吉永 明弘		スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅷ	ウクライナの多様な文化を学ぶ(1)	福岡 求美	
応用倫理特殊講義Ⅲ	食と場所の環境倫理	福永 真弓		スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅸ	ウクライナ語入門	Petrychenko Iryna	
応用倫理特殊講義Ⅳ	現象学的な質的研究の方法——ヤングケアラーへのインタビュー調査などをとらえ	村上 靖彦		スラヴ語学スラヴ文学特殊講義Ⅹ	ソ連文学諸般	福岡 求美	
応用倫理特殊講義Ⅴ	マイノリティの環境史／倫理学	北條 勝貴		スラヴ語学スラヴ文学演習Ⅳ	ロシア文化史	福岡 求美	
応用倫理特殊講義Ⅵ	医療者の歴史と倫理	鈴木 晃仁		スラヴ語学スラヴ文学演習Ⅵ	ウクライナの多様な文化を学ぶ(2)	福岡 求美	
応用倫理特殊講義Ⅶ	気候崩壊の時代を生き延びる～人新世の倫理・経済・宗教	福岡 揚		イタリア語学イタリア文学特殊講義Ⅰ	ダンテ研究(3)	浦 一暁	
応用倫理演習Ⅰ	質的研究法入門	会田 薫子		南欧諸国言語文化演習Ⅰ	ボッカッチョ研究(5)	浦 一暁	
応用倫理演習Ⅱ	環境倫理文獻講読	池澤 優		現代文芸論概説Ⅱ	文化批評(3)	阿部 賢一	○
応用倫理演習Ⅲ	患者の歴史と倫理Ⅱ	鈴木 晃仁		社会心理学概論Ⅰ	社会・集団・家族心理学	大坪 康介	○
インド哲学史概説Ⅰ	インド思想史(1)	加藤 隆宏		社会心理学概論Ⅱ	社会行動の適応的基盤	亀田 達也	○
比較仏教論	アジア世界の仏教	養藤 顕量	○	韓国朝鮮文化特殊講義Ⅰ	朝鮮時代史論	六反田 豊	
倫理学概論Ⅰ	倫理学ならびに実践哲学の基本概念	熊野 純彦	○	韓国朝鮮文化特殊講義Ⅱ	朝鮮前期清運研究	六反田 豊	
倫理学概論Ⅱ	日本倫理思想史概説	緒住 光子	○	韓国朝鮮文化特殊講義Ⅲ	韓国の社会人類学	本田 洋	
西洋倫理思想史概説Ⅰ	運をめぐる倫理思想史	古田 徹也	○	韓国朝鮮文化特殊講義Ⅳ	社会・文化人類学と民族誌	本田 洋	
西洋倫理思想史概説Ⅱ	運をめぐる倫理思想史	古田 徹也		韓国朝鮮文化特殊講義Ⅴ	韓国の社会問題と社会政策Ⅰ	金 成垣	
東洋倫理思想史概説Ⅰ	倫理学・日本倫理思想史の基礎	緒住 光子		韓国朝鮮文化特殊講義Ⅵ	韓国の社会問題と社会政策Ⅱ	金 成垣	
東洋倫理思想史概説Ⅱ	倫理学・日本倫理思想史の基礎	吉田 真樹		文化交流特殊講義Ⅰ	日本における朱子学・陽明学の変容	小島 毅	
美学概論	美学の基礎概念	小田部 康久	○	文化交流特殊講義Ⅱ	東アジアの尊厳概念	小島 毅	
芸術学概論	文化進化の中の芸術	三浦 俊彦	○	文化交流特殊講義Ⅲ	古代ギリシア美術の諸問題	芳賀 京子	
東洋史学特殊講義Ⅱ	聖地巡礼にみるアジア史	守川 知子		文化交流特殊講義Ⅳ	古代ローマ美術の諸問題	芳賀 京子	
東洋史学特殊講義Ⅲ	グローバル・ヒストリーのなかの近代南・東南アジア	島田 竜登		文化交流特殊講義Ⅴ	西洋中近世美術の諸問題	児嶋 由枝	
東洋史学特殊講義Ⅳ	朝鮮時代史論	六反田 豊		文化交流特殊講義Ⅵ	ユーラシア文芸論	福岡 亮大	
東洋史学特殊講義Ⅴ	朝鮮前期清運研究	六反田 豊		文化人類学	社会・文化人類学と民族誌	本田 洋	○
西洋史学特殊講義Ⅲ	古代ギリシア民主政の研究Ⅰ	橋場 弦		ロシア語初級Ⅰ	ロシア語初級Ⅰ	奈倉 有里	
西洋史学特殊講義Ⅳ	古代ギリシア民主政の研究Ⅱ	橋場 弦		ロシア語初級Ⅱ	ロシア語初級Ⅱ	奈倉 有里	
西洋史学特殊講義Ⅵ	18-19世紀のロンドン／ダブリンにおける捨て子病院	勝田 俊輔		ロシア語中級Ⅱ	ロシア語中級Ⅱ	Vakhromeev Anatolii	
国文学特殊講義Ⅳ	源氏物語の研究	高木 和子					
国文学特殊講義Ⅴ	万葉集巻五を読む	鉄野 昌弘					
国文学特殊講義Ⅶ	万葉集巻六を読む	鉄野 昌弘					
国文学特殊講義Ⅷ	総合日本文学研究	安藤 宏 鉄野 昌弘 高木 和子 佐藤 至子 木下 華子 河野 龍也					

2023 年度後期教養教育科目開講一覧（学部）

科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目
インド哲学史概説I	インド思想史(1)	加藤 隆宏	
比較仏教論	アジア世界の仏教	夏輪 顕量	○
倫理学概論I	倫理学の基本概念	中野 裕孝	○
倫理学概論II	日本倫理思想史概説	類住 光子	○
西洋倫理思想史概説I	言葉をめぐる倫理思想史	古田 徹也	
西洋倫理思想史概説II	言葉をめぐる倫理思想史	古田 徹也	
東洋倫理思想史概説I	倫理学・日本倫理思想史の基礎	緒住 光子	
東洋倫理思想史概説II	倫理学・日本倫理思想史の基礎	吉田 真樹	
倫理学特殊講義I	日本倫理思想史の基本問題	古田 徹也	
美学概論	美学の基礎概念	長野 邦彦	
芸術学概論	芸術学概論	小田部 朋久	○
東洋史学特殊講義III	オランダ東インド会社と近世海域アジア	三浦 俊彦	○
東洋史学特殊講義IV	朝鮮時代史論	島田 竜登	
東洋史学特殊講義V	朝鮮前期遺跡研究	六反田 豊	
東洋史学特殊講義IX	近現代タイ経済史研究	六反田 豊	
西洋史学特殊講義V	近代フランスの社会と経済	宮田 敏之	
国文学特殊講義V	家持「歌日誌」を読む『万葉集』巻十七	長井 伸仁	
国文学特殊講義IX	家持「歌日誌」を読む『万葉集』巻十八	鉄野 昌弘	
中国語学概論	中国語学概論	鉄野 昌弘	○
中国語学中国文学演習III	古典詩文入門	飯田 真紀	
中国語学中国文学演習VI	中国近現代文学を読む	齋藤 希史	
印度語学概論I	サンスクリット語初級(1)	鈴木 将久	
印度語学概論II	サンスクリット語初級(2)	榎原 三恵子	○
印度文学史概説I	インド古代中世文学・文献案内	榎原 三恵子	
フランス語学概論I	フランス語統辞論研究(1)	伊澤 敦子	
フランス語学概論II	フランス語統辞論研究(2)	杉山 利恵子	○
フランス語圏言語文化	フランス語圏言語文化	杉山 利恵子	
多分野講義III	メディア間翻訳・翻案研究：文学テキストの映像化・舞台化(6)	小寺 賢太	
スラヴ語学概論	スラヴ語史入門	小林 真理	
スラヴ語圏言語文化	ロシア語史	橋岡 求美	○
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義II	スラヴ映像文化研究	丸山 由紀子	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義III	ロシア・ソ連小説評論読解(1)	丸山 由紀子	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義IV	ロシア・ソ連小説評論読解(2)	橋岡 求美	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義V	スラヴ語学研究	宮宮 路子	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義VI	スラヴ語学入門	橋岡 求美	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義VII	ポーランドの言語と文化	宮宮 路子	
スラヴ語学スラヴ文学特殊講義VIII	ウクライナ語入門	Marichev Milen	
スラヴ語学スラヴ文学演習V	ウクライナの多様な文化を学ぶ(1)	Iryna Petrychenko	
スラヴ語学スラヴ文学演習VI	ウクライナの多様な文化を学ぶ(2)	橋岡 求美	
スラヴ語学スラヴ文学演習VII	新経済批評から読むドストエフスキー	橋岡 求美	
ロシア語初級I	ロシア語初級I	平松 潤奈	
ロシア語初級II	ロシア語初級II	小澤 裕之	

科目名	講義題目	教員氏名	推奨科目
イタリア文学史概説IV	イタリア文学史(19-20世紀)II	土肥 秀行	
イタリア語学イタリア文学特殊講義III	アルベルティ俗語作品を読む	横田 太郎	
イタリア語学イタリア文学特殊講義VIII	20世紀散文講義II	土肥 秀行	
イタリア語学イタリア文学演習I	Crestomazia (prosa)を読む I	浦 一章	
イタリア語学イタリア文学演習II	Crestomazia (prosa)を読む II	浦 一章	
イタリア語学イタリア文学演習III	前衛講義I	土肥 秀行	
イタリア語学イタリア文学演習IV	前衛講義II	土肥 秀行	
イタリア語学イタリア文学演習V	近現代文学(詩・批評)I	Lorenzo Amato	
イタリア語学イタリア文学演習VI	近現代文学(詩・批評)II	Lorenzo Amato	
現代文芸論概説III	文化批評(4)	阿部 賢一	○
社会心理学概論I	社会・集団・家族心理学	膳場 百合子	○
社会心理学概論II	社会心理学概論	尾崎 由佳	○
韓国朝鮮文化特殊講義III	韓国の社会人類学	本田 洋	
韓国朝鮮文化特殊講義IV	社会・文化人類学と民族誌	本田 洋	
文化人類学	社会・文化人類学と民族誌	本田 洋	○
研究倫理入門	研究倫理入門	鈴木 晃仁	
死生学概論	死生学の射程	堀江 宗正	○
死生学特殊講義I	臨床死生学・倫理学の諸問題 V	会田 薫子	
死生学特殊講義II	臨床死生学・倫理学の諸問題 VI	会田 薫子	
死生学特殊講義III	臨床死生学特論	会田 薫子	
死生学特殊講義IV	共感とケアの哲学	早川 正祐	
死生学特殊講義V	自律についての関係的なアプローチ：現代自由論の一展開	早川 正祐	
死生学特殊講義VI	認識をめぐる不正義と責任：現代認識論の一展開	早川 正祐	
死生学特殊講義VII	死生をめぐる偶然と確率の問題	兼立 雄輝	
死生学特殊講義VIII	死生をめぐる実存哲学の諸問題	古荘 真敬	
死生学特殊講義IX	葬送儀礼の変容と死生観	山田 慎也	
死生学特殊講義X	スピリチュアリティ研究	堀江 宗正	
死生学演習I	病いの語りをめぐる倫理	早川 正祐	
死生学演習II	患者の歴史と倫理 I	鈴木 晃仁	
死生学演習III	患者の歴史と倫理 II	鈴木 晃仁	○
死生学演習IV	環境思想研究	堀江 宗正	
死生学演習V	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習VI	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習VII	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習VIII	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習IX	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習X	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XI	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XII	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XIII	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XIV	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XV	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XVI	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XVII	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XVIII	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XIX	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XX	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XXI	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XXII	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XXIII	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XXIV	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XXV	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XXVI	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XXVII	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XXVIII	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XXIX	文化・政治・社会の形成	小島 毅	
死生学演習XXX	文化・政治・社会の形成	小島 毅	

2022 年度後期教養教育科目開講一覧（大学院）

科目名	開講講義名	担当教員
多分野交流演習	研究倫理入門	鈴木 晃仁
多分野交流演習	メディア間翻訳・翻案研究：文学テキストの映像化・舞台化(5)	小林 真理／佐藤 至子／橋岡 求美／榎原 孝敦
多分野交流演習	死生学の射程	堀江 宗正
多分野交流演習	臨床死生学・倫理学の諸問題 III	会田 薫子
多分野交流演習	臨床死生学・倫理学の諸問題 IV	会田 薫子
多分野交流演習	臨床死生学特論	会田 薫子
多分野交流演習	共感とケアの哲学	早川 正祐
多分野交流演習	自律についての関係的なアプローチ：現代行為論・自由論の一展開	早川 正祐
多分野交流演習	認識をめぐる不正義と責任：現代認識論の一展開	早川 正祐
多分野交流演習	死生をめぐる偶然と確率の問題	兼立 雄輝
多分野交流演習	死と不安の社会学	澤井 敦
多分野交流演習	死生をめぐる実存哲学の諸問題	古荘 真敬
多分野交流演習	病いの語りをめぐる倫理	早川 正祐
多分野交流演習	死生学基礎文献講読	池澤 優
多分野交流演習	患者の歴史と倫理 I	鈴木 晃仁
多分野交流演習	患者の歴史と倫理 II	鈴木 晃仁
多分野交流演習	応用倫理入門	池澤 優
多分野交流演習	技術時代の倫理——ハイデガー哲学の視点から	轟 孝夫
多分野交流演習	都市の環境倫理	吉永 明弘
多分野交流演習	食と場所の環境倫理	福永 真弓
多分野交流演習	現象学的な質的研究の方法——ヤングケアラーへのインタビュー調査などをとに	村上 靖彦
多分野交流演習	マイノリティの環境史／倫理学	北條 勝貴
多分野交流演習	医療者の歴史と倫理	鈴木 晃仁
多分野交流演習	気候環境の時代を生き延びる～人新世の倫理・経済・宗教	福嶋 揚
多分野交流演習	質的研究法入門	会田 薫子
多分野交流演習	環境倫理文献講読	池澤 優
多分野交流演習	患者の歴史と倫理 II	鈴木 晃仁
死生学応用倫理特殊研究	死生学の射程	堀江 宗正
死生学応用倫理特殊研究	臨床死生学・倫理学の諸問題 III	会田 薫子
死生学応用倫理特殊研究	臨床死生学・倫理学の諸問題 IV	会田 薫子
死生学応用倫理特殊研究	臨床死生学特論	会田 薫子
死生学応用倫理特殊研究	共感とケアの哲学	早川 正祐
死生学応用倫理特殊研究	自律についての関係的なアプローチ：現代行為論・自由論の一展開	早川 正祐
死生学応用倫理特殊研究	認識をめぐる不正義と責任：現代認識論の一展開	早川 正祐

科目名	開講講義名	担当教員
死生学応用倫理特殊研究	死生をめぐる偶然と確率の問題	兼立 雄輝
死生学応用倫理特殊研究	死と不安の社会学	澤井 敦
死生学応用倫理特殊研究	死生をめぐる実存哲学の諸問題	古荘 真敬
死生学応用倫理演習	病いの語りをめぐる倫理	早川 正祐
死生学応用倫理演習	死生学基礎文献講読	池澤 優
死生学応用倫理演習	患者の歴史と倫理Ⅰ	鈴木 晃仁
死生学応用倫理特殊研究	応用倫理入門	池澤 優
死生学応用倫理特殊研究	都市時代の倫理——ハイデガー哲学の視点から	轟 孝夫
死生学応用倫理特殊研究	都市の環境倫理	吉永 弘明
死生学応用倫理特殊研究	食と場所の環境倫理	福永 真弓
死生学応用倫理特殊研究	現象学的な質的研究の方法——ヤングケアラーへのインタビュー調査をもとに	村上 靖彦
死生学応用倫理特殊研究	マノバティエーの環境史／倫理学	北條 勝貴
死生学応用倫理特殊研究	医療者の歴史と倫理	鈴木 晃仁
死生学応用倫理特殊研究	気候変動の時代を生き延びる～人新世の倫理・経済・宗教	福嶋 暲
死生学応用倫理演習	質的研究法入門	会田 薫子
死生学応用倫理演習	環境倫理文献講読	池澤 優
死生学応用倫理演習	患者の歴史と倫理Ⅱ	鈴木 晃仁
日本語日本文学特殊研究	総合日本文学研究	安藤 宏／鉄野 昌弘／高木 和子／佐藤 至子／木下 華子／河野 龍也
スラヴ語圏言語文化特殊研究	スラヴ語史入門	木村 護郎 クリストフ
スラヴ語圏言語文化特殊研究	ロシア・ソ連小説評論読解Ⅰ	楢岡 求美／古宮 路子
スラヴ語圏言語文化特殊研究	旧／連東欧の映像と文学	楢岡 求美／古宮 路子
スラヴ語圏言語文化特殊研究	ブルジョア語入門	Marchev Milen
スラヴ語圏言語文化特殊研究	ロシア・ソ連小説評論読解Ⅱ	楢岡 求美／古宮 路子
スラヴ語圏言語文化特殊研究	ポーランドの言語と文化	福嶋 千穂
スラヴ語圏言語文化演習	ソ連文学読解	楢岡 求美
スラヴ語圏言語文化演習	ロシア文化史	楢岡 求美
現代文芸論特殊研究	文化批評Ⅲ	阿部 賢一
韓国朝鮮歴史文化特殊研究	朝鮮時代史論	六反田 豊
韓国朝鮮歴史文化特殊研究	朝鮮前期漣遼研究	六反田 豊
韓国朝鮮言語社会特殊研究	韓国の社会人類学	木田 洋
韓国朝鮮言語社会特殊研究	社会、文化人類学と民族誌	木田 洋
韓国朝鮮言語社会特殊研究	韓国の社会問題と社会政策Ⅰ	金 成埈
韓国朝鮮言語社会特殊研究	韓国の社会問題と社会政策Ⅱ	金 成埈

2023 年度後期教養教育科目開講一覧（大学院）

科目名	開講講義名	担当教員	科目名	開講講義名	担当教員
多分野交流演習	研究倫理入門	鈴木 晃仁	多分野交流演習	東アジアの死生学・応用倫理へ	池澤 優
多分野交流演習	メディア間翻訳・翻案研究：文学テキストの映像化・舞台化(6)	小林 真理／橋岡 求美／塚本 昌則／佐藤 至子	多分野交流演習	質的研究法入門	会田 薫子
多分野交流演習	死生学の射程	堀江 宗正	多分野交流演習	応用倫理文献講読	池澤 優
多分野交流演習	臨床死生学・倫理学の諸問題V	会田 薫子	多分野交流演習	患者の歴史と倫理II	鈴木 晃仁
多分野交流演習	臨床死生学・倫理学の諸問題VI	会田 薫子	多分野交流演習	環境思想研究	堀江 宗正
多分野交流演習	臨床死生学特論	会田 薫子	アジア史学特殊研究	近現代タイ経済史研究	宮田 敏之
多分野交流演習	共感とケアの哲学	早川 正祐	ロマンス語圏言語文化特殊研究	フランス語統緒論研究(1)	杉山 利恵子
多分野交流演習	自律についての関係的なアプローチ：現代自由論の一展開	早川 正祐	ロマンス語圏言語文化特殊研究	フランス語統緒論研究(2)	杉山 利恵子
多分野交流演習	認識をめぐる不正義と責任：現代認識論の一展開	早川 正祐	ロマンス語圏言語文化特殊研究	Crestomazia (prosa)を読む I	浦 一暉
多分野交流演習	死生をめぐる偶然と確率の問題	兼立 雄輝	ロマンス語圏言語文化特殊研究	Crestomazia (prosa)を読む II	浦 一暉
多分野交流演習	死生をめぐる実存哲学の諸問題	古荘 真敬	ロマンス語圏言語文化特殊研究	前衛講読I	土肥 秀行
多分野交流演習	スピリチュアリティ研究	堀江 宗正	ロマンス語圏言語文化特殊研究	前衛講読II	土肥 秀行
多分野交流演習	葬送儀礼の姿容と死生観	山田 慎也	ロマンス語圏言語文化特殊研究	近現代文学(詩・批評)I	Lorenzo Amato
多分野交流演習	病いの語りをめぐる倫理	早川 正祐	ロマンス語圏言語文化特殊研究	近現代文学(詩・批評)II	Lorenzo Amato
多分野交流演習	患者の歴史と倫理 I	鈴木 晃仁	スラヴ語圏言語文化特殊研究	スラヴ語史入門	丸山 由紀子
多分野交流演習	応用倫理入門	鈴木 晃仁	スラヴ語圏言語文化特殊研究	ロシア語史	丸山 由紀子
多分野交流演習	技術時代の倫理—ハイデガー哲学の視点から	轟 孝夫	スラヴ語圏言語文化特殊研究	ロシア・ソ連小説評論読解(1)	橋岡 求美／古宮 路子
多分野交流演習	都市の環境倫理	吉永 明弘	スラヴ語圏言語文化特殊研究	ロシア・ソ連小説評論読解(2)	橋岡 求美／古宮 路子
多分野交流演習	食と場所の環境倫理	福永 真弓	スラヴ語圏言語文化特殊研究	スラヴ語学研究	Marchev Milen
多分野交流演習	現象学的質的研究入門	村上 靖彦	スラヴ語圏言語文化特殊研究	チェコ語入門	阿部 賢一
多分野交流演習	歴史実践における口承／環境／叙述	北條 勝貴	スラヴ語圏言語文化特殊研究	ポーランドの言語と文化	福嶋 千穂
多分野交流演習	医療者の歴史と倫理	鈴木 晃仁	スラヴ語圏言語文化特殊研究	ウクライナ語入門	橋岡 求美／Petrychenko Iryna
多分野交流演習	気候崩壊を生き延びるために～人新世の倫理・経済・宗教	堀嶋 揚	スラヴ語圏言語文化演習	ソ連文学読解	平松 潤奈
多分野交流演習			現代文芸論特殊研究	文化批評(4)	阿部 賢一
多分野交流演習			韓国朝鮮言語社会特殊研究	韓国の社会人類学	本田 洋
多分野交流演習			韓国朝鮮言語社会特殊研究	社会・文化人類学と民族誌	本田 洋

(3) 国際卓越大学院人文社会系研究科次世代育成プログラム

「国際卓越大学院 人文社会系研究科 次世代育成プログラム」は、本研究科各専門分野において蓄積された人文知の基礎の上に立ち、かつてない規模と速度で変化し複雑化する価値観に柔軟に対応しつつ、人類の健全な発展に貢献し得る博士人材の育成を目的とするものである。本研究科諸学における基礎的な研究能力の修得を目的とする専攻・専門分野のプログラムに加えて、新たな研究領域開拓や国際発信等を旨とした本プログラムを履修する二層構造としているのが特徴である。

本プログラムは、修士課程から実践的な研究活動を促進するための「学術活動課題演習」を必修としている他、様々な事象を俯瞰的に見渡し、多様な人々の声に耳を傾け発信する能力を養うために設置された「死生学研究・応用倫理研究」、「人文情報学」、「他研究科開講科目」、「アカデミック・ライティング（英語）」、「新・日本学」などの選択必修科目を履修することとなる。また、2020 年 4 月に開設した博士課程プログラムでは、より実践的な研究活動を促進するため「学術活動課題演習」に「異分野共同研究演習」を 2021 年度に加え、2 科目を必修とし、選択必修科目として、「アカデミック・ライティング（英語上級）」を整備した。

2021 年度から始まった博士課程プログラムの必修科目「異分野共同研究演習」については、2022 年度 3 件、2023 年度 2 件が実施された。

なお、修士課程プログラムに先立ち、学部プログラムを設けて、早期から研究への意欲を高めるため、大学院科目の履修を推奨し、大学院進学後は単位として認定することが可能となっている。

2018 年 4 月に開設した修士課程プログラムから奨励金の支給を始めたが、2020 年 4 月入学者からは、卓越リサーチ・アシスタントを委嘱し、その対価として給与を支給する仕組みに切り替え、博士課程プログラムでは、研究科として国内外での研究活動を支援する仕組みとして「研究活動支援費」制度を設けた。

学部・修士・博士連携プログラムであるため、学部プログラムからの一貫した履修を原則とするが、大学院入学試験において特に優秀な成績を収めた学生を対象として、修士から選抜も行うこととしている。博士課程進学に当たっては、日本学術振興会特別研究員（DC1）への応募を義務付けている。

2018 年 4 月に開設した修士課程プログラムも 6 年目となり、第 1 期生から第 6 期生まで延べ 78 名が在籍するなど、修士課程プログラムは極めて順調に推移している。また、2020 年 4 月に博士課程プログラム第 1 期生 5 名が在籍したことにより、「学部・修士・博士」連携プログラムが形成され、第 2 期生 8 名、第 3 期生 7 名、第 4 期生 9 名が在籍しており、修士課程プログラム同様順調に進んでいる。

なお、2023 年度に博士課程プログラム第 2 期生 2 名が博士の学位を授与され、博士課程プログラムの教育課程を修了している。

3. 国際交流

(1) 留学生教育と国際交流活動

A 留学生教育

人文社会系研究科・文学部における外国人留学生数は、およそ 160 人程度で推移してきた。コロナ禍では、日本の水際対策による入国制限がなされたものの、オンラインによる授業や研究指導が行われたこともあり、入学者の大幅な減少は見られなかったが、2022 年度は 173 人と微増し、2023 年度には 191 人となった。

留学生の出身国・地域では、中国が最多、次いで韓国、台湾が続く傾向に変化はない。2023 年度における留学生の出身国・地域は、中国、韓国、台湾の順で、全体の 86%をアジア諸国が占めている。

在籍する留学生は、大学院生、学部生、研究生、特別研究学生等と多岐に亘る。人文社会系研究科・文学部日本語教室では、各々の在学段階で求められる日本語能力を考慮し、スキル別科目（文章表現、口頭表現、漢字・語彙）、アカデミック科目（AJ ライティング、AJ リーディング、AJ プレゼンテーション）、専門への入門科目（古典文法入門、文語文献講読）を開講するとともに、留学生が日頃抱えている学習上の困難点や疑問点に個別に対応する学習サポートを継続的に実施し、留学生の学習ニーズにきめ細やかに対応している。2022 年度、2023 年度は、授業形態をオンライン授業から従来の対面授業に戻し、一層の充実を図った。

また、人文社会系研究科留学生特別講座プログラムでは、日本の文化や社会、日本人の考え方に対する理解を深めることを目的に、レクチャー・アシスタントに認定された博士課程学生によるショートレクチャーを実施し、日本をテーマとした講義理解に必要となる基礎知識を学ぶ機会を設けた。

国又は地域別外国人留学生数

各年度 5 月 1 日現在

国または地域名	2022 年度	2023 年度	国または地域名	2022 年度	2023 年度
アジア			中南米		
韓国	37	34	ブラジル	0	1
シンガポール	1	1	小 計	0	1
台湾	10	10	ヨーロッパ		
中国	102	115	アゼルバイジャン	1	0
中国(香港)	3	4	イギリス	3	3
ベトナム	1	1	イタリア	0	2
小 計	154	165	ウクライナ	0	3
中近東			スロベニア	1	1
トルコ	1	2	セルビア	1	1
小 計	1	2	フランス	1	2
アフリカ			ブルガリア	1	0
エジプト	1	1	ベラルーシ	1	1
小 計	1	1	ポーランド	1	1
北米			ロシア	4	4
アメリカ合衆国	3	4	小 計	14	18
小 計	3	4	合 計	173	191

B 留学生派遣

大学院人文社会系研究科・文学部は留学生を受け入れるばかりではなく、数多くの学生を海外に派遣してきた。その派遣先は、アジア、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパの国々のさまざまな大学である。

●海外へ留学・修学した学部生

2024 年 6 月 1 日現在

年度	海外留学・修学者の合計	内訳			
		アメリカ	イギリス	カナダ	その他
2022年度	海外修学 3名	1名		1名	デンマーク 1名
	留学 30名	3名	6名	2名	オーストラリア 1名 オマーン 1名 オランダ 2名 シンガポール 1名 スウェーデン 2名 スロベニア 1名 デンマーク 1名 ドイツ 4名 ニュージーランド 1名 フランス 2名 ポーランド 1名 台湾 1名 韓国 1名
2023年度	海外修学 4名	1名	2名		アイスランド 1名
	留学 33名	1名	10名	2名	オーストラリア 3名 オランダ 1名 スイス 2名 スウェーデン 1名 タイ 2名 ドイツ 2名 ニュージーランド 1名 バングラデシュ 1名 フィンランド 1名 フランス 2名 台湾 1名 中国 1名 中国（香港） 2名

●海外へ留学・修学した大学院生

年度	学生身分	異動区分名	計	内訳									
				韓国	中国	アメリカ	アイルランド	イギリス	イタリア	オーストリア	ドイツ	フランス	その他
2022 年度	修士課程	休学 (海外修学)	0										
		留学	1		1 (オンライン)								
		研究指導委託	0										
	博士課程	休学 (海外修学)	24		1	5	1	6	1	1	4	3	ベルギー 2名
		留学	6	3					1			2	
		研究指導委託	7							1		6	
2023 年度	修士課程	休学 (海外修学)	0										
		留学	1							1			
		研究指導委託	0										
	博士課程	休学 (海外修学)	21			4		6	2	2	5	1	ベルギー 1名
		留学	6						1			3	チェコ 2名
		研究指導委託	8						1	1		5	デンマーク 1名

C 外国人研究員受け入れ

大学院人文社会系研究科では、内規に基づき、毎年 30 人以上の外国人研究者を受け入れている。コロナ禍では、日本の水際対策の影響もあり、大幅に受け入れ数が減少したものの、2022 年度から回復し、2023 年度には平年並みの受け入れ数となった。

●外国人研究員(国籍別人数)

(※文学部／大学院人文社会系研究科内規による)

国または地域名	2022 年度	2023 年度	国または地域名	2022 年度	2023 年度
アジア			中南米		
韓国	1	3	アルゼンチン	0	1
シンガポール	1	0	ヨーロッパ		
台湾	1	0	イギリス	1	0
中国	4	14	イギリス・イタリア	1	2
パキスタン	1	1	イタリア	1	1
オセアニア			スウェーデン	1	0
オーストラリア	1	0	ドイツ	1	2
ニュージーランド	0	1	フィンランド	0	1
北米			フランス	1	1
アメリカ合衆国	4	2	ポーランド	1	1
			ロシア	1	0
			合 計	21	30

D 夏期・冬期特別プログラム

文学部は 2014 年 1 月に英国のセインズベリー日本藝術研究所との間に部局間学術協定を結び、学部教育の総合的改革の一環として、学部学生の国際的な相互交流を目的とした夏期および冬期特別プログラムを 2014 年度から実施してきた。夏期特別プログラムでは文学部がホストとなり、夏期の授業休止期間を利用して、日本国外から学部生約 5 名を東大本郷キャンパスと研究科附属北海文化研究常呂実習施設（北海道北見市）に招き、英語を使用言語としながら、講義・実習、遺跡の発掘体験、博物館・美術館見学、史跡踏査、グループワーク等を通して考古学・美術史学・文化資源学等を学んできた。冬期特別プログラムでは、逆にセインズベリー日本藝術研究所がホストとなり、東大の学部生約 5 名がセインズベリー日本藝術研究所が所在する英国南東部のノーフォーク州や南西部のソールズベリー等を訪れ、同様の学習と交流体験を積んできた。

本プログラムは全学の学部課程に開かれていることもあり、東大側からは文学部のみならず他学部からも多くの学生の積極的な参加がみられた。約二週間にわたるプログラム期間中、東大生と海外の学生たちはホテルや宿舎で同室となるため、寝食を共にしながらグループワークや体験学習・講義・実習等の様々な国際交流体験を積んだ。その結果、最初は英語での会話や議論に参加しづらかった学生も、終了近くになると互いに学問や人生観を戦わずまになっていった。日本文化に関する博物館展示では、東大生が英国側の学生に対して展示解説を担当することもあった。参加した学生にはプログラム終了時にレポート提出を課しているが、みな一様にプログラムへの参加経験を誇りに思っていることが確認され、その多くがプログラム終了後も交流を続けている。参加学生の枠（日英各定員 5 名）は限られていたが、その分丁寧なスケジュールリングにより濃密な体験を経ることで、高い教育効果を上げてきた。

2020 年初頭から新型コロナウイルス感染症が世界的流行を見せる中、2019 年度の冬期特別プログラムは感染対策を徹底した上で執り行うことができたが、2020 年度は夏期・冬期特別プログラムともに中止を余儀なくされた。2021 年度も冬期特別プログラムは中止したが、学生たちに国際交流の機会を提供したいという考えから、本学学部で学ぶ留学生と日本人学生に限定した夏期特別プログラムを実施した。この新形式で行ったプログラムでは、過去のプログラム運営から得られた経験を活かしたこともあり、本学の留学生と日本人学生との間の交流促進という意味でも、また文学部としての常呂実習施設の有効活用という意味でも、十分な成果を上げた。この成功を踏まえて、2022 年度と 2023 年度も同形式で夏期特別プログラムを実施した。両年度とも、途中にセインズベリー日本藝術研究所長のサイモン・ケイナー教授による講義を行うことができ、同研究所との学術交流も実現することができた。

2023 年度にコロナ禍が実質的に収束したことを受け、セインズベリー日本藝術研究所との間で学術協定のあり方を見直した結果、特別プログラムは当初の目的を十全に達成したと双方が確認・理解できた。これをもって、同年度をもって夏期・冬期特別プログラムは終了することになった。

E 「新・日本学」構想に向けた海外研究者による特別講義シリーズ

令和 4（2022）年度

実施期間	令和 4（2022）年 11 月 1 日～令和 4（2022）年 12 月 28 日 ※令和 2（2020）年度から新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、海外研究者の渡日困難のため、中止を余儀なくされていた 2 科目に新たに 1 科目を加え、3 科目が開講となった。
実施状況	【特別講義シリーズⅠ】 開講科目名：感情と社会：社会学的、人類学的探求 招聘教授：Sighard Neckel 教授（ドイツ・ハンブルク大学） 開講日時：令和 4（2022）年 11 月 1 日～11 月 4 日 【特別講義シリーズⅡ】 開講科目名：占領期から戦後における宗教と日本社会 招聘教授：Mark R Mullins 教授（ニュージーランド・オークランド大学） 開講日時：令和 4（2022）年 11 月 26 日～11 月 28 日 【特別講義シリーズⅢ】 開講科目名：日本哲学とは何か 招聘教授：Bret W. Davis 教授（アメリカ・メリーランド大学） 開講日時：令和 4（2022）年 12 月 26 日～12 月 28 日

令和 5（2023）年度

実施期間	令和 5（2023）年 5 月 29 日～令和 6（2024）年 2 月 1 日 ※3 科目のうち、1 科目をオンライン形式により開催し、当初の予定通り 3 科目が開講となった。
実施状況	【特別講義シリーズⅠ】 開講科目名：世界へ発信する日本の近世文学 招聘教授：Laura Moretti 教授（英国・ケンブリッジ大学） 開講日時：令和 5（2023）年 5 月 29 日～ 6 月 1 日 【特別講義シリーズⅡ】 ※オンライン形式により開講 開講科目名：The History of Interactions in East Asia 招聘教授：黄 俊傑 名誉教授（中華民国(台湾)・台湾大学） 開講日時：令和 5（2023）年 11 月 27 日～11 月 29 日 【特別講義シリーズⅢ】 開講科目名：日本近代史の研究：ヨーロッパ人の視点から 招聘教授：Margaret Mehl 准教授（デンマーク・コペンハーゲン大学） 開講日時：令和 6（2024）年 1 月 30 日～ 2 月 1 日

実施結果

本事業は、毎年3名の著名な研究者を海外から招聘し、東京大学大学院人文社会系研究科の大学院生に向けて英語による授業を提供するものである。東京大学にいながらにして、欧米における当該分野の代表的研究者から直接指導を受ける経験は、本学の大学院生にとって極めて刺激的で国外への日本学発信に向けての強い動機付けを与えている。

令和4(2022)年度は、コロナ禍の影響が薄れ始め、令和2(2020)年度から不開講となっていた2科目に新たに1科目を加え、3科目を開講し、令和5(2023)年度も、3科目のうち1科目はオンライン形式により開講することとなったが、当初の予定通り3科目を開講することが出来た。

F オークランド大学でのアカデミック英語短期集中プログラム

実施期間	令和4(2022)年度、令和5(2023)年度は実施なし
実施状況	本事業は、人文社会学系研究分野の成果を積極的に国外発信するために、(1)高度なアカデミック英語の習得、(2)若手教員のファカルティ・ディベロップメント(FD)の一環として英語による授業提供のためのトレーニングを受けることにある。 令和元(2019)年度の実施の後、令和2(2020)年度、令和3(2021)年度は実施されておらず、令和4(2022)年度以降、従来の実施形態によるプログラム実施を改め、より発展的なプログラムの実施に向けて再検討を始めたところではあるが、研究科内における予算措置や外部資金等を得る具体的方策などが立案できない状況にあるため、令和5(2023)年度においてもプログラム実施を見合わせざるを得なかった。 【以下は参考として令和元(2019)年度の情報を記載している。】 - 参加プログラム：オークランド大学附属英語アカデミー (English Learning Academy 【略称：ELA】)での語学研修プログラム - 募集方法 東京大学文学部の website (在学生ポータル) で告知、募集開始。 参加申込者に対し、書類選考の後、結果を通知。 - プログラム概要： ELA の指導のもと、授業では全体を通して、アカデミックな場面におけるリスニング、スピーキング、ライティングに焦点が置かれた。英語を実際に使って交流、口頭発表、議論を行う機会も積極的に組み込まれた。 二週目以降は、受講者たちの問題関心に近いオークランド大学の授業を聴講する機会があり、今後、研究者として海外で活躍するための知識を習得した。 本事業を実施した効果として、第1に、若手教員にとって、大学院生の引率など、実質的なFDの経験を積むことができ、海外において研究のみならず教育の現場を体感することができたこと。第2に、大学院生たちにとっては、英語によるプレゼンや議論を重ねることで、今後、海外での研究活動を視野にいれたキャリアプランを立てる強い動機付けとなったこと。などが挙げられる。 本事業は、世界的視野をもった「知のプロフェッショナル」を育成するための基礎力養成としての高い効果を認めることができた。

(2) 国際交流協定

A 全学学術交流協定・学生交流覚書

国名等	#	大学名	署名者及び署名年月日		協定の内容	
			本 学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
インド	1	デリー大学	総長、人文科学研究科 委員会委員長	副総長、事務局長	(派遣)インド哲学、仏教学、サンスクリット、インド史 (受入)日本仏教・中国仏教・インド仏教の思想と 歴史、インド哲学、サンスクリット、チベット研究、日本 研究	1. 大学院学生(協定書で学生の在籍研究科・学科を指定)
			1980/ 3/25 1983/ 3/25 1986/ 4/22 1992/ 7/ 8 2016/ 5/17	1980/ 5/ 1 1983/ 5/ 2 1986/ 5/ 1 1992/ 7/20 2016/ 3/31		
中国	2	北京大学	総長	校長	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			1985/3/25 2003/12/17 2009/7/21 2014/3/20 2019/4/1	1985/3/25 2003/11/7 2009/7/21 2014/6/11 2019/4/15		
韓国	3	ソウル大学校	総長	総長	相互に関心を持つ分野	1. 教員 2. 学生 3. 学術情報及び資料の交換 4. 共同研究、シンポジウム及び講演の実施
			1990/8/17 1995/12/4 2000/12/21 2005/10/29 2012/7/25 2016/ 7/22 2022/12/7	1990/8/17 1995/12/14 2001/1/22 2005/10/29 2012/5/5 2016/ 7/22 2023/1/27		
			総長	総長		
			2005/10/28 2014/3/27	2005/10/28 2014/4/18		
イラン	5	テヘラン大学	総長	総長	(派遣)イスラム学、ペルシア語・ペルシア文学、 イラン史学等 (受入)日本語・日本文学、日本史学等	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 情報及び学術資料の交換 4. 共同研究、合同シンポジウム及び講義などの活動
			1997/3/7 2002/8/12 2007/5/25 2008/9/19 2013/2/20 2015/7/8 2017/12/5 2020/5/19 2023/3/8	1997/4/23 2002/8/27 2007/6/12 2008/10/15 2013/4/28 2015/8/9 2017/12/23 2020/12/5 2023/4/12		
			総長	学長		
			1998/7/3 2005/6/27 2017/2/2 2022/4/3	1998/7/3 2005/7/11 2017/4/4 2022/4/3		
エジプト	6	カイロ大学	総長	学長	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			1998/7/3 2005/6/27 2017/2/2 2022/4/3	1998/7/3 2005/7/11 2017/4/4 2022/4/3		
北米	7	イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校	総長	学長、理事会	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			2001/7/3 2006/9/13 2012/1/10	2001/7/3 2006/10/4 2012/3/23		
イタリア	8	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」	総長	総長	共通の関心を有する分野	1. 研究者 2. 研究プログラムへの参加 3. 学術情報及び学術刊行物の交換 4. 会議、セミナー、研究課題の講習会の開催
			1999/1/22 2004/5/31 2009/6/22 2014/12/17 2020/10/26	1999/4/30 2004/6/17 2009/7/7 2015/2/5 2021/1/20		
			総長	学長		
			1993/1/7 1998/4/14 2003/3/14 2008/3/7 2014/1/24 2018/12/21 2023/11/30	1993/1/7 1998/4/24 2003/3/19 2003/4/14 2014/2/17 2019/1/20 2024/2/5		
	9	バドゥア大学	総長	学長	相互に関心を持つ分野	1. 研究者 2. 学生、大学院生 3. 学術情報及び資料の交換 4. 大学教育に付随する業務分野での活動 5. 学術会議や研究会への参加
			1993/1/7 1998/4/14 2003/3/14 2008/3/7 2014/1/24 2018/12/21 2023/11/30	1993/1/7 1998/4/24 2003/3/19 2003/4/14 2014/2/17 2019/1/20 2024/2/5		
	10	フィレンツェ大学	総長	学長	共通の関心を有する分野	1. 教員、研究者、大学院生 2. 学術情報及び学術刊行物の交換 3. セミナーやシンポジウムの共同開催
			1998/7/24 2003/11/26	1998/7/30 2003/10/6		
	11	ピサ高等師範学校	総長	校長	それぞれが関心を持つ分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
			2002/5/30 2007/4/4 2016/ 7/ 6 2022/11/22	2002/6/10 2007/4/19 2016/ 9/21 2022/12/21		
スイス	12	ジュネーヴ大学	総長	学長	両大学が関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			1997/7/2 2002/7/2 2007/6/6 2009/2/24 2012/11/5 2018/8/2 2023/7/19	1997/7/2 2002/7/22 2007/6/26 2009/3/20 2012/8/6 2018/9/24 2023/9/18		
セルビア	13	ベオグラード大学	総長	学長	双方が関心を持つ学術研究及びその他の活動 分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			2021/3/10	2021/4/27		
フランス	14	エコール・ノルマル・スーペリエール	総長、人文科学研究科 科長	校長、国際交流部長	それぞれが関心を持つ分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			1993 2/23 1998/4/28 2003/3/24 2008/2/8 2015/2/9 2021/3/18 2024/4/18	1993/3/3 1998/5/7 2003/3/31 2008/3/4 2015/3/28 2021/5/16 2024/3/11		
			総長	研究院長		
			2006/5/18 2013/6/28 2018/6/27 2023/10/17	2006/5/18 2013/7/9 2018/7/18 2023/10/17		
ポーランド	16	ワルシャワ大学	総長	総長	(派遣)スラヴ学 (受入)日本学	1. 研究者、研究留学生 2. 学術資料等の交換
			1978/4/1	1978/5/10		

B 学術交流協定・学生交流覚書

国名等	#	大学名	署名者及び署名年月日		協定の内容	
			本 学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
中国	1	北京大学歴史学系	総合文化研究科長、 人文社会系研究科長	歴史学系主任	相互に関心のある分野	学生の交流
			2006/7/21、8/3 2008/9/8、9/16 2011/7/1、7/5 2016/9/26、9/20 2021/9/28、9/30	2006/8/21 2008/9/19 2011/7/20 2016/10/10 2021/10/15		
	2	北京大学 中国語文学系	人文社会系研究科長 総合文化研究科長	言文学系主任	文学	学生の交流
			2019/5/29、6/3	2019/6/16		
	3	北京大学 哲学系宗教学系	人文社会系研究科長 総合文化研究科長	哲学系宗教学系主任	哲学	学生の交流
			2019/5/29、6/3	2019/9/18		
	4	山東大学儒学高等研究院・ 歴史文化学院	人文社会系研究科長・文学部長	研究院長・ 研究中心主任	双方に関心を持つ教育研究及びその他の活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			2003/7/17 2008/11/25 2014/1/31 2019/8/30	2003/8/10、9/9 2008/11/25 2014/3/14 2019/9/26、9/27		
	5	香港中文大学文学院	人文社会系研究科長	文科大学長	相互に関心のある分野	1. 教員及び研究者 2. 学部学生、大学院生
			2011/2/1 2016/1/23 2022/3/23	2011/1/27 2016/ 2/ 2 2022/4/25		
韓国	6	ソウル大学校人文学部	人文社会系研究科長	人文大学長	相互に関心のある分野	学生の交流
			2005/7/11 2012/6/4 2016/ 6/15 2022/12/14	2005/8/10 2012/5/5 2016/ 6/23 2023/6/1		
	7	成均館大学校儒学・東洋 学部	人文社会系研究科長・文学部長	学部長	それぞれに関心を持つ学術研究領域	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
			2006/11/2 2012/1/17	2006/11/11 2012/1/27		
インド	8	デリー大学文学部、社会科 学部	人文社会系研究科長 学際情報学府長、	デリー大学 事務局長	(派遣)インド哲学、仏教学、サンスクリット、インド史 (受入)日本仏教・中国仏教・インド仏教の思想と歴史、インド哲学、サンスクリット、チベット研究、日本研究	1. 大学院学生(協定書で学生の在籍研究科・学科を指定)
			2016/5/17、5/17	2016/3/31		
イギリス	9	セインズベリー 日本藝術研究所	人文社会系研究科長・文学部長	統括役所長	双方に関心を持つ学術研究及びその他の活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生
			2015/1/6 2018/9/21	2015/1/6 2018/10/20		
	10	カーディフ大学	人文社会系研究科長・文学部長	統括役所長	双方に関心を持つ学術研究及びその他の活動分野	1. 教員及び研究者 2. 学生
			2022/6/20	2022/11/16		
イタリア	11	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」 東洋研究学部	人文社会系研究科長	東洋研究学部長	(派遣)イタリア語、イタリア文学 (受入)日本語、日本文学 その他、双方の合意によって決められた分野	1. 研究者 2. 研究プログラムへの参加 3. 研究会、セミナー、研究課題の講習会 4. 学術情報及び出版物の交換
			2009/10/23 2014/12/25 2020/10/30	2009/11/5 2015/1/27 2021/1/29		
ドイツ	12	ベルリン自由大学 歴史文化学部、大学院東 アジア研究科、シュレーゲ ル大学院文学研究科	総合文化研究科長、 人文社会系研究科長	歴史文化学部長・文 学研究科長、東アジ ア研究科長	相互に関心のある分野	学生の交流
			2013/2/13、2/19 2018/5/27、5/30 2023/6/20、6/22	2013/2/27、2/27 2018/6/26、7/1 2023/8/28、8/10		
	13	ゲッティンゲン大学	総合文化研究科長、 人文社会系研究科長	歴史文化学部長・文 学研究科長、東アジ ア研究科長	相互に関心のある分野	学生の交流
			2020/3/17、3/24	2020/4/28、5/5、 5/15		
	14	エバーハルト・カール大学 チュービンゲン	人文社会系研究科長	医学部長、文学部長	相互に関心のある分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
			2017/3/29 2022/3/23	2017/5/3、5/5		
フランス	15	エコール・ノルマル・スーペリオル/ 文学・人文科学リヨン校	人文社会系研究科長	校長	相互に関心のある分野	1. 学生 2. 教員及び研究者 3. 共同研究の実施 4. 学術情報及び資料の交換
			1999/10/19 2002/9/25 2008/1/22 2013/2/21 2017/11/24 2020/2/27	1999/10/13 2002/10/15 2008/1/30 2013/3/20 2018/1/12 20220/3/31		
	16	パリ・第7大学(ディドロ)	総合文化研究科長、 人文社会系研究科長 数理研究課長	校長	相互に関心のある分野	学生の交流
			2018/11/19、11/22、11/26	2018/12/13		
	17	パリ・第8大学(サン・ドニ)	総合文化研究科長、 人文社会系研究科長	校長	相互に関心のある分野	学生の交流
			2017/3/17、3/22 2023/4/24、4/27	2017/3/31 2023/6/2		
	18	フランス極東学院 (2022/7/28 終結)	人文社会系研究科長	学院長	それぞれが学術研究及び教育上関心を 持つ分野	1. 教官、研究者 2. 共同研究の実施 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
			2001/3/3 2006/3/13 2012/1/7	2001/3/13 2006/3/13 2012/2/9		

(3) 国際研究協力

A 海外渡航

令和4（2022）年度		令和5（2023）年度	
全体92件 （外国出張86件 海外研修6件）		全体179件 （外国出張172件 海外研修7件）	
教授	38 件	教授	72 件
特任教授	0 件	特任教授	2 件
准教授	36 件	准教授	69 件
特任准教授	4 件	特任准教授	1 件
助教	12 件	助教	27 件
特任助教	0 件	特任助教	3 件
講師	1 件	講師	5 件
外国人教師	1 件	外国人教師	0 件

B 外国人客員教員・研究員（客員）

〈外国人教員〉	
フランス語フランス文学専修課程	シモン・オイカワ、マリアンヌ (2006.10.16～2022.8.31)
南欧語南欧文学専修課程	アマート、ロレンツォ (2011. 4.18～)
ドイツ語ドイツ文学専修課程	ケプラー タサキ、シュテファン (2012.10. 1～)
中国語中国文学	王 俊文 (2021. 4. 1～2024. 3.31)
〈特任教員（旧外国人研究員（客員Ⅲ種））〉	
文化資源学専攻	ベルクマン、アンネグレート (2020.4.16*～2023.3.31) *新型コロナウイルス感染症に関する水際対策の強化にかかる措置により、 日本への入国は10月。
韓国朝鮮文化研究専攻	李 義鍾 (2021. 4. 1～2024. 3.31)
文化資源学専攻	GEILHORN BARBARA (2023.10.1～2025.9.30)

C 外国人教師

〔（ ）内は国籍〕

専修課程	平成30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度
英語英米文学	1名（英）					なし

4. 研究費の受け入れ

(1) 科学研究費補助金・助成金

令和4(2022)年度

【補助金】

研究種目	課題番号	研究代表者	令和4年度 直接経費	令和4年度 間接経費	研究課題名
学術変革領域研究(A)	21H05323	鈴木敦命	2,900,000	870,000	直感的信頼の成人期発達—課題有意義性と印象操作の影響を考慮した三世代間横断研究
新学術領域研究(研究領域提案型)	18H05448	守川知子	5,900,000	1,770,000	中世から近代の西アジア・イスラーム都市の構造に関する歴史学的研究
新学術領域研究(研究領域提案型)	19H05725	今水寛	20,200,000	6,060,000	超適応を促す身体認知・情動機構の解明
基盤研究(A)	18H03582	三枝暎子	3,600,000	1,080,000	郷・村名初出データにみる日本中世の民衆社会
基盤研究(A)	19H00516	下田正弘	6,300,000	1,890,000	仏教学デジタル知識基盤の継承と発展
基盤研究(A)	19H00528	齋藤希史	6,300,000	1,890,000	国際協働による東アジア古典学の次世代展開—文字世界のフロンティアを視点として
基盤研究(A)	20H00004	市川裕	7,800,000	2,340,000	生きられた古代宗教の視点による古代ユダヤ変革期の東地中海世界の総合的宗教史構築
基盤研究(A)	21H04339	高橋晃一	4,900,000	1,470,000	『カダム全集』所収『阿毘達磨集論』注釈群のXML電子テキスト構築
基盤研究(A)	21H04343	鈴木寛仁	8,100,000	2,430,000	20世紀日本の医療・社会・記録—医療アーカイブズから立ち上がる近代的患者像の探求
基盤研究(A)	22H00001	妻輪頼重	11,000,000	3,300,000	仏教学・心理学・脳科学の協働による止観の総合的研究
基盤研究(A)	22H00014	守川知子	8,200,000	2,460,000	近世ユーラシアの宗教アイデンティティ・グローバル多元主義と地域大国主義の相克
基盤研究(B)	18H00652	諏訪部浩一	2,200,000	660,000	『小説知』概念をめぐる諸問題の調査、分析と統合
基盤研究(B)	18H00662	大西克也	2,200,000	660,000	中国語における文法的意味の史的変遷とその要因についての総合的研究
基盤研究(B)	18H00720	佐川英治	2,000,000	600,000	東アジア史における「古代末期」の研究
基盤研究(B)	18H01099	村上郁也	2,800,000	840,000	周辺視野での事物の定位に動的信号がおよぼす影響に関する視覚心理学的研究
基盤研究(B)	19H01328	高山博	3,800,000	1,140,000	西洋中世における境界地域の統治システムに関する比較的研究
基盤研究(B)	20H01187	柳橋博之	1,400,000	420,000	前近代イスラーム世界における「組織」の成立に関する比較研究
基盤研究(B)	20H01188	藤原聖子	4,800,000	1,440,000	宗教現象学の形成と論争に関するトランスナショナル・ヒストリー
基盤研究(B)	20H01270	鎌田美千子	2,000,000	600,000	日本語教師養成・研修におけるライティング教育実践能力の育成—批判的思考を中心に—
基盤研究(B)	20H01563	瀧川裕貴	2,800,000	840,000	ビッグデータ分析と実験の統合によるオンライン社会における場のダイナミクスの解析
基盤研究(B)	20H01752	唐沢かおり	3,200,000	960,000	「感じる心」の知覚と道徳的判断：哲学との連携による統合的理解の構築
基盤研究(B)	21H00487	秋山聰	4,600,000	1,380,000	形象の記述・記録についての比較美術史学的研究
基盤研究(B)	21H00608	森先一貴	3,500,000	1,050,000	日本列島における現生人類移住初期の環境適応史研究
基盤研究(B)	21H00656	葛西康徳	2,600,000	780,000	人文主義法学の比較法学的再定位
基盤研究(B)	21H00931	大坪庸介	4,400,000	1,320,000	関係価値と和解のミクロ・マクロ・ダイナミクスに関する研究
基盤研究(B)	21H00959	今水寛	4,100,000	1,230,000	高精度な脳刺激法による運動主体感の解明
基盤研究(B)	22H00617	高岸輝	5,100,000	1,530,000	中世経師組織の社会的活動基盤と様式系統の相関—十四世紀の縁起・絵巻を結節点として
基盤研究(B)	22H00710	福田正宏	3,100,000	930,000	宗谷海峡域における新石器・縄文時代生活史の実態解明
基盤研究(B)	22H00902	赤川学	2,400,000	720,000	人口減少社会における多重的社会問題の総合的研究

【助成金】

研究種目	課題番号	研究代表者	令和4年度 直接経費	令和4年度 間接経費	研究課題名
基盤研究(C)	18K00289	河野龍也	600,000	180,000	佐藤春夫資料に基づく文学者の国際交流とアジア表象の研究
基盤研究(C)	21K00428	土肥芳行	1,400,000	420,000	イタリア戦争捕虜「収容所文学」研究—「捕虜の世界史」構築にむけて
基盤研究(C)	21K00552	近藤明日子	1,100,000	330,000	拡張した近代語コーパスを使用した口語体実用文の成立過程の計量的研究
基盤研究(C)	18K00120	三浦俊彦	500,000	150,000	疑似的事例の分析による「芸術の定義」の論理的・経験的研究
基盤研究(C)	18K00524	小林正人	800,000	240,000	クラブ語源辞典の作成とドラヴィダ語系統樹の再検討
基盤研究(C)	19K00242	長嶋由紀子	1,300,000	390,000	フランスの地域文化政策と文化観光—内発的発展による地方創生に向けた国際比較研究
基盤研究(C)	19K00493	阿部賢一	700,000	210,000	ボヘミア文学史の記述に関する研究
基盤研究(C)	19K00543	白井聡子	1,100,000	330,000	消滅の危機に瀕するダバ語方言の記述研究
基盤研究(C)	19K00624	肥爪周二	800,000	240,000	平安中期訓点資料による日本語音節構造史の研究
基盤研究(C)	19K02075	高谷幸	700,000	210,000	スーパーダイバーシティ状況におけるエスニック境界の再編：大阪市M地区の事例
基盤研究(C)	19K03189	村本由紀子	700,000	210,000	集団規範の形成・維持に関わる自他の相互作用過程の探究
基盤研究(C)	20K00068	池澤優	700,000	210,000	死生学・応用倫理学などの学術領域における宗教性の調査と分析
基盤研究(C)	20K00123	吉田寛	1,100,000	330,000	デジタルゲームにおける没入(イマージョン)概念の美学的考察
基盤研究(C)	20K00143	小田部胤久	800,000	240,000	美学の古典賦活のためのモデル構築
基盤研究(C)	20K00168	芳賀京子	600,000	180,000	ヘレニズム後期からローマ帝政初期への転換期における彫刻工房の地域流派の研究
基盤研究(C)	20K00312	安藤宏	700,000	210,000	太宰治研究資料の情報ネットワークの構築
基盤研究(C)	20K00337	木下華子	1,100,000	330,000	古代・中世日本における魔障の文化史
基盤研究(C)	20K00384	阿部公彦	700,000	210,000	18世紀以降の英語圏文学等における「注意」「共感」と「言語運用能力」表象の研究
基盤研究(C)	20K00410	新井潤美	300,000	90,000	英国における「ロウワー・ミドル・クラス」と「郊外」の表象
基盤研究(C)	20K00434	後藤和彦	840,000	252,000	「戦後の思考」の文学的ディレンマについて—アメリカ南部文学と近代日本文学の相違
基盤研究(C)	20K00465	中地雅和	800,000	240,000	ル・クレジオとアジア文化
基盤研究(C)	20K00491	山本潤	800,000	240,000	ドイツ英雄詩の受容史研究—英雄詩素材の歴史的アクチュアリティ
基盤研究(C)	20K00660	渡邊明	300,000	90,000	日英語の程度表現の微細構造および不定語のシステムとの関係
基盤研究(C)	20K01035	芦部彰	900,000	270,000	アデナウアー期西ドイツの西側結合とナショナリズム・ザールラント帰属問題に注目して
基盤研究(C)	20K01053	長井伸仁	400,000	120,000	19・20世紀転換期フランスにおける排外主義の変容—パリ地域での選挙の分析
基盤研究(C)	20K01054	橋場暁	1,100,000	330,000	古代ギリシアにおける「民主政の技法」とその伝播に関する政治文化史的研究
基盤研究(C)	20K01211	本田洋	900,000	270,000	現代韓国社会におけるローカル・コミュニティの再構築：「共同体作り」の事例から
基盤研究(C)	20K02109	井口浩志	1,500,000	450,000	地域共生社会における「意思」と「主張」をめぐる人びとの「支援実践」の領域横断研究
基盤研究(C)	21K00027	額住光子	500,000	150,000	大衆仏教の存在論としての視座からの道元の思想構造の総合的研究—比較思想的探求
基盤研究(C)	21K00067	菊地達也	1,100,000	330,000	イスラーム諸思想における「グノーシス主義」の比較研究
基盤研究(C)	21K00083	王寺賢太	1,100,000	330,000	フランス啓蒙における立法者問題：政治的自律の創設と社会・宗教・歴史
基盤研究(C)	21K00322	鈴木将久	500,000	150,000	魯迅作品日本語翻訳の総合的研究
基盤研究(C)	21K00430	平野嘉彦	1,100,000	330,000	世紀転換期ブラハのドイツ語文学における認識論と言語思想—フランク・カフカを例に
基盤研究(C)	21K00431	塩塚秀一郎	600,000	180,000	19世紀後半以降のフランスにおける〈集合住宅文学〉に関する研究
基盤研究(C)	21K00522	長屋尚典	800,000	240,000	コーパスを用いたタログ語談話小辞の研究
基盤研究(C)	21K01610	島田竜登	1,200,000	360,000	18世紀アジア域内貿易と季節変動調整メカニズム：オランダ東インド会社を事例として
基盤研究(C)	21K01856	祐成保志	900,000	270,000	ベシック・サービスとしての居住支援に関する社会学的基礎研究
基盤研究(C)	21K01992	金成垣	1,000,000	300,000	韓国におけるベシックインカム構想と後発福祉国家のゆくえ
基盤研究(C)	21K03124	鈴木敦命	1,000,000	300,000	顔印象とそのメタ認知の正確性／偏りの個人差に関する実験心理学的検討
基盤研究(C)	22K00027	高山守	1,100,000	330,000	独自の手話言語研究に基づく、哲学の新たな展開
基盤研究(C)	22K00093	高久恭子(中西恭子)	600,000	180,000	古代末期地中海世界の教養文化における宗教教の記録と宗教史の形成 その展開と受容史
基盤研究(C)	22K00160	坂口愛子(蔵田愛子)	1,400,000	420,000	近代日本の植物画に関する基礎的研究
基盤研究(C)	22K00179	増記隆介	800,000	240,000	仏教絵画における聖と俗の往還に関する比較美術史的研究
基盤研究(C)	22K00312	陳捷	1,100,000	330,000	清末の中国外交官が見た明治日本—清国駐日公使館随員孫点の記録を中心として
基盤研究(C)	22K00444	ケブラータサキシュテファン	1,200,000	360,000	Global Literature from German Artist Residencies Abroad
基盤研究(C)	22K00461	塚本昌則	900,000	270,000	錯綜体としての人間—ポール・ヴァレリーの詩学を中心に
基盤研究(C)	22K00548	熊切拓	600,000	180,000	アラビア語デュニス方言における語りの技法と文法
基盤研究(C)	22K00892	吉田伸之	1,400,000	420,000	江戸近郊多摩川下流域左岸の地帯構造と都市性
基盤研究(C)	22K03199	浅野倫子	1,100,000	330,000	視聴覚コンテンツにおける映像と音楽の適合性の効果の実験心理学的検討
基盤研究(C)	22K12638	小野に美	700,000	210,000	身体をめぐるイスラームの規範とジェンダー：前近代の思想と法の比較研究
研究活動スタート支援	21K11942	相松真訓	1,200,000	360,000	ヒューム道徳哲学と現代メタ倫理学を基盤とした道徳判断の心理的・言語的分析
研究活動スタート支援	21K20008	井上和樹	800,000	240,000	T. S. エリオットの仏教理解におけるオカルティズムの影響をめぐる研究
研究活動スタート支援	21K20037	太田圭	1,200,000	360,000	先史・古代の日本列島北部における生業基盤成立過程の解明—レプリカ法を中心に—
研究活動スタート支援	21K20283	岩谷希真	900,000	270,000	ナッジの有効性の再検討：個人の情報処理スタイルや社会環境に着目して
研究活動スタート支援	22K119951	太田崇フランス	1,100,000	330,000	中世ヨーロッパにおけるバネ利型聖遺物容器の歴史的展開についての包括的研究
研究活動スタート支援	22K119953	高橋健二	1,000,000	300,000	布施が結ぶ社会：『マハーバーラタ』第13、14巻の研究
研究活動スタート支援	22K20016	松浦高志	900,000	270,000	碑文資料を用いたギリシア語初期叙事詩の言語研究の書き換え

研究種目	課題番号	研究代表者	令和4年度 直接経費	令和4年度 間接経費	研究課題名
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	19KK0014	菊地重仁	2,800,000	840,000	西欧初期中世法文化の形成と変容に関する研究:フランク期法・規範史料の「文脈化」
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	21KK0009	福田正宏	2,900,000	870,000	日露共同調査によるサハリン新石器時代社会形成過程の解明
若手研究	19K12960	志田雅宏	700,000	210,000	中世ユダヤ教文学におけるキリスト教世界への対抗的言説の複合的研究
若手研究	19K12978	松原薫	600,000	180,000	専門家と愛好家の音楽美学—18世紀のバッハ受容を手がかりに
若手研究	20K12780	富山豊	800,000	240,000	現代論理学に基づくフッサール数学論の再構築
若手研究	20K12802	一色大悟	500,000	150,000	近世日本の俱舎学文献に対する基礎的研究:東京大学所蔵資料を中心に
若手研究	20K12884	郷仁善	900,000	270,000	冷戦期アメリカ映画の東アジア配給における日本の役割—韓国市場を中心に
若手研究	20K12979	古宮路子	500,000	150,000	ロシア・アヴァンギャルド散文の変遷史:1920年代ソ連文学の歴史・理論・美学
若手研究	20K13023	石塚政行	600,000	180,000	バスク語の非定形副詞節の認知・機能言語学的研究
若手研究	20K13694	税所真也	600,000	180,000	高齢社会における日本と中国の家族のあり方:成年後見制度の運用からみた社会学的研究
若手研究	21K12847	渡辺優	700,000	210,000	西欧神秘主義および経験・体験概念をめぐる系譜学的研究
若手研究	21K13128	内田康太	700,000	210,000	共和政ローマの終焉と帝政ローマの成立過程の研究
若手研究	21K13745	中山遼平	700,000	210,000	動的情報の予測処理にもとづく知覚意識の成立過程
若手研究	22K12971	崔境真	800,000	240,000	チョム・デン・リクベールレティの『論理学七部論書狂蔽章』第2章の翻訳および思想研究
若手研究	22K13006	野村悠里	1,300,000	390,000	19、20世紀におけるルリユールの国際的展開:工芸製本家の書物観と製本技術の継承
若手研究	22K13027	矢口直英	1,200,000	360,000	『医学典範』注釈書における解剖学の展開と意義
若手研究	22K13218	三浦雄城	600,000	180,000	儒教教化の発展的研究
若手研究	22K13238	夏木大吾	900,000	270,000	遺跡形成過程分析による北海道の更新世末人類社会の解明
挑戦的研究(開拓)	22K18251	森先一貴	18,900,000	5,670,000	海と陸からの統合的アプローチによる日本列島旧石器研究の革新
挑戦的研究(萌芽)	21K18558	大坪庸介	1,600,000	480,000	協力シグナルの進化に関する理論・実証的研究
挑戦的研究(萌芽)	22K18446	古田徹也	800,000	240,000	思想史研究による「内面—外面」図式の再考に基づく、「心」概念の探究枠組みの刷新
挑戦的研究(萌芽)	22K18448	大向一輝	1,000,000	300,000	日本におけるウェブの通時的変遷を把握するための知識ベースの構築
挑戦的研究(萌芽)	22K18550	赤川学	600,000	180,000	猫と人間の関係を分析する猫社会学の理論と方法の開拓

令和5(2023)年度

【補助金】

研究種目	課題番号	研究代表者	令和5年度 直接経費	令和5年度 間接経費	研究課題名
新学術領域研究(研究領域提案型)	19H05725	今水寛	20,200,000	6,060,000	超適応を促す身体認知・情動機構の解明
学術変革領域研究(A)	23H03878	鈴木敦命	2,000,000	600,000	直感的信頼の高齢者優位性—図や実験課題・分析法を越えた頑健性に関する検討
学術変革領域研究(A)	23H03908	太田圭	1,200,000	360,000	北海道島における縄文／弥生移行期の植物利用の解明—道東・道北における圧痕調査—
学術変革領域研究(A)	23H04851	小島毅	7,600,000	2,280,000	アジア・イスラムなどの非欧米圏の尊厳概念史の構築
学術変革領域研究(A)	23H04852	納富信留	4,000,000	1,200,000	欧米圏と非欧米圏の尊厳概念史を統合して尊厳概念に基づく世界哲学史の構築
基盤研究(A)	19H00528	齋藤希史	6,000,000	1,800,000	国際協働による東アジア古典学の次世代展開—文字世界のフロンティアを視点として
基盤研究(A)	20H00004	市川裕	7,100,000	2,130,000	生きられた古代宗教の視点による古代ユダヤ変革期の東地中海世界の総合的宗教史構築
基盤研究(A)	21H04339	高橋晃一	4,900,000	1,470,000	『カダム全集』所収「阿毘達磨集論」注釈群のXML電子テキスト構築
基盤研究(A)	21H04343	鈴木晃仁	7,500,000	2,250,000	20世紀日本の医療・社会・記録—医療アーカイブズから立ち上がる近代的患者像の探求
基盤研究(A)	22H00001	養輪顕量	6,600,000	1,980,000	仏教学・心理学・脳科学の協同による止観の総合的研究
基盤研究(A)	22H00014	守川知子	9,600,000	2,880,000	近世ユーラシアの宗教アイデンティティ:グローバル多元主義と地域大国主義の相克
基盤研究(A)	23H00074	亀田達也	7,700,000	2,310,000	集合的意思決定のメカニズム:計算モデルによる集合知発生条件の解明
基盤研究(B)	20H01188	藤原聖子	1,600,000	480,000	宗教現象学の形成と論争に関するトランスナショナル・ヒストリー
基盤研究(B)	20H01270	鎌田美千子	1,500,000	450,000	日本語教師養成・研修におけるライティング教育実践能力の育成—批判的思考を中心に—
基盤研究(B)	20H01752	唐沢かおり	3,400,000	1,020,000	「感じる心」の知覚と道徳的判断:哲学との連携による統合的理解の構築
基盤研究(B)	21H00487	秋山聡	4,000,000	1,200,000	形象の記述・記録についての比較美術史的な研究
基盤研究(B)	21H00608	森先一貴	1,500,000	450,000	日本列島における現生人類移住初期の環境適応史研究
基盤研究(B)	21H00656	葛西康徳	2,100,000	630,000	人文主義法学の比較法学的再定位
基盤研究(B)	21H00931	大坪庸介	4,300,000	1,290,000	関係価値と和解のミクロ・マクロ・ダイナミクスに関する研究
基盤研究(B)	21H00959	今水寛	4,300,000	1,290,000	高精度な脳刺激による運動主体感の解明
基盤研究(B)	22H00617	高岸輝	4,400,000	1,320,000	中世絵師組織の社会的活動基盤と様式系統の相関—十四世紀の縁起・絵伝を結節点として
基盤研究(B)	22H00710	福田正宏	4,300,000	1,290,000	宗谷海峡域における新石器・縄文時代生活史の実態解明
基盤研究(B)	22H00902	赤川学	1,500,000	450,000	人口減少社会における多重的社会問題の総合的研究
基盤研究(B)	23H00558	古田徹也	3,700,000	1,110,000	近代以降の日本における「幸福」概念の特性の解明、およびその学際的・国際的応用
基盤研究(B)	23H00559	栗立雄輝	3,300,000	990,000	偶然性概念の哲学史的・概念史的研究:現代の諸課題の再文脈化の試みへ向け
基盤研究(B)	23H00564	加藤隆宏	4,100,000	1,230,000	デーヴァナーガリー文字OCRの実用化と文獻データベースの利活用にもむけた応用研究
基盤研究(B)	23H00589	小林真理	3,500,000	1,050,000	平成の日本の文化政策と文化政策関連研究の検証
基盤研究(B)	23H00691	根岸洋	3,800,000	1,140,000	縄文時代前半期における火山災害・古環境変動への地域適応史の解明
基盤研究(B)	23H01052	村上郁也	3,100,000	930,000	意識の記述形態としての時間生成と位置生成および行為主体感に関する実験心理学的研究

【助成金】

研究種目	課題番号	研究代表者	令和5年度 直接経費	令和5年度 間接経費	研究課題名
基盤研究(C)	20K00068	池澤優	800,000	240,000	死生学・応用倫理学などの学術領域における宗教性の調査と分析
基盤研究(C)	20K00143	小田部胤久	800,000	240,000	美学の古典賦活のためのモデル構築
基盤研究(C)	20K00168	芳賀京子	600,000	180,000	ヘレニズム後期からローマ帝政初期への転換期における彫刻工房の地域流派の研究
基盤研究(C)	20K00312	安藤宏	700,000	210,000	太宰治研究資料の情報ネットワークの構築
基盤研究(C)	20K00384	阿部公彦	700,000	210,000	18世紀以降の英語圏文学等における「注意」「共感」と「言語運用能力」表象の研究
基盤研究(C)	20K00434	後藤和彦	750,000	225,000	「戦後的思考」の文学的ディレンマについて—アメリカ南部文学と近代日本文学の相違
基盤研究(C)	20K00465	中地義和	700,000	210,000	ル・クレジオとアジア文化
基盤研究(C)	20K00491	山本潤	800,000	240,000	ドイツ英雄詩の受容史研究—英雄詩素材の歴史的アクチュアリティ
基盤研究(C)	20K00660	渡邊明	400,000	120,000	日英語の程度表現の微細構造および不定語のシステムとの関係
基盤研究(C)	20K01035	戸部彰	700,000	210,000	アデナウアー期西ドイツの西側結合とナショナリズム:ザールラント帰属問題に注目して
基盤研究(C)	21K00027	頼住光子	500,000	150,000	大乗仏教の存在論と現視座からの道元の思想構造の総合的研究—比較思想的探求
基盤研究(C)	21K00067	菊地達也	1,000,000	300,000	イスラーム諸思想における「グノーシス主義」の比較研究
基盤研究(C)	21K00083	王寺賢太	1,100,000	330,000	フランス啓蒙における立法者問題:政治的自律の創設と社会・宗教・歴史
基盤研究(C)	21K00322	鈴木将久	600,000	180,000	魯迅作品日本語翻訳の総合的研究
基盤研究(C)	21K00428	土肥秀作	1,000,000	300,000	イタリア戦争捕虜「収容所文学」研究—「捕虜の世界史」構築にむけて
基盤研究(C)	21K00430	平野嘉彦	1,100,000	330,000	世紀転換期ブラハのドイツ語文学における認識論と言語思想—フランク・カフカを例に
基盤研究(C)	21K00431	塩塚秀一郎	600,000	180,000	19世紀後半以降のフランスにおける〈集合住宅文学〉に関する研究
基盤研究(C)	21K00522	長屋尚典	800,000	240,000	コーパスを用いたタガログ語談話小辞の研究
基盤研究(C)	21K00552	近藤明日子	500,000	150,000	拡張した近代語コーパスを使用した口語体実用文の成立過程の計量的研究
基盤研究(C)	21K01610	島田竜登	900,000	270,000	18世紀アジア域内貿易と季節変動調整メカニズム:オランダ東インド会社を事例として
基盤研究(C)	21K01856	祐成保志	900,000	270,000	ベーシック・サービスとしての居住支援に関する社会学的基礎研究
基盤研究(C)	21K01992	金成埤	1,100,000	330,000	韓国におけるベーシックインカム構想と後発福祉国家のゆくえ
基盤研究(C)	21K03124	鈴木敦命	900,000	270,000	顔印象とそのメタ認知の正確性／偏りの個人差に関する実験心理学的検討
基盤研究(C)	22K00027	高山守	1,100,000	330,000	独自の手話言語研究に基づく、哲学の新たな展開
基盤研究(C)	22K00160	坂口愛子(蔵田愛子)	1,100,000	330,000	近代日本の植物園に関する基礎的研究
基盤研究(C)	22K00179	増記隆介	900,000	270,000	仏教絵画における聖と俗の往還に関する比較美術史的研究
基盤研究(C)	22K00312	陳捷	1,000,000	300,000	清末の中国外交官が見た明治日本—清国駐日公使館随員孫点の記録を中心として
基盤研究(C)	22K00444	ケブラータサキシュテファン	900,000	270,000	Global Literature from German Artist Residences Abroad
基盤研究(C)	22K00461	塚本昌則	800,000	240,000	雑録体としての人間—ポール・ヴァレリーの詩学を中心に
基盤研究(C)	22K00892	吉田伸之	900,000	270,000	江戸近郊多摩川下流域左岸の地帯構造と都市性
基盤研究(C)	22K03199	浅野倫子	1,200,000	360,000	視聴覚コンテンツにおける映像と音楽の適合性の効果の実験心理学的検討
基盤研究(C)	22K12638	小野仁美	600,000	180,000	身体をめぐるイスラームの規範とジェンダー:前近代の思想と法の比較研究
基盤研究(C)	23K00046	大島智晴	400,000	120,000	ヴェーダ文獻における祭主の規定から読み解く古代インドの社会倫理
基盤研究(C)	23K00054	八尾史	800,000	240,000	根本説一切有部律サンスクリット写本の研究
基盤研究(C)	23K00114	吉田寛	1,300,000	390,000	遊びとゲームの創造的機能についての美学的考察—メタゲームの事例を手がかりに

研究種目	課題番号	研究代表者	令和5年度 直接経費	令和5年度 間接経費	研究課題名
基盤研究(C)	23K00273	河野龍也	700,000	210,000	佐藤春夫旧蔵資料にもとづく文壇交流と近代アジア観の形成に関する研究
基盤研究(C)	23K00394	新井潤美	900,000	270,000	英国における「階級意識」、「郊外」とナショナル・アイデンティティ表象の研究
基盤研究(C)	23K00418	アマートロレンツォ	1,400,000	420,000	A Critical Edition of Giovan Battista Strozzi the Elder's Poetic Corpus: Reassessing Strozzi's Importance in Late Renaissance Italy
基盤研究(C)	23K00476	白井聡子	1,100,000	330,000	ダバ語形態統語法の総合的研究
基盤研究(C)	23K00495	大西克也	800,000	240,000	上古中国語アスペクト研究—有標形式と無標形式が表現する文法的意味
基盤研究(C)	23K00518	小林正人	800,000	240,000	ブラフイー語の言語記述とドラヴィダ語族系統樹の再検討
基盤研究(C)	23K00519	伊藤智ゆき	1,400,000	420,000	1970年代韓国朝鮮語咸鏡道方言の音響音声学的研究
基盤研究(C)	23K00625	向井留美子	700,000	210,000	アカデミック・ライティング指導のための引用文の形態分類と機能解明を目指す調査研究
基盤研究(C)	23K00864	吉澤誠一郎	700,000	210,000	近代中国における自然科学の社会的・思想的インパクト
基盤研究(C)	23K00878	佐川英治	1,000,000	300,000	初期碑文慣行を通じてみる中国古代の社会結合の特徴に関する研究
基盤研究(C)	23K00893	長井伸仁	1,200,000	360,000	近代フランスにおける革命犠牲者と政治文化:「七月の円柱」の事例
基盤研究(C)	23K00903	橋場弦	1,300,000	390,000	古代ギリシア民主政の拡散と変容に関する政治文化史的研究
基盤研究(C)	23K00829	熊木俊朗	900,000	270,000	竪穴住居の利用形態からみた縄文文化の研究 —住居跡の内部構造と廃絶儀礼の分析—
基盤研究(C)	23K01767	井口高志	500,000	150,000	社会学を基盤とした批判的認知症研究の構築と「認知症社会」の記述・評価・構想
基盤研究(C)	23K02832	村本由紀子	700,000	210,000	社会環境に応じた「不人気な規範」の生成・維持・変容過程の探究
研究活動スタート支援	22K19951	太田泉フロランス	1,100,000	330,000	中世ヨーロッパにおけるパネル型聖遺物容器の歴史的展開についての包括的研究
研究活動スタート支援	22K19953	高橋健二	1,100,000	330,000	布施が結ぶ社会『マハーバーラタ』第13、14巻の研究
研究活動スタート支援	22K20016	松浦高志	900,000	270,000	碑文資料を用いたギリシア語初期叙事詩の言語研究の書き換え
研究活動スタート支援	23K18622	朴賢珍	900,000	270,000	仏華蔵経「寂滅道場会」の研究
研究活動スタート支援	23K18643	吉田夏美	500,000	150,000	谷崎潤一郎を視座とした占領期関西のメディア研究—文化論を中心に—
研究活動スタート支援	23K18645	市原靖久	400,000	120,000	上古中国語指示詞の体系—叙述類型と主題構造—
研究活動スタート支援	23K18646	塚越柚季	1,100,000	330,000	ヴェーダ文献テクストの構造化およびテクスト間の言語的関係の解明
研究活動スタート支援	23K18672	五月女颯	1,100,000	330,000	ポストコロナリアル・環境批評の理論構築:ジョージア近代文学の事例から
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	19K00014	菊地重仁	3,500,000	1,050,000	西欧初期中世法文化の形成と変容に関する研究:フランク期法・規範史料の「文脈化」
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))(令和3(2021)採択分)	21K00009	福田正宏	3,600,000	1,080,000	日露共同調査によるサハリン新石器時代社会形成過程の解明
若手研究	20K12979	古宮路子	500,000	150,000	ロシア・アヴァンギャルド散文の変遷史:1920年代ソ連文学の歴史・理論・美学
若手研究	20K13694	税所真也	500,000	150,000	高齢社会における日本と中国の家族のあり方:成年後見制度の運用からみた社会学的研究
若手研究	21K12847	渡辺優	600,000	180,000	西欧神秘主義および経験・体験概念をめぐる系譜学的研究
若手研究	21K13745	中山遼平	1,000,000	300,000	動的情報の予測処理にもとづく知覚意識の成立過程
若手研究	22K12971	崔境真	700,000	210,000	チョムペン・リクベール・レティの『論理学七部論書註釈』第2章の翻訳および思想研究
若手研究	22K12996	鈴木(中田)亘	500,000	150,000	ジャック・ランシエール『アイステシス』の読解を通じた近代芸術史の再解釈
若手研究	22K13006	野村悠里	900,000	270,000	19、20世紀におけるルリユールの国際的展開:工芸製本家の書物観と製本技術の継承
若手研究	22K13027	矢口直英	1,000,000	300,000	『医学典範』注釈書における解剖学の展開と意義
若手研究	22K13218	三浦雄城	700,000	210,000	儒教国教化の発展的研究
若手研究	22K13238	夏木大吾	1,000,000	300,000	遺跡形成過程分析による北海道の更新世末人類社会の解明
若手研究	23K12019	志田雅宏	700,000	210,000	中世西欧キリスト教世界のユダヤ教文献にみられる宗教観についての研究
若手研究	23K12020	佐藤清子	400,000	120,000	アメリカ合衆国の公共領域と宗教の研究—宗教右派の教育戦略—
若手研究	23K12021	藤井修平	200,000	60,000	日本における宗教に関する質問紙調査の収集およびデータベース構築
若手研究	23K12118	井上和樹	400,000	120,000	T. S. エリオットとW. B. イェイツに対する日本のオカルティズムをめぐる研究
若手研究	23K12857	岩谷舟真	700,000	210,000	デフォルト・ナッジの倫理的側面についての再検討:個人の情報処理スタイルに着目して
若手研究	23K12928	田中拓海	1,200,000	360,000	主体感に基づく運動制御メカニズムの解明
挑戦的研究(開拓)	22K18251	森先一貴	6,700,000	2,010,000	海と陸からの統合的アプローチによる日本列島旧石器研究の革新
挑戦的研究(萌芽)	21K18558	大坪庸介	1,600,000	480,000	協力シグナルの進化に関する理論・実証的研究
挑戦的研究(萌芽)	22K18446	古田徹也	1,100,000	330,000	思想史研究による「内面—外面」図式の再考に基づく、「心」概念の探究枠組みの刷新
挑戦的研究(萌芽)	22K18448	大向一輝	1,000,000	300,000	日本におけるウェブの通時的変遷を把握するための知識ベースの構築
挑戦的研究(萌芽)	22K18550	赤川学	2,300,000	690,000	猫と人間の間接関係を分析する猫社会学の理論と方法の開拓

(2) 奨学寄附金

令和4(2022)年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
村上 郁也	公益財団法人稲森財団	1,000,000	稲森研究助成「日本語読文能力を支える視覚運動処理に関する心理物理学的検討」の機関経理として
長井 伸仁	公益財団法人高梨学術奨励基金	1,000,000	高梨学術奨励基金「フランス革命家、反革命家たちは17世紀イギリス革命の歴史をどのように読んだのか?」の機関経理として
下田 正弘	一般財団法人人文情報学研究所	4,500,000	人文情報学を踏まえた次世代人文社会科学研究のため
加藤 隆宏	鳥飼 きよの 様	6,500,000	布施学術基金に対する寄附
根岸 洋	公益財団法人サントリー文化財団	1,200,000	サントリー文化財団研究助成「圍繞施設のデジタル三次元計測による縄文時代観の再考」に対する研究助成
小島 毅	公益財団法人武田科学振興財団	600,000	杏雨書屋研究助成「日本医学史における明遣民の歴史的立場づけ—遣民医師戴曼公に関する研究—」の機関経理として
蓑輪 顕量	公益財団法人克念社	500,000	文学部インド哲学仏教学研究室の「仏教、特に日本仏教の研究」に対する助成
蓑輪 顕量	一般財団法人仏教学術振興会	1,000,000	一般財団法人仏教学術振興会研究助成
勝田 俊輔	匿名の個人	5,000,000	西洋史学研究室における研究・教育の拡充
小島 毅	公益財団法人上廣倫理財団	600,000	「清代中国における但徠学を受容— 十八・九世紀の漢籍逆輸入を中心に」の機関経理として
下田 正弘	公益財団法人全日本仏教会	4,200,000	大蔵経データベース事業に関連する人文社会科学研究活動支援のため
東京大学大学院人文社会系研究科長	株式会社ナレッジカンパニー	20,000,000	鳥取県米子市淀江町一帯を含む考古学的・文化資源学的研究の支援
東京大学大学院人文社会系研究科長	櫻井 親良 様 ほか11名	1,080,000	人文社会系研究科支援のため(東大基金特別セミナー)※2022年2月～2023年2月入金分
東京大学ヒューマニティーズセンター長	齋藤 克史 様	100,000	ヒューマニティーズセンター支援のため(オープンヒューマニティーズ基金)※2023年1月入金分

令和5(2023)年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
赤川 学	公益財団法人たばこ総合研究センター	750,000	「判断能力が不十分な方の嗜好品摂取に関する社会学的研究:たばこ・酒・コーヒー等の摂取に関わる成年後見人による支援の検討」の機関経理として
今水 寛	公益信託時実利彦記念脳研究助成基金	1,000,000	「ニューロイメージング・心理実験・計算論の融合によるヒト適応メカニズムの解明」に対する研究助成
堀江 宗正	公益財団法人上廣倫理財団	4,300,000	国際シンポジウム「共感とケアの倫理の新たな次元を探究する——異文化間対話と異分野間対話」の機関経理として
梶原 美恵子	公益財団法人中辻創智社	300,000	The 14th International Indology Graduate Research Symposiumへの会議開催費の機関経理として
梶原 美恵子	公益財団法人三島海雲記念財団	500,000	「第14回国際インド学大学院生研究シンポジウム」の機関経理として
長井 伸仁	西山 裕子 様	500,000	フランス史の研究及び教育のため
勝田 俊輔	小川 眞里子 様	1,000,000	西洋史学研究室の教育及び研究に対する支援
小島 毅	公益財団法人村田学術振興財団	1,150,000	「明治維新の思想資源としての宋代史受容——兵学者・平山行蔵の再評価を通じて——」の機関経理として
根岸 洋	公益財団法人三菱財団	3,100,000	「日本列島北部における土器出現イベントと火山災害適応史の解明」に係る助成
唐沢 かおり	公益財団法人前川財団	900,000	「象徴的偏見の軽減:世代間交流やインクルーシブ教育のために」の機関経理として
大向 一輝	一般財団法人人情報学研究所	1,100,000	人情報学を踏まえた次世代人文社会学研究のため
勝田 俊輔	匿名の個人	5,000,000	西洋史学研究室における研究・教育の拡充
荻輪 顕量	公益財団法人克念社	500,000	文学部インド哲学仏教学研究室の「仏教、特に日本仏教の研究」に対する助成
荻輪 顕量	一般財団法人仏教学術振興会	1,000,000	一般財団法人仏教学術振興会研究助成「SAT大蔵経データベースを直接の資料として用いた研究」
吉田 寛	公益財団法人日立財団	640,000	倉田奨励金「インターネット知識コモンズの構造に関する研究:デジタル楽譜コモンズを事例に」の機関経理として
赤川 学	公益社団法人日本経済研究センター	530,000	日本経済研究センター研究奨励金「生活協同組合による成年後見」の機関経理として
荻輪 顕量	公益財団法人全日本仏教会	3,900,000	SAT大蔵経テキストデータベース事業に関連する人文社会学研究活動支援のため
東京大学大学院人文社会系研究科長	匿名の個人	54,223	文学部図書館、文学部図書室事務費のため
東京大学大学院人文社会系研究科長	矢田 悠 様	600,000	人文社会系研究科支援のため(東大基金特別セミナー)※2023年2月～2024年2月入金分
東京大学ヒューマニティーズセンター長	薄 鋒 様 ほか10名	242,000	ヒューマニティーズセンター支援のため(オープンヒューマニティーズ基金)※2023年3月～12月入金分

(3) 受託研究 (事業) 費・共同研究費

令和4(2022)年度

受入れ教員	種別	契約相手方	受入れ研究費(円)	研究目的
唐沢 かおり	共同研究	株式会社日立製作所	1,000,000	行動計測によるパーソナリティ推定技術の開発検討
大坪 庸介	受託研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	700,000	匂いによる母子間交流を活用した安全・安心の創造／新生児の匂いと羊水の匂いの安全・安心利用;心理効果を中心に
亀田 達也	受託研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	9,000,000	脳領域／個体／集団間のインタラクション創発原理の解明と適用／人間集団のインタラクション創発現象の観察と解析
瀧川 裕貴	受託研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	20,933,900	パンデミックに備える社会的データ収集枠組みの構築と数理モデルによるネットワーク介入の有効性評価
瀧川 裕貴	受託研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	6,020,000	計算社会科学手法による福祉と主体性の主要軸の特定
荻輪 顕量	受託研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	6,760,000	仏教文献調査と仮想デザイン
大坪 庸介	受託研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	6,500,000	良い集合的決定の心理・インタラクション基盤の究明
唐沢 かおり	受託事業	独立行政法人日本学術振興会	1,200,000	社会心理学分野に関する学術研究動向ー科学技術社会への応用研究に着目して
頼住 光子	受託事業	独立行政法人日本学術振興会	1,200,000	倫理学分野に関する学術研究動向ー日本思想研究のグローバル化と比較思想的視座に立った日本からの情報発信の新たな潮流

令和5(2023)年度

受入れ教員	種別	契約相手方	受入れ研究費(円)	研究目的
唐沢 かおり	共同研究	株式会社日立製作所	1,000,000	行動計測によるパーソナリティ推定技術の開発
白波瀬 佐和子	共同研究	株式会社クボタ	7,800,000	グローバルな食料・水・環境の包摂的未来社会の構築にむけたグローバルビオループ探究ワーキンググループ
松田 陽	共同研究	三菱地所株式会社	7,020,000	神田エリアの歴史資産とその評価
村本 由紀子	共同研究	株式会社リクルートマネジメントソリューションズ	1,000,000	多元的無知の維持メカニズムの調整要因の検討:心理的安全性に着目して
瀧川 裕貴	受託研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	8,177,000	パンデミックに備える社会的データ収集枠組みの構築と数理モデルによるネットワーク介入の有効性評価
瀧川 裕貴	受託研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	13,962,000	計算社会科学手法による福祉と主体性の主要軸の特定
荻輪 顕量	受託研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	16,365,700	仏教文献調査と仮想デザイン
大坪 庸介	受託研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	13,000,000	良い集合的決定の心理・インタラクション基盤の究明
大向 一輝	受託研究	国立研究開発法人科学技術振興機構	2,600,000	患者行動情報の記録・公開・感染リスク推論技術
頼住 光子	受託事業	独立行政法人日本学術振興会	1,200,000	倫理学分野に関する学術研究動向ー日本思想研究のグローバル化と比較思想的視座に立った日本からの情報発信の新たな潮流
加藤 隆宏	受託事業	国立研究開発法人科学技術振興機構	2,754,460	国際青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプログラム)

5. 教育・研究支援組織

(1) 図書室

■蔵書数（令和6（2024）年3月末現在）

図書	1,145,652 冊	（うち洋書	575,741 冊）
年間受入図書冊数	9,799 冊	（うち洋書	4,485 冊）（令和5年度）
所蔵雑誌種数	13,379 種	（うち洋雑誌	3,749 種）
年間受入雑誌種数	1,078 種	（うち洋雑誌	538 種）（令和5年度）

■図書資料の蔵置

現在、文学部の蔵書は図書委員会の管理・運営の下で、以下の書庫や研究室に分散配架しているが、いずれも書架スペースの狭隘化問題を抱えている。この問題を解決するため、アジア研究図書館への図書移管および総合図書館自動書庫への製本雑誌移管を開始したが、図書資料の配置についても根本的に見直す必要がある。

1) 法文2号館図書室

おもに雑誌のバックナンバー、参考図書、本研究科授与の新制（1991年度～）博士論文（課程博士）、本研究科・学部の教員著作、マイクロ資料などを配架。

2) 文学部3号館図書室

研究室図書の一部と叢書全集・史資料を配架。

3) 貴重書庫（法文2号館書庫内）

インド哲学仏教学・宗教学宗教史学・美学芸術学・日本史学・西洋史学・東洋史学・言語学・国語学・国文学・心理学の各研究室の貴重書を配架。各研究室等でも相当数の貴重書を保存。

平成15年度に新貴重書庫・準貴重書庫を新設し、スペース不足は解消された。また、保存環境についても、定期清掃の実施や温湿度管理の徹底、防虫剤の定期交換等により、大幅に改善されつつある。

4) 各研究室

研究室の図書資料は、法文1号館・法文2号館・文学部3号館・総合研究棟（弥生地区）・赤門総合研究棟の各研究室に配架。

5) 法文1号館書庫

各研究室の稀用図書、考古学関係の発掘調査書等を配架。

6) マイクロ資料室（法文1号館書庫内）

中国思想文化学・インド哲学仏教学・宗教学宗教史学・日本史学・東洋史学・西洋史学・国語学・国文学・中国語中国文学・インド語インド文学・スラヴ語スラヴ文学の各研究室及び次世代人文学開発センターのマイクロ資料を配架。

■サービス体制

1) 文学部3号館図書室

総合受付サービス窓口で、貸出・文献複写・現物貸借依頼受付、マイクロ資料の閲覧・複写、他大学・機関への紹介状の発行、各種申請の受付、及びレファレンスサービス等を行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後9時（短縮期間中は午前9時～午後5時）、土曜の午前10時～午後6時（短縮期間中は閉室）。OPAC用パソコン2台（うちデジタル資料閲覧兼用パソコン1台）、コピー機2台、マイクロリーダープリンター1台を設置。

2) 法文2号館図書室

主として、法文2号館図書室に配架された雑誌・博士論文の閲覧・複写・貸出サービスを行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後5時30分（短縮期間中は午前9時～午後5時）。OPAC用パソコン1台、コピー機2台を設置。個人閲覧席11席を整備したキャレルコーナーがある。

ここに本研究科・学部の図書業務（資料の受入・登録・製本・目録）を行う事務室がある。

■最近の利用状況

	令和4（2022）年度	令和5（2023）年度
・入館者数	12,202 人	14,840 人
・貸出冊数	10,336 冊	9,944 冊
・文献複写	55,922 枚	54,918 枚
・参考業務	1,643 件	1,572 件
・相互協力	1,932 件	1,554 件

■新型コロナウイルス感染症対応

新型コロナウイルス感染防止対策のため、学外者（卒業生・元教員を含む）の利用を停止していたが、2022年7月4日より、事前予約制による閲覧利用を再開した。

(2) 漢籍コーナー

漢籍コーナーは、文学部の各研究室が所蔵する「漢籍」（中国前近代資料）を集中配架・共同利用するために、1967（昭和42）年法文2号館2階に設置、1970年に利用開始となり、2004年2月に赤門総合研究棟6階に移転し、現在に至る。中国思想文化学・中国語中国文学・東洋史学・韓国朝鮮文化・インド哲学仏教学・言語学の6研究室が所有・購入する中国前近代資料（一部日本・朝鮮関係資料などを含む）、いわゆる漢籍資料を中心として、20世紀前半頃までの中国関係資料も含めると総数10万冊を超える資料を所蔵している。また、小倉文庫（朝鮮語資料・朝鮮本）・瀧田文庫（日本禅籍）といったコレクションもあり、蔵書の中には孤本・稀覯本など貴重な資料も少なくない。

漢籍を伝統的な四部分類法で配架した「書庫」、貴重書を保管する「貴重書庫」のほか、参考図書等を備えた「閲覧室」があり、中国学および関連分野を専攻する学生・教職員に研究・教育・学習の場として、文学部のみならず他学部や他部局、学外の学生・研究者にも利用されている。とりわけ、近年、ほぼすべての所蔵図書がOPACに登録されたため、学内他部局や学外からの利用者が増加している。また、上述の小倉文庫の朝鮮本については、2019年8月から東京大学学術資産等アーカイブズポータルにおいて画像のデジタルデータが公開されており（<https://iif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/ogura/page/home>）、瀧田文庫も同様に公開予定であることから、国内外の関連研究者等による一層の活用が期待される。

運営・管理は中国思想文化学・中国語中国文学・東洋史学・韓国朝鮮文化・インド哲学仏教学・言語学の6研究室の代表教員などで構成される「漢籍コーナー運営委員会」が行い、業務全般は教務補佐員3名が担当している。

2019年12月に初めて確認された新型コロナウイルス感染症は、間もなく日本にも波及し、その結果、漢籍コーナー運営もその影響を受けることになった。2020年度当初は暫時の閉室を余儀なくされたものの、東大全体の方針とも連動して再開した後は、感染予防対策を徹底し、閉室時間の短縮や閲覧室の事前予約など感染状況に応じた柔軟な対策を講じてきた。この期間中も海外からの利用問い合わせや複製依頼等が多く、それらにも可能な範囲で対応した。さらに関連研究室の購入図書や科研費購入図書を中心として年間1,000冊程度のペースで蔵書を受け入れた。既存の蔵書についても、文学部の予算補助を受け、損傷の激しい図書の補修を継続しており、貴重書である明清版の修繕を進め、現在は閲覧業務も通常に復している。

これほどの量と質を備えた漢籍専門の開架型図書室を学部内に持つのは全国でも稀であり、明治以来の中国学の伝統を継承しつつアジア研究に力を入れてきた本学部ならではの施設といえる。近年は出版数の増加や電子資料の普及など「漢籍」をとりまく状況も変化しており、漢籍コーナーも外部利用者の増加や、デジタルデータの扱いなどに対する対応が求められている。そのため、漢籍を資産として管理・保全しながらも、資源として多様な学問分野の研究・教育に活用していくという、二つの責務をバランスよく果たしていくことが今後の課題となっている。2024年度からは、アジア研究図書館分室としての機能も担うこととなり、念願の週5日開室も実現した。今後も、教育と研究のための漢籍専門図書室として期待に応えられるよう、充実を図る。

(3) 大江健三郎文庫

大江健三郎文庫は、2021年1月、本学出身の作家大江健三郎氏が本学部に自筆原稿・校正刷等の資料を寄託したことを受けて設立の準備が始まり、2023年7月4日、大江健三郎氏の著作権継承者と納富信留研究科長とのあいだで寄託資料の利用に関する契約が締結されたことを受け、2023年9月1日、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部内に正式に開設された。

大江氏が寄託した自筆原稿・校正刷等の資料は1万8千枚に及び、現代作家の自筆原稿のコレクションとしては国内屈指の規模を誇っている。また2024年7月現在、関連図書1,420点、雑誌等2,425点を所蔵している。

大江健三郎文庫は、大江氏の自筆原稿・校正刷などのデジタル画像が閲覧可能な（1）「自筆原稿デジタルアーカイブ」、森昭夫氏が寄贈した大江氏の著書、関連図書、雑誌等を中心とする（2）「関連資料コレクション」、森氏から提供していただいた『大江健三郎書誌稿』のデータを基礎として、大向一輝准教授が構築した（3）「書誌情報データベース」から構成されている。上記（1）と（2）は研究者を対象に大江文庫内で閲覧ができ、（3）のデータベース（<https://open.dh.l.u-tokyo.ac.jp/oe/>）は一般に公開されている。

運営・管理は国文学・フランス文学・現代文芸論・次世代の4研究室の代表教員などで構成される「大江健三郎運営委員会」が行い、業務全般は助教1名、教務補佐員1名、技術補佐員1名が担当している。

開設後は、翻訳書を中心とする関連図書の収集を行った他、関連する研究書・論文に関するデータベースの整備も進め、文庫の充実を図っている。初年度は、日本文学、外国文学などを専門とする国内外の研究者および本学の教員・学生が本文庫を多数利用したほか、メディアのニュースなどでも取り上げられ、文庫の書誌情報データベースは「電子アワード 2023・チャレンジ・マインド賞」にノミネートされるなど、デジタル人文学の分野でも脚光を浴びた。今後も、更なる内容の充実を図っていきたい。

(4) 国際交流室

国際交流室は、1975 年 4 月に発足した「外国人留学生相談室」を前身とし、1988 年 5 月に、現在の「国際交流室」に改称された。同室は、国際交流委員会委員長を室長とし、留学生教育担当講師 1 名、主事員 1 名により構成されている。

国際交流室では、大学院人文社会系研究科・文学部における留学生（正規生、非正規生、交換留学生）の受け入れ、本局に在籍する留学生の修学面・生活面でのサポート、外国人研究員の支援を行っている。

国際交流室が行う留学生支援制度としては、日本での生活や研究活動をスムーズに開始できるよう日本人学生がサポートするチューター制度、非母語で学位論文を執筆する留学生のための修士論文・博士論文日本語添削制度がある。

また、留学生、外国人研究員、教員の交流促進のための懇談会、日本の文化や歴史を学びつつ、参加者同士の親睦を深めることを目的とした留学生見学旅行を開催している。

コロナ禍以降は、留学生に対するメンタル面でのケアを重視し、個別の細やかな対応に努めている。

講 師 **三宅 真由美** MIYAKE, Mayumi

1. 略歴

1995 年 3 月	南山大学法学部法律学科卒業
1997 年 3 月	名古屋大学大学院国際開発研究科国際開発専攻博士前期課程修了
2000 年 9 月	朝日大学教育職員（～2001 年 3 月）
2001 年 4 月	朝日大学留学生別科専任講師（～2010 年 3 月）
2010 年 4 月	朝日大学留学生別科日本語研修課程専任講師（～2012 年 9 月）
2012 年 10 月	信州大学経済学部講師（～2016 年 3 月）
2016 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科講師（～現在に至る）

2. 主な教育活動

(1) 留学生支援

大学院人文社会系研究科・文学部における留学生の受け入れ、本研究科・本学部で在籍する留学生に対する修学面及び生活面での支援等。

(2) 外国人研究員支援

外国人研究員の支援等。

◇ 主要学内委員

国際交流委員会オブザーバー

3. 主な研究活動

a 専門分野

留学生教育、留学生政策

b 研究課題

シンガポールの留学生教育について、経済成長政策の視座から研究を進めており、1980 年代から現在に至るまでの日本及びシンガポールにおける留学生教育の比較研究にも取り組んでいる。こうした研究を通じ、新たな留学生受け入れモデルの構築をめざしている。

(5) 日本語教室

日本語教室は、1992 年に設置された「国際交流室分室」を前身とし、2008 年の「国際交流室・日本語教室」への名称変更を経て、2021 年に「日本語教室」になった。日本語教室では、人文社会系研究科・文学部での勉学や研究に求められる高度な日本語力を養うことを目的に、(1) 日本語科目の開講、(2) 日本語集中講座の開講、(3) 学習サポートの実施等を通して日本語教育の充実を図っている。

2022 年度及び 2023 年度も例年通り、S セメスター・A セメスターの両セメスターにおいて日本語科目及び日本語集中講座を開講するほか、個別指導形式の学習サポートを実施し、日本語教育の充実を図った。日本語科目に関しては、S セメスター7 科目、A セメスター7 科目開講し、2022 年度は延べ 145 名、2023 年度は延べ 140 名が受講した。日本語集中講座に関しては、3 講座開講し、2022 年度は延べ 50 名、2023 年度は延べ 31 名が受講した。学習サポートに関しては、2022 年度は 5 月から翌年 1 月まで週 3～4 回実施し、延べ 127 名が利用した。2023 年度は、5 月から翌年 2 月まで週 3～4 回実施し、延べ 76 名が利用した。また、留学生が円滑に日本語学習に取り組めるように UTOL (旧 ITC-LMS) を活用した学習環境整備にも取り組んだ。

准教授 **鎌田 美千子** KAMADA, Michiko

30 次世代人文学開発センター《国際人文学部門》 参照

(6) 教育研究情報管理室

教育研究情報管理室（以下、情報管理室）は、大学法人化に伴い中期目標・中期計画書や、その達成度等の評価判断の目安とされる現況調査表・教育研究実績報告書を定期的に作成し提出することが義務づけられた一方、社会からは教育研究に関わる各種情報を公開し、また教育研究内容の広報活動を推進することが強く要請されている状況を踏まえ、2009 年度に設置された。そこで、情報管理室は、特に教育研究に関わる情報・資料等を部局として集積し、かつ電子データとして一括管理し、上記のような報告書・資料の作成作業の効率化を図るとともに、機密性の高い情報を管理する上での高度のセキュリティ対策を構築していくよう努めている。なお、情報管理室の設置に伴い、視聴覚教育センターと情報メディア室はその分室となり、協力して業務にあたっている。

2022～23 年度の業務としては、例年通り、授業改善アンケートの実施、博士課程修了者等進路先調査、教職就職者調査、学芸員就職者調査、文学部 HP に関する講習会（広報委員会との共催）、教員実績管理データベース入力講習会などを行い、2022 年度には『東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 教育・研究年報 16（2020～2021）』を編集、刊行した。このうち、文学部 HP 講習会は例年年度初めに開催しているが、2023 年度は文学部 HP のリニューアルにあわせて 6 月に教員・研究室対象の講習会と事務部対象の講習会を別々に開催し、新 HP での記事作成方法、公開手順等の講習を行った。また、教員実績管理データベース講習会は例年 5 月頃に主に新任教員を対象として行っているが、従来の標準実績データベースから研究者情報管理システムに移行するのにあわせ、2023 年度は 12 月に全教員を対象とした講習会を開催し、新データベースのデータ入力方法やデータ移行の方法などについての講習を行った。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大が始まった 2020 年度以降、オンラインの活用が広まったが、教育研究情報管理室でも、講習会はオンラインで行い、授業改善アンケートも 2020 年度以降は UTAS を利用したオンラインアンケートとして実施している。新型コロナウイルス感染防止のための制限が緩和、もしくは撤廃されてきているが、本研究科・本学部では 2022～23 年度においても授業や会議、その他、様々な催事がオンライン、あるいはハイブリッド（ハイフレックス）形式で行われており、そのための設備・機材整備や利用者サポートを、ネットワーク関係は分室である情報メディア室が、視聴覚機材関係は視聴覚教育センターが中心になって引き続き行っている。

構成員

教育研究情報管理室

室 長 鈴木淳（日本史学研究室教授）

講 師 石川洋

主事員 松原道子

A 視聴覚教育センター

講 師 石川洋

特任専門職員 菅家健一

主事員 木村京子

学術専門職員 今村加奈子

事務補佐員 小国浩一

B 情報メディア室

講 師 西川賀樹

助 教 大足恭平

主事員 堂前香織

講 師 石川 洋 ISHIKAWA, Hiroshi

1. 略歴

1986年3月 東京大学文学部東洋史学専修課程卒業
1986年4月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程入学
1989年3月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程修了
1989年4月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程進学
1994年3月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程単位取得のうえ退学
1994年4月 東京大学文学部助手（漢籍コーナー担当）
1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助手（漢籍コーナー担当）
2010年4月 東京大学大学院人文社会系研究科講師（教育研究情報管理室・視聴覚教育センター担当）

2. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、関東学院大学法学部、「外国史1・2」、2022.4～2024.3

(2) 学会

国内、中国社会文化学会、一般会員、2022.4～2024.3

国内、東方学会、一般会員、2022.4～2024.3

国内、史学会、一般会員、2022.4～2024.3

A 視聴覚教育センター

人文社会系研究科・文学部視聴覚教育センター（以下、「センター」）は、1964年に図書館の「総合化」の一環として語学教育と非文字資料の収集・利用を行うことのできる施設の設置と運営を総合図書館から委託された文学部が総合図書館3階に設置した「語学ラボラトリー」を前身とする。語学ラボラトリーは1984年に語学教育だけではなく視聴覚機器や視聴覚資料を活用した教育と研究全般を支援、推進する「視聴覚教育センター」に改められ、1986年には総合図書館5階に移転した。以来、センターは総合図書館において、自習室・教室・編集室などを備えた施設を管理・運営し、視聴覚資料の作成・収集と利用提供などの全学向け業務を行うとともに、本研究科・学部教育・研究活動に対する視聴覚面からの支援業務を行ってきた。しかし、総合図書館内の施設は、2014年度から開始された総合図書館の大規模改修工事（「新図書館計画」）のため、2016年11月にいったん閉鎖され、2017年1月に事務室のみ法文2号館2328室に仮移転した。その後総合図書館との間でセンターの扱いについて協議が続けられたが、最終的に2019年にセンターは総合図書館を離れ、本研究科・学部で正式移転し、本研究科・学部向け業務に専念することとなった。教室等の視聴覚設備の整備、授業や催事での視聴覚面でのサポート、講演やシンポジウム等の録画とアーカイブ化などがセンターの現在の主な業務となっている。

2009年4月よりセンターは組織上、教育研究情報管理室の分室となっている。センター運営には教員で構成される視聴覚教育センター運営委員会があたり、業務は2020年度に増員された1名を含めたセンター職員4名と教育研究情報管理室講師1名が担当している。

2022～2023年度の業務状況は以下の通りである。

(1) オンライン・ハイブリッド授業への対応

新型コロナウイルス感染防止のための制限が緩和もしくは撤廃され、全体としては対面授業に戻りつつあるものの、2022～2023年度においても一部の授業はオンライン、もしくは教室での授業を同時にオンラインでも配信するハイブリッド（ハイフレックス）形式で行われたため、引き続き教室にハイブリッド授業用機器を常設し、センターが教員のサポートと機器管理業務にあたった。ハイブリッド授業は対面授業に比べ教員の負担が大きく、様々な制約があるものの、学外からの参加（出席）が可能であるといったメリットもあることから、積極的に、あるいはやむを得ずハイブリッドで授業が行われているというのが現状であり、また、この状況が当面続くことが予想されることから、センターとして、教員がいつでもできるだけ小さな負担でハイブリッド授業ができるよう、環境（設備・機器）整備と支援を継続して行っている。

(2) 催事等のオンライン・ハイブリッド開催への対応

2020年前半には新型コロナウイルス感染防止のためほぼ全て中止された最終講義や講演会、学会などの催事も、2020年秋以降徐々に再開されるようになった。再開当初は、感染防止対策として、ほとんどの催事は、オンライン、もしくは会場参加とオンライン参加のどちらも可能なハイブリッド形式で開催された。その後、感染防止のための制限が

緩和、撤廃されても、感染対策というよりも遠隔地からの参加が可能というメリットゆえに、多くの催事がオンライン、もしくはハイブリッドで行われている。オンライン開催、ハイブリッド開催が感染防止の緊急措置ではなく催事開催の一つの形式として定着してきており、本研究科・学部でも、2022・23年のオープンキャンパス、2022年ホームカミングデイ、2023年3月の『大江健三郎文庫』設立記念式典・シンポジウムなどがオンラインやハイブリッドで開催され、また、最終講義も、2022年度は最終講義を行った教員3名全員、23年度は6名中4名の最終講義がハイブリッドとなり、オンライン配信をセンターが行った。この他、大学院入試説明会、ガイダンス、講習会、会議、打合せや、研究室や学会が主催するシンポジウム、講演会、研究会等も、オンラインやハイブリッドで開催されており、センターでは依頼や相談を受けて、機器の貸出・設置、配信サポートなどを行っている。授業に比べ催事の場合オンライン・ハイブリッド開催のメリットが大きく、今後も多くの催事がオンライン・ハイブリッドで開催されることが予想され、センターとしてオンライン配信に関わる設備・機器の整備とサポートの充実に努めている。

(3) 教室視聴覚設備整備

センターは本研究科・学部の教室の視聴覚設備の整備・保安全管理、視聴覚設備・機器に関わるサポート（利用者への技術指導、機器の故障への対応など）を担当している。

設備改修では、2022～23年度に、法文1号館114、211、210、311、314、310教室の設備改修を行い、文学部の教室視聴覚設備は全てHDMI（デジタル）対応になった。また、旧式プロジェクターの更新も小演習室を除き一通り終わることができた。ただ、スピーカーやスクリーンなどは更新が必要なものが多く残されており、今後順次更新していく予定である。本研究科・学部には3つの大教室を含め約30室の教室があり、その全てに視聴覚機器が設備されている。設備の老朽化、旧式化を防ぐためには継続的な設備更新が必要であり、加えて、「コロナ」以降、授業や大学で開催される催事の形態が変化してきており、教員からも設備に関していろいろな要望が出てきている。今後そうしたことも考慮して計画的、効率的に設備改修を進めていく必要がある。

教室に設置された視聴覚機器が増え、使用頻度も高くなってきていることから、設備・機器の保守も重要になってきている。教室視聴覚設備については、年1回業者による保守点検を行っているほか、定期的に職員による巡回点検・清掃を行っている。

(4) 視聴覚資料の収集と利用

センターは前身の語学ラボラトリー開設以来10,000点以上の音声・映像資料を収集、蓄積してきた。移転前は、これらの資料をセンター自習室において全学の学生・教職員の利用に供してきたが、移転後は、視聴覚設備や資料配架場所が確保できていないことに加え、著作権の問題もあり、所蔵資料の利用を停止している。近年、研究・教育目的の利用においても著作権法の遵守が強く求められているが、センター所蔵の視聴覚資料は長い期間に収集してきたものであり、現在の規定では利用が認められないものや限定的な利用しかできないものが少なからず含まれている。貴重な資料も多くあり、教員・学生からは利用再開が望まれており、現在の著作権法の規定をふまえた新たな利用方法（規則）を検討しているところである。また、催事等を撮影したビデオも蓄積されているが、公開や閲覧提供には著作権や肖像権などの問題があり、貴重な資料であるにもかかわらず十分に活用できていないのが現状である。資料整理も十分ではないことから、現在、資料整理とリスト作成を進め、旧メディアから現行メディアへの変換が必要な資料の処置もできる限り進めている。アーカイブ化は容易ではないが、重要な課題として継続して取り組んでいる。

B 情報メディア室

情報メディア室は、文学部の教育・研究用計算機システムおよびネットワークの構築・運用・管理を行うことを目的として1996年に設立された。情報システムの運用を行って教育・研究・業務に必要な各種サービスを提供している。また、インターネット環境を円滑に利用できるようにネットワークの整備を行っている。CERTとしても活動しており、各種セキュリティ対策情報の学部内への周知や情報セキュリティインシデントへの対応を行っている。その他、事務部や広報委員会と連携した情報システムによる広報活動の支援、文学部の各教員やプロジェクトの教育研究活動の支援等を行っている。

1. 情報システムの構築・運用・管理

教育・研究用計算機システム

教育・研究用計算機システムとして様々なサーバを管理・運用し、人文社会系研究科・文学部の構成員に対して電子メール、ホームページ（以下、HP）をはじめとする一般的なアカウントサービスを提供している。また、クラウドサービス等の導入も行っており、教育・研究・業務に有効な各種ツールについても提供している。

1) 文学部 Web サーバの運用

文学部公式 HP の Web サーバの運用を行っている。文学部公式 HP では、事務部や広報委員会、各研究室等からの発信情報があり、これらに対して共通の HP 編集システム (CMS) を提供している。また、研究室・個人 HP を公開するための Web サーバについても運用しており、ホスティングサービスを提供している。

2) 文学部メールの運用

クラウドサービスを用いて、文学部アドレスのメールやメーリングリストを提供している。標的型攻撃メールや不正アクセスが近年増加していることもあり、ユーザが安全にメールサービスを利用できるように各種の対策を行っている。

3) 文学部ドメインの管理

DNS サーバを運用し、文学部ドメイン `lu-tokyo.ac.jp` の管理・割り当てを行っている。また、文学部 LAN におけるインターネットアクセスのために、DNS キャッシュサーバを運用している。

4) データベースの管理

各教員の教育実績や研究業績をまとめ、点検評価に用いるためのデータベースシステムの管理を行っている。

5) グループウェアの運用

事務部からの情報発信や各研究室・部署で情報共有を行うためにグループウェアの運用を行っている。

6) 認証サーバの運用

無線 LAN や各種システムの認証を行うために、アカウント管理を行う認証サーバを運用している。

ネットワーク

人文社会系研究科・文学部の構成員が使用する主要な建物である法文 1 号館、法文 2 号館、文学部 3 号館、弥生総合研究棟、赤門総合研究棟、国際学術総合研究棟におけるネットワークの基幹部分の構築・運用・管理を行っている。

1) ネットワークの構築・運用

物理的なネットワーク配線、通信を中継するルータやスイッチ等のネットワーク機器を構築・運用し、研究室からキャンパス LAN である UTNET までの経路における通信サービスを提供している。サーバ等と同様に老朽化による故障を防ぐために定期的に機器の更新を行っている。また、機器の動作に異常がないか監視するシステムを導入しており、故障が発生した場合は常備している予備機への交換作業を行うことで、長時間にわたってネットワークが不通となることがないように対策を行っている。

有線 LAN を全部屋に配備している。また、無線 LAN についても文学部全館に配備しており、文学部 Wi-Fi・UTokyo Wi-Fi・eduroam 等を使用することができる。

2) LAN・DMZ の管理

構成員が通常のインターネット利用で使用する LAN と学外に機器を公開するための DMZ の管理を行っている。VLAN や IP アドレスの割り当て等の管理を行っており、ファイアウォールによる適切なアクセス制限を実施している。

3) SSL-VPN サービス

自宅等の学外から文学部 LAN に安全に接続できる SSL-VPN サービスを提供している。

講 師 **西川 賀樹** NISHIKAWA, Yoshiki

1. 略歴

2005 年 3 月	横浜国立大学工学部電子情報工学科卒業
2005 年 4 月	東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻修士課程入学
2007 年 3 月	東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻修士課程修了
2007 年 4 月	東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻博士課程入学
2010 年 3 月	東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻博士課程単位取得退学
2010 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科助教 (2015 年 3 月まで)
2012 年 7 月	理化学研究所計算科学研究機構客員研究員 (2017 年 3 月まで)
2015 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科特任助教 (2017 年 3 月まで)
2017 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科講師

2. 主な研究活動

研究領域 オペレーティングシステム・システムソフトウェア

2. 助教の活動

助教 大足 恭平 OASHI, Kyouhei
在職期間 2020年4月～現在
研究領域 地域研究（イラン）

6. 情報化と広報

(1) IT化

人文社会系研究科・文学部の情報化（IT化）は過去2年間着実に進歩した。新たなCMSを導入してHPのリニューアルを行った、新しいCMSの使用方法を説明する講習会等を実施して円滑に新HPへの移行を完了した。新HPではワークフロー等を用いることで、これまで必要だった作業や連絡を自動化してHP編集業務の効率化を行っている。また、CMSへの不正アクセスを防ぐために更なるセキュリティ強化も行っている。一般へのコンテンツ発信も増えており、海外への情報発信を強化するために英語コンテンツの拡充も計画されている。加えて導入したCMSを使用して教職員向けの新たなWebサイトを構築するなど学内向けの情報発信についても強化が行われている。

また各教員の教育実績や研究業績を管理するデータベースを新たなシステムに移行した。こちらもデータベースへの入力方法の講習会等を行うことで円滑に移行が完了した。新システムでは複数の外部データベースと連携が可能で、教員のデータベース入力の労力を大幅に削減することが可能になった。

サーバやネットワーク機器等の更新も定期的に行っており、より高速で安定したITインフラストラクチャの構築を進めている。対面・オンラインのハイブリッド授業やオンライン会議等も多く行われるようになったこともあって学内の通信量が増加している。そのため10GやmGigを導入してネットワークの増強を進めている、また更なる高速・安定通信を行うために無線LAN設備の更新も計画している。

(2) 広報活動

人文社会系研究科・文学部の広報活動は広報委員会が中心になって行っている。主な活動は、1) 多言語化されたホームページによる情報発信、2) 文学部概要パンフレットの作成、3) 高校生向けのオープンキャンパスの企画・実行、4) ホームカミングデイの企画・実行、5) 広報用カレンダーの作成、6) 全学広報との連携などであり、多岐にわたっている。

2022年度には、広報強化のため高校生向けに、文学部紹介動画「東大文学部を歩こう—ヴァーチャル研究室訪問」を新たに作成し、常時、ホームページから閲覧できるようにした。また、2023年度に行ったホームページのリニューアルを機に、情報の確実な発信と利用者の利便性向上のためのデザインの改善、https化によるセキュリティの強化、スマートフォンをはじめとした最新の閲覧環境への対応を行っている。

2023年度大江健三郎文庫の発足に関しては、ホームカミングデイの企画だけではなく、記者会見、プレスリリースを行い、情報発信を積極的に行った。

このような広報活動により、オープンキャンパスやホームカミングデイでは多くの方に参加いただき、さらに刊行物の発行やホームページの充実などにより、人文社会系研究科・文学部の活動が在校生、卒業生、一般の方々を問わず、広くご理解頂けるように努力を続けている。

<2022・2023年度オープンキャンパス企画> ※新型コロナウイルスの影響・熱中症対策のため、オンライン開催
2022年度

参加者数：オンライン研究室訪問 各研究室1枠約20名を25枠実施、模擬講義 約296名、特別企画 約172名
総計1000名（いずれも概数）

企画：1. オンライン研究室訪問 25専修課程で実施

2. 模擬講義 「プラトンはなぜシチリアに行ったのか？」 納富 信留（哲学）

3. 特別企画 「文学部の演習—卒業生が語ると!？」

司会：藤原 聖子（宗教学宗教史学）

登壇者：菊地 達也（イスラム学）

：木下 華子（国文学）

：藤井 光（現代文芸論）

：卒業生4名

4. 文学部紹介動画 「東大文学部を歩こう—ヴァーチャル研究室訪問」

5. 学部説明会 村本 由紀子（社会心理学）

2023 年度

参加者数：オンライン研究室訪問 各研究室 1 枠約 20 名を 27 枠実施、模擬講義 計約 445 名、特別企画 約 111 名
総計 1000 名（いずれも概数）

企 画：1. オンライン研究室訪問 27 専修課程で実施（複数回実施の研究室も有）

2. 模擬講義 ①「選択の自由、選択の不自由」 村本 由紀子（社会心理学）

②「小説を読む——ジェイン・オースティンの『高慢と偏見』」 新井 潤美（英米文学）

3. 特別企画 「文学部生の『ギャップ』——想像と現実、オンとオフ」

司会：中尾 千鶴（英語英米文学）

登壇者：三枝 暁子（日本史学）

：古田 徹也（倫理学）

：学部生 1 名、大学院生 3 名

4. 学部説明会 阿部 公彦（英語英米文学）

<2022・2023 年度ホームカミングデイ企画>

2022 年度

参加者数：約 56 名（29 名（会場）、27 名（オンライン））

企 画：文学部による地域連携の試み—人文学応用連携の促進を目指して

1. 学部長挨拶 秋山 聡 文学部長

2. 新宮市長挨拶 田岡 実千年 市長

3. パネルディスカッション

司 会： 藤原 聖子（宗教学宗教学史学）

登壇者： 太田 圭（常呂実習施設）

速水 盛康（新宮市教育長）

太田 泉 フロランス（次世代）

大向 一輝（次世代）

2023 年度

参加者数：約 140 名

企 画：大江健三郎を語る視座

1. 学部長挨拶 納富 信留 文学部長

2. パネルディスカッション

司 会： 柳原 孝敦（現代文芸論）

登壇者： 小野 正嗣（早稲田大学教授）

小川 公代（上智大学教授）

阿部 賢一（現代文芸論）

菊間 晴子（次世代）

7. 社会連携・公開講座

(1) 布施学術基金公開講演会

〈布施学術基金公開講演会「東洋の文化」第 29 回〉

布施学術基金公開講演会は、故布施郁三博士から人文社会系研究科・文学部に寄付された布施学術基金による、もつとも中心となる事業の一つであり、「東洋の文化」という共通テーマで毎年 1 回開催されている。

令和 4（2022）年 5 月 26 日午後 5 時から、本学名誉教授・五味文彦先生（日本史学）をお招きし、「疫病の社会史」と題して、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式による講演を行った。

日本で流行した疫病の事例を古代・中世・近世・近代と時代を追って紹介し、当時の人々が疫病にどのように向き合ったのかを豊富な資料とともに解説していただいた。疫鬼や疫神がもたらすと考えられた疫病を前に、人々は疫神退散の呪法などに頼むほかなかった。新型コロナウイルス感染症という疫病の世界的流行を経験した聴衆にとって、僧や法師陰陽師に祈祷を頼み、壁には厄除けの護符を貼るなど、疫病の難を逃れようと必死だった当時の人々の様子には共感できるところも多く、大変印象的な講演であった。

〈布施学術基金公開講演会「東洋の文化」第30回〉

布施学術基金公開講演会は、故布施郁三博士から人文社会系研究科・文学部に寄付された布施学術基金による、もっとも中心となる事業の一つであり、「東洋の文化」という共通テーマで毎年1回開催されている。

令和5（2023）年5月25日午後5時から、本学名誉教授・吉田光男先生（韓国朝鮮文化）をお招きし、「近世韓国地縁血縁考」と題して、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式による講演を行った。

近世韓国において、人々は集落や邑にたいして「我が地域」という意識をもたず、地縁の縛りは緩やかであった。一方、近世から近代にかけては、本来士族のものだった姓と本貫を非士族がもつようになり、ほぼ全ての人々が氏族となって男性血縁の系譜につながるようになったという。こうした、近世韓国の地縁や血縁の話以外にも、韓国社会の様々な事情について教えていただいた。また、先生が長年のご研究の中で収集された貴重な資料などについてもご紹介をいただき、聴衆にとって大変学びの多いご講演であった。

(2) 東京大学コリア・コロキウム

東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究専攻においては、教育研究活動を行うとともに、社会に対して当該地域に関する様々な情報を発信したいという希望のもと、2003年度から東京大学コリア・コロキウムという名で内外の専門家による公開講演会を年間数回の頻度で開催してきた。2023年度末までの21年間で計100回を数える。

本専攻設置21年目を迎える2022年度からは、これまでの実績を踏まえつつも、本専攻の教育研究活動とより密接に連携した形で伝統と現代の両面から韓国朝鮮の文化・社会に対する関心を喚起し、専門的な理解を深めるための機会として本事業を位置づけなおし、より積極的に展開することとした。韓国朝鮮の文化・社会研究に従事する多様な専門家から質の高い研究成果を提供していただき、それを広く社会一般に発信することによって、とくに政治や経済などに関心が偏りがちな当該地域に対する均衡の取れた理解を深めることを目指している。同時に、研究の裾野を拡げ、次世代を担う人材の養成の場としても機能することを意図している。

2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響を完全に払拭できないこともあり、前年度に引き続きZoomを利用したオンライン形式を余儀なくされたが、2023年度は対面とオンラインを併用したハイブリット形式で開催した。その実績は以下のとおりである。なお、各講演の内容（当日の講演を文字起こししたもの）については東京大学学術機関リポジトリに「東京大学コリア・コロキウム講演記録」として掲載されている。

2022年度

第1回 2022年6月17日（木） 18時30分～20時

講演者：木村 幹氏（神戸大学教授）

講演題目：地域研究とどう向き合うかー「外国」で「韓国」を研究する方法を考えるー

第2回 2022年10月7日（金） 18時30分～20時

講演者：板垣 竜太氏（同志社大学教授）

講演題目：『北に渡った言語学者』をめぐって

第3回 2022年12月16日（金） 18時30分～20時

講演者：李 義鍾氏（東京大学客員准教授）

講演題目：韓国語の真景ーコーパスが知っている私たちの知らないことー

2023年度

第1回 2023年7月13日（木） 18時30分～20時

講演者：三ツ井 崇氏（東京大学教授）

講演題目：朝鮮近代史叙述における「文化史」の位置づけをめぐってー植民地期を中心にー

第2回 2023年11月16日（木） 18時30分～20時

講演者：斎藤 真理子氏（翻訳家）

講演題目：韓国文学に見る都市再開発と不動産階級社会

第3回 2024年2月16日（金） 18時30分～20時

講演者：植村 幸生氏（東京藝術大学教授）

講演題目：20世紀前半における朝鮮宮廷音楽と日本人研究者ー田邊、兼常、石川の事業とその評価ー

(3) 常呂実習施設における公開講座／地域・社会連携

a ところ公開講座

東京大学文学部では、附属北海文化研究常呂実習施設の所在する北海道北見市（旧・常呂町）において2000年より公開講座を開催している。現在まで通算では28回になるが、地元自治体と共催での公開講座としては27回開催している。講師は基本的に文学部の教員であるが、一部他研究科の教員にも参加していただき、幅広い話題提供を心かけている。最近では、従来の一般向け以外に、常呂高校に於いて高校生を対象とした講演もおこなっている。（講師所属は講座開催時のもの）

◆第26回 東京大学文学部公開講座

〈常呂高校特別講座〉

2022年11月11日（金） 13:30 - 14:40 北海道常呂高校（共催）

「心の文化差」の探求」

村本 由紀子（東京大学 大学院人文社会系研究科 教授）

〈常呂公開講座〉

2022年11月11日（金） 18:30 - 21:30 常呂町公民館

「足尾銅山鉱毒事件と環境倫理」

堀江 宗正（東京大学 大学院人文社会系研究科 教授）

「日本語の地域差とその形成」

小西 いずみ（東京大学 大学院人文社会系研究科 准教授）

◆第27回 東京大学文学部公開講座

〈常呂高校特別講座〉

2023年10月6日（金） 13:30 - 14:40 北海道常呂高校（共催）

「言葉の「味」とは何だろう？」

阿部 公彦（東京大学 大学院人文社会系研究科 教授）

〈常呂公開講座〉

2023年10月6日（金） 18:30 - 21:30 常呂町公民館

「天皇号と日本国号の成立」

大津 透（東京大学 大学院人文社会系研究科 教授）

「認知心理学の視点から人間の内面に迫る」

浅野 倫子（東京大学 大学院人文社会系研究科 准教授）

b 「人文学における国際的地域・社会連携の推進」プログラムによる特集展示

人文社会系研究科では、2019年度から2023年度にかけて、東京大学未来社会協創推進本部登録プロジェクトである「人文学における国際的地域・社会連携の推進」プログラムを、常呂実習施設を中心に実施した。2023年度には、同プログラムの関連事業として特集展示「北の大地が育んだ古代 ―オホーツク文化と擦文文化―」を、本研究科・常呂実習施設と国立歴史民俗博物館の共催で下記のとおり開催した。

特集展示「北の大地が育んだ古代 ―オホーツク文化と擦文文化―」

会期：2023年11月14日～2024年2月12日 会場：国立歴史民俗博物館 第1展示室

この特集展示は、常呂実習施設による60年以上に及ぶ北見市常呂町での考古学研究と地域連携の成果を広く発信するために開催したもので、開催にあたっては共催の大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館のほか、北見市教育委員会の協力も得ることで、大学が国立博物館や地方自治体と連携して地域の学術文化資源の普及活用を図る機会としても機能した。特別展の具体的な成果は下記のとおりである。

観覧者数：入館者36,750人、展示解説会（2023/11/14）参加者40人、講演会（2023/12/09）聴講213人

展示解説動画配信：2本（視聴回数合計11,462回 [2024/03/19現在]）

報道：新聞記事掲載1回、新聞・雑誌・web等告知25回、ケーブルテレビ取材1回（放送期間2023/12/18～2024/03/17）

(4) 文学部公開講座

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部では、これまで北海道北見市で行ってきた「ところ公開講座」を、より多くの方に参加いただけるよう2011年度から本郷キャンパスにおいても「文学部公開講座」として開催することとし

た。これは、大学院人文社会系研究科・文学部において行われている教育及び研究の成果を積極的に公開していくとともに、社会連携をより一層深めることを目的としている。

◆第12回東京大学文学部公開講座 2022年6月11日(土) 14時-15時30分

「太宰治の文体—近代小説の「言」と「文」

講師：安藤 宏(国文学研究室)

参加者数：対面：約90名、zoom：約40名 (法文2号館1番大教室で対面及びzoom配信のハイブリッド開催)

◆第13回東京大学文学部公開講座 2023年6月24日(土) 14時-15時30分

「日本語の方言—過去・現在・未来—

講師：小西 いずみ(国語研究室)

参加者数：約140名 (法文2号館1番大教室)

(5) 人文学応用連携推進室関連地域連携プロジェクト

a 東大人文・熊野プロジェクトについて

2022年度の東大人文・熊野プロジェクトは、新型コロナ禍の沈静化に応じて、以下のような催しを開催した。

2022年5月14日 東大人文・熊野フォーラム in 新宮 (第2回) 『常呂と熊野—地域を繋ぐ試みとして』

2022年8月17～20日 新宮市中学生研修「東京大学で学ぶ熊野文化」(コロナ禍により中止・代替プログラムを催行、2023年8月上旬に催行予定)

2022年8月～9月 地域連携担当助教、新宮市文化複合施設丹鶴ホールに季節常駐開始

2022年9月23～26日 東大人文・院生/留学生熊野体験研修+東大人文・若手国際フォーラム in 新宮

2022年11月23日 東大人文・熊野フォーラム in 本郷 『羽黒と熊野II：聖地と絵図』

2023年1月～2月 地域連携担当助教、新宮市丹鶴ホールに季節常駐

2023年2月11～14日 東大人文教員熊野研修+『東大人文・熊野セミナー in 新宮 東大の授業をのぞいてみよう!』

2023年3月17日 UTokyo NY オフィス・イベント：Invitation to Kumano, with Etoki Performance: A Case of Regional Cooperative Activities of the University of Tokyo

加えて、8月7～10日開催の「東京大学体験活動プログラム：聖地熊野の歴史文化と自然を体験し、地域振興を考える」への全面的協力も行った。

いずれの催しも(延期となった新宮市中学生研修を除き)、新宮市ならびに熊野地方の複数の新聞紙において報道されており、地域住民の方々に我々の活動が浸透しつつある。当該年度における新たな試みとしては、東京大学ニューヨーク・オフィスにおける《那智参詣曼荼羅図》の絵解き実演を中核に置いての熊野文化についての海外における初めてのイベントが挙げられる。米国の大学ならびに美術館関係者の参加を得て、有意義な国際交流を行うことができ、また40年来新宮市の寺院から行方が分からなくなっていた仏像2体の所在が判明した。併せてメトロポリタン美術館において熊野関連作品2点の実見調査を行うことができ、地元の文化財研究の発展に資する新知見を得ることができた。

2022年度の潮田基金は、上記の東大人文・熊野プロジェクト関連事業の内、専ら、ニューヨークでの活動について活用させていただいた。この経験を基に、引き続き、国内諸地域はもとより、海外での活動を展開し、熊野文化ならびに人文学応用連携推進活動についての国際発信・国際化に努めたい。

2023年度の東大人文・熊野プロジェクトは、新型コロナ禍の沈静化もあり、以下のような多様な事業を催行した。

2023年5月28日 東大人文・熊野フォーラム in 新宮 『聖地と海』

2023年8月7～10日 新宮中学生東大研修(第一回、参加中学生17名)

2023年9月26日 国際シンポジウム *Dimensioni del Sacro tra Oriente e Occidente* (『聖性の諸相—東西比較の試み』)(於 フィレンツェ大学)

2023年10月29日 東大人文・熊野セミナー in 新宮 『大石誠二郎とその周辺』

2023年11月11日 新宮市ビブリオバトルへの協力(阿部公彦副研究科長講評等)

2023年12月9日 東大人文・熊野フォーラム in 島原 『山の信仰、きりしたん、温泉』

2024年2月18日 東大人文・院生/留学生熊野研修+東大人文・若手国際フォーラム

2024年3月19日 ベルギー、ゲント大学日本学科において熊野セミナー

2024年3月29～31日 フィレンツェ大学教員との熊野研修

加えて、8月28～31日開催の「東京大学体験活動プログラム：聖地熊野の歴史文化と自然を体験し、地域振興を考える」への全面的協力も行った。

いずれの催しも、新宮市ならびに熊野地方の複数の新聞紙において報道されており、地域はもとより県下においても人々に我々の活動が知られつつある。前年度、コロナ禍により延期されていた新宮市中学生東大研修を、新宮市から17名の中学生を招き、催行することができた。本学の教員や学生による座学や、構内施設見学、懐徳館での能楽ワークショップに加え、都内で熊野関連文物の見学や寺社訪問を行い、地元の文化的重要性の認識を高めてもらった。彼らのレポートは、新宮市丹鶴ホールにおいて公開され、多くの新たな気づきを与え、一部生徒は、本学進学を目指すようになったようである。また、フィレンツェ大学において《熊野観心十界図》の絵解き実演（イタリア語逐次通訳付き）を中核に置いた比較宗教文化についての国際研究集会の開催が挙げられる。フィレンツェ大学や近隣美術館・図書館関係者、文化財修復担当者等との研究交流の参加を得て、有意義な国際交流を行うことができ、2024年度にフィレンツェにおいて体験活動プログラムを催行する検討を進めることができた。国際発信・国際交流に関しては、フィレンツェ大学と連携しての活動を継続するとともに、ベルギーのアントワープ大学との連携推進を図っている。

なお、当該年度の活動により、我々の活動は新宮市近隣の自治体にも浸透しつつあり、今後、那智勝浦町や田辺市本宮町等との連携が推進される可能性が高まってきている。また、世界遺産認定20周年を迎える2024年度の記念行事や、現在進行中の地元諸自治体のスペインとの自治体との姉妹都市提携ともなう行事等にも協力を期待されている。

b 東大人文・淀江プロジェクトについて

東大人文・淀江プロジェクトは「日本海沿岸地域における考古学・歴史遺産の研究：鳥取県米子市淀江町域を中心として」として2022年4月に開始されたプロジェクトの略称である。寄付プロジェクトとして開始されたが寄付者の都合により2024年度からは米子市からの研究受託という形で進められる。主として日本海沿岸地域による文化交流史研究、若手研究者の育成と地域・社会連携の促進、文化財・歴史遺産の保護と活用等を目的とし、佐藤宏之名誉教授（特任研究員）をリーダーに、松田陽准教授、学外から佐古和枝関西外国語大学教授、前田昇むきばんだ応援団事務局長等がプロジェクトを推進している。これまでの主たる催しは以下の通りである。

- | | |
|-------------|--|
| 2022年7月16日 | キックオフシンポジウム「淀江の石馬と継体天皇：北陸と淀江を繋ぐ日本海交流」
淀江・さなめホール |
| 2022年11月12日 | 第一回市民講座「古墳時代の淀江：その個性と魅力」 |
| 2022年1月8日 | 第二回市民講座「継体大王と日本海文化：考古学の視点から」 |
| 2023年3月3日 | 特別講座「地中海のほとりと日本海のほとり：発掘調査と地域文化」
(青柳正規名誉教授による講演) |
| 2024年1月21日 | シンポジウム「長者ヶ平古墳を中心とした向山古墳群関連」 淀江・さなめホール |

c 東大人文・鶴岡セミナーについて

1946年以来、山形県鶴岡市の財団法人克念社（設立者風間幸右衛門氏）は、文学部への寄付を継続し、その累計金額は3050万円となる。今般、克念社からの長年の寄付活動を顕彰し、今後、克念社ならびに鶴岡市民の方々との交流を一層深めるべく、「鶴岡セミナー」という催しを開くこととなった。当該セミナーでは、様々な分野で多様な研究教育活動を行う教員・研究員等が、それぞれの専門分野を一般市民、また高校生や中学生にも分かるようなかたちで紹介する。初回は2023年11月18日に開催され、納富信留研究科長の開会挨拶、加藤隆宏准教授による趣旨説明の後、阿部公彦副研究科長が「英語はなぜ難しいのか 日本語はなぜ難しいのか」、八尾史准教授が「お経ではないお経の話ー「律蔵」とインドの僧院生活」と題した講演を行った。荻輪頼量教授が開会挨拶を、司会進行は崔境眞助教が担当した。

8. 現状の課題と将来に向けての展望

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部は、研究と教育の両面にわたり堅実な展開を遂げており、とりわけ2020年春から数年に及んだ新型コロナウイルス感染症による活動制限を乗り越え、2023年度には国内外での活動をほぼ以前と同程度に回復している。その間に、オンラインでの授業や会議など、新たなメソッドを取り入れ、コロナ後にも一定程度活用している。

研究科が置かれた状況における課題、及び将来への展望は、以下の4点で整理される。

(1) 研究・教育の国際化

人文系の研究は、個別の言語・文化に大きく依存し、歴史的背景を抜きには遂行できない。そのため、数理系や工学系の学問、あるいは経済学のように、使用言語にこだわらずに研究を世界標準にし、英語で研究発表や教育を行うという

一元化には馴染めない。他方で、大学の国際化が強く推進される中で、人文社会系の学問が全体的にどう振る舞うかが問われている。この問題は教育と研究の二面で検討される。

まずは教育に関して、日本での少子化傾向において、今後、大学生・大学院生における留学生比率を大幅に拡大する方向が求められている。本研究科ですでに受け入れている学部生・大学院研究生・大学院生はほとんどが日本語に堪能で、授業や研究において日本人学生と変わらない活動を行い、同様の研究成果を挙げている。だが、今後より広く海外からの学生を迎え入れ、東京大学の中で流動的な教育システムを作るためには、文学部・人文社会系研究科で英語など他言語での授業や研究指導を大幅に増やす必要がある。そのためには、現有教員の側でより一層の準備や対応が求められると共に、新たにそういった授業に対応する研究者・補助者の採用も積極的に図られるべきである。なお、日本語以外の授業や研究を行うにあたり、人文社会系は英語一元化にそのまま与することなく、多言語や多文化をできるだけ尊重するような姿勢を維持したい。

研究に関しては、個々の研究者や研究分野ですでに多様な国際的な発信や交流が進められているが、研究科内では対応にばらつきがあり、より積極的に国際的な場で活躍している教員・学生が多くいる分野がある一方で、そのような国際活動があまり見られない専門分野もある。概して、日本を研究対象とする専門領域では、あえて英語なりで議論や論文執筆することが必要なく、むしろ日本語での発信が求められ前提されている場合もある。しかし、それらの分野でこそ、国際的研究環境における外国語での発信が、今後より広い範囲で求められるはずである。人文社会系研究科では、そのような濃淡を超えて全体として一層の国際化を図るべく、2023年度から「国際人文学プロジェクト」を始めているが、長期的なビジョンで研究を推進する必要がある。

(2) 研究環境の改善

人文社会系研究科の各専門分野での研究・教育活動は、現在日本の国公立大学の中ではまだ比較的恵まれた状況にあると言えるが、東京大学の近年の財政状況の悪化、並びに物価高騰などから、状況は年々厳しさを増している。また、建築から90年近くになる法文1号館、法文2号館を中心に、本郷キャンパスでの研究室は広さにおいても、設備においてもあえて言えば劣悪な環境にあり、打開の見込みは立っていない。研究室ごとに違いはあるにしても、大学院生や訪問研究者が使える研究スペースがほとんどない、ないしは不十分な状況が続いている。教員研究室の相部屋状態も一部で残っている。本郷キャンパス内でのスペース不足は深刻で、共有スペースは借料を支払って使用することになる場面が増えている。そのため、研究スペース確保のためには外部資金などの獲得が必須であり、現有スペースの効率的運用のために、従来の部屋割りについても何らかの見直しが必要となる。

建築物そのものの改善は規模から言って容易ではないが、小規模の設備については、寄付金などを活用しつつ、できるだけ良好な環境作りにあたっていくべきであろう。

(3) 研究時間の確保

研究者にとって最も大切な研究時間の確保が大きな問題となっている。全学、及び研究科内の委員・入試などの業務はできるだけ公平になるよう最大限の配慮を払っている。だが、どうしても一部の教員や分野に過大な仕事が回ることがあり、とりわけジェンダーバランスから女性教員の負担が目立っている。この点では、特別研究期間の取得を優先させるなど、できるだけ公平を保つ対応が行われるべきであろう。教員全体での時間確保も大きな問題であるが、この点では、委員会等の整理により、不必要な会議時間を減らす努力がなされており、2023年度にはいくつかの部局委員会・ワーキンググループが廃止・統合された。会議は一定程度オンラインやメール審議でなされるが、人事委員会や入試業務をはじめとする重要会議は引き続き対面で行うべきであろう。今後さらに増える各種活動に対応するため、部局内で研究時間の確保をめぐる施策と議論が望まれる。

(4) 外部との共同態勢の拡大

人文社会系研究科は、30近い専門分野の間でより活発な交流や共同研究が進められるべきことは言うまでもない。他方で、兎角部局内で閉じられがちな研究連携を、他部局に開いていくため、各種の「連携研究機構」への積極参画や、他部局との協力体制の模索が一層図られるべきであろう。具体的には、地域連携の活動により広い領域の研究者・学生を巻き込むこと、国際化において多角的な基盤を準備することなどが考えられる。また、他大学や諸学会、大学以外の機関との連携なども模索される必要がある。とりわけ、昨今JST等のプロジェクトに加わる人文系研究者が増えているように、理科系の基盤で活動することが人文社会系の学問の将来にとって極めて重要である。

(文責・研究科長・学部長 納富信留)